

第2章 松原市の現況と健康状態

1 地理・気候

本市は大阪府のほぼ中央に位置しており、北は大和川を隔てて大阪市に接するとともに、西と南は堺市、東は羽曳野市、藤井寺市に隣接しています。また、市域は東西約5.8キロメートル、南北約5.1キロメートル、面積約16.66平方キロメートルで、大半が平坦地となっており、市内には西名阪自動車道や阪神高速道路松原線、国道309号線、中央環状線、近畿自動車道、阪和自動車道等が貫通し、南大阪における道路交通の要衝地として発展を続けています。

気候は、東に生駒山脈、西に大阪湾を控える大阪平野の中央東部に位置する地形的条件に作用され、一般に温暖となっています。

2 歴史

明治22年、町村制により、松原村、天美村、布忍村、恵我村が生まれ、明治29年に三宅村が中河内郡に属し、昭和17年7月に松原村、昭和22年に天美村がそれぞれ町になりました。

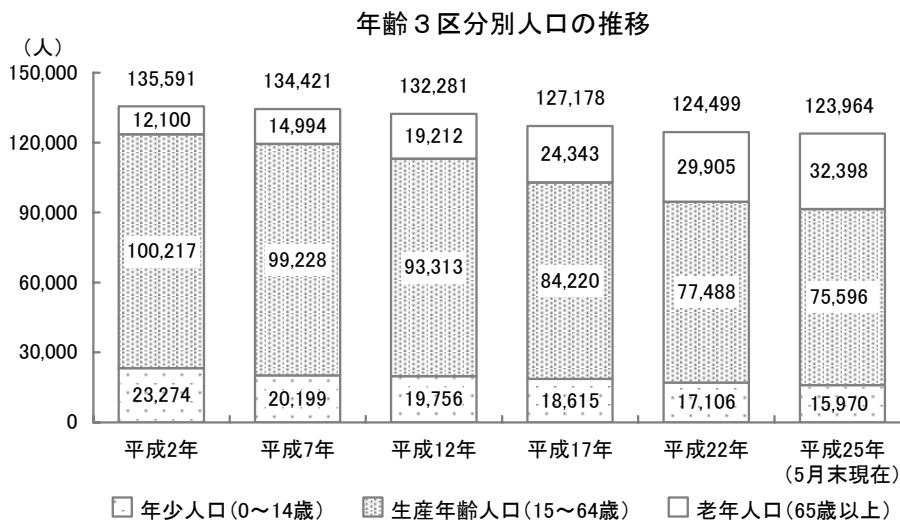
昭和30年2月、前2町3村が、町村合併促進法により合併して、府内21番目の市として、松原市が誕生しました。その後、美原町の丹南、堺市の河合を合併し、そして若林の一部が八尾市に編入され、平成27年2月には市政60周年を迎えます。

平成23年5月、“事故やけが等は、偶然起こるものではなく、予防できる”という理念のもと、行政や医療機関、自治会組織をはじめとした市民等多くの主体が協働してケガや事故の原因を取り除くことにより、人と人とのつながりを大切にしたい住みよい健やかなまちづくりを進める取組みであるセーフコミュニティ認証に向けた活動を始めました。平成25年11月にその認証を受け、真の協働とより安心・安全なまちを目指しています。

3 人口構成と推移

(1) 年齢3区分別人口の推移

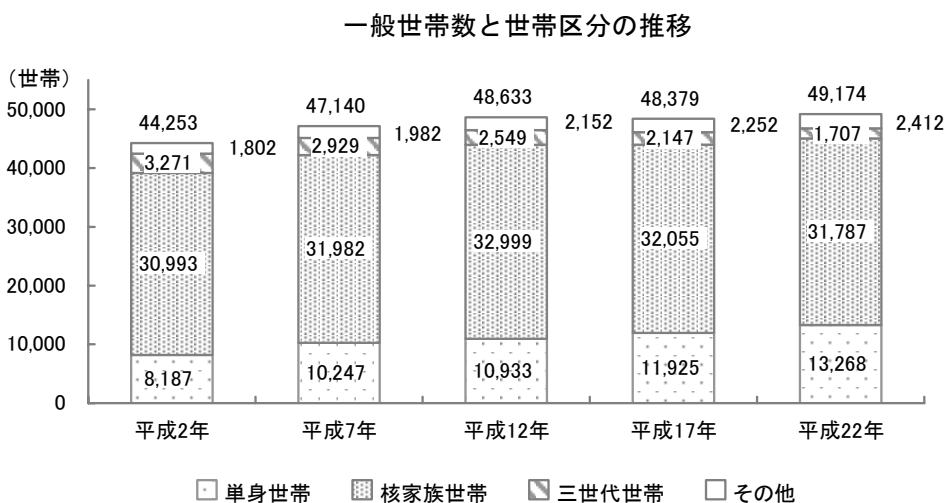
本市の人口は、減少傾向で推移しており、平成25年時点で123,964人となっています。その中で、老年人口（65歳以上）は増加しており、平成25年時点で32,398人（高齢化率26.1%）となっています。将来的には、さらなる人口の減少と高齢化の進行が予測されています。



資料：国勢調査
平成25年のみ住民基本台帳

(2) 世帯の状況

一般世帯数は、平成2年以降増加しています。世帯区分については、核家族世帯に大きな変化は見られませんが、単身世帯が年々増加しています。



資料：国勢調査

4 経済状況

(1) 産業構造と就業構造

就業内容をみると、第3次産業が64.8%を占めていますが、大阪府や全国に比べ、第2次産業の割合が高い特徴がみられます。第3次産業の中でも特に「卸売・小売業、飲食店」「サービス業」の割合が高くなっています。

産業大分類就業者数（15歳以上）

	松原市				大阪府	全国
	平成17年		平成22年		平成22年	平成22年
	実数	%	実数	%	%	%
総数	55,543	100.0	52,524	100.0	100.0	100.0
第1次産業	313	0.6	258	0.5	0.5	4.0
農業	308	0.6	254	0.5	0.5	3.6
林業	0	0.0	3	0.0	0.0	0.1
漁業	5	0.0	1	0.0	0.0	0.3
第2次産業	16,430	29.6	13,968	26.6	22.7	23.7
鉱業	1	0.0	0	0.0	0.0	0.0
建設業	5,619	10.1	4,371	8.3	6.8	7.5
製造業	10,810	19.5	9,597	18.3	15.9	16.1
第3次産業	37,279	67.1	34,059	64.8	68.7	66.5
電気・ガス・熱供給・水道業	219	0.4	247	0.5	0.4	0.5
運輸・通信業	4,088	7.4	3,927	7.5	8.9	8.1
卸売・小売業、飲食店	14,594	26.3	12,538	23.9	23.9	22.2
金融・保険業	1,255	2.3	1,035	2.0	2.6	2.5
不動産業	987	1.8	1,078	2.1	2.6	1.9
サービス業	14,833	26.7	13,999	26.7	27.9	27.9
公務	1,303	2.3	1,235	2.4	2.5	3.4
分類不能の産業	1,521	2.7	4,239	8.1	8.0	5.8

資料：国勢調査

(2) 住宅の状況

平成22年の住宅の状況は、「持ち家」が69.9%を占め、次いで「民営の借家」の割合が高くなっています。大阪府や全国に比べて「持ち家」の割合が高くなっています。

住宅種類別の一般世帯数

	松原市				大阪府	全国
	平成17年		平成22年		平成22年	平成22年
	実数	%	実数	%	%	%
住宅に住む一般世帯	47,690	100.0	48,817	100.0	100.0	100.0
持ち家	33,077	69.4	34,106	69.9	55.0	61.9
公営・公団・公社の借家	2,129	4.5	2,221	4.5	9.9	6.0
民営の借家	11,643	24.4	11,638	23.8	32.1	28.1
給与住宅	374	0.8	360	0.7	2.0	2.8
間借り	467	1.0	492	1.0	1.0	1.1

資料：国勢調査

(3) 所得水準

本市の所得水準をみると、大阪府平均より低い水準にあります。

自治体別所得指標（平成22年度）

	所得指標		一人当たりの所得		世帯 当たり 所得 (千円)	納税 義務者数 (人)	課税対象所得額 (千円)
	全国 平均 =100	府内 平均 =100	人口 (千円)	納税 義務者 (千円)			
大阪府	94.5	100.0	1,324	3,248	3,022	3,556,822	11,552,872,016
松原市	80.5	85.1	1,127	3,007	2,822	46,144	138,771,411

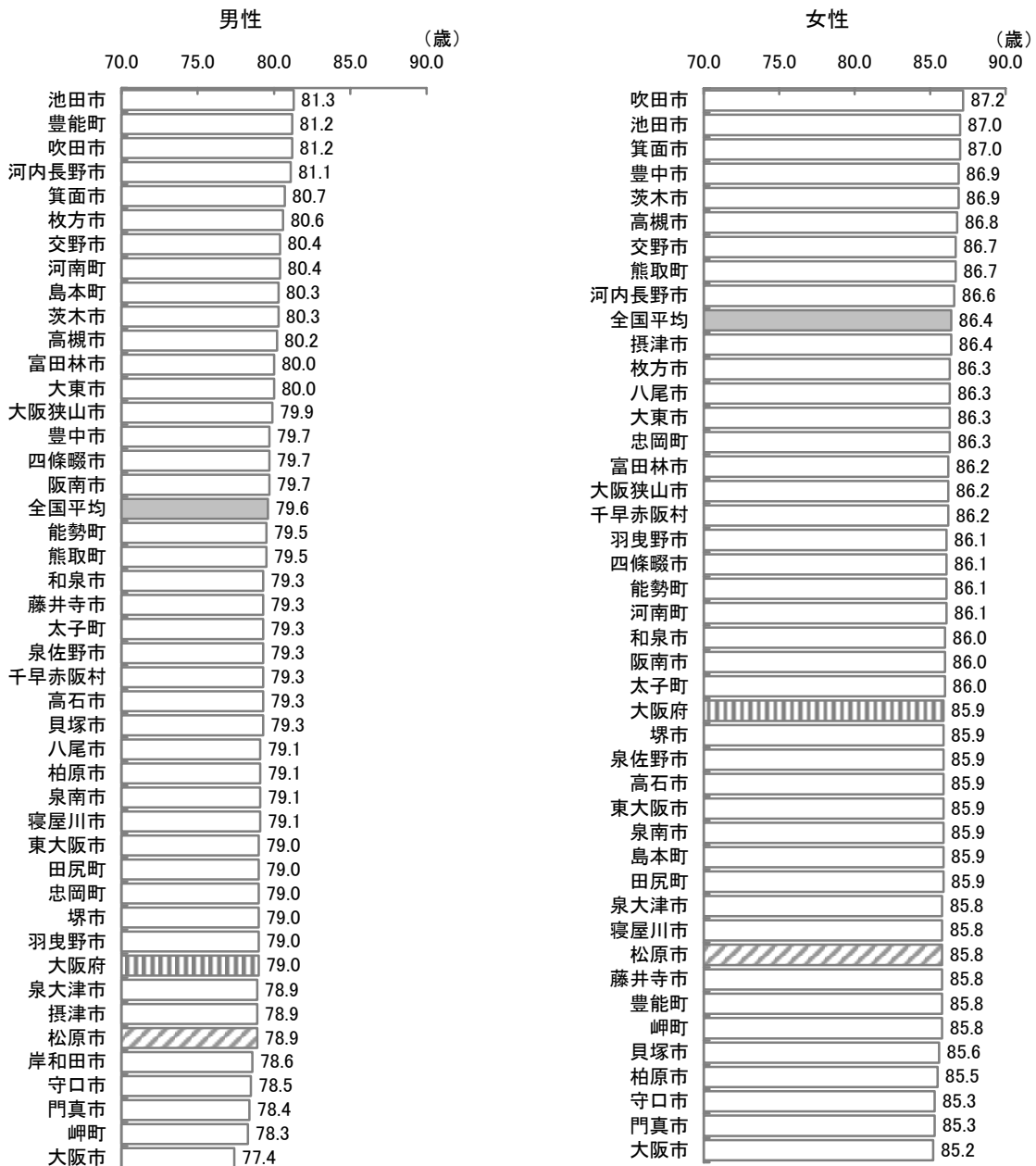
資料：総務省統計局

5 平均寿命と健康寿命

(1) 平均寿命

本市の平均寿命は、平成22年で男性78.9歳、女性85.8歳となっており、双方とも全国平均を下回っているものの、平成17年度の男性78.3歳、女性85.1歳より高くなっています。

府下自治体別平均寿命（平成22年）



資料：平成22年市区町村別生命表

(2) 健康寿命※

健康寿命は男性77.38歳、女性82.16歳であり、また、不健康な期間の平均である、健康寿命と平均寿命の差もそれぞれ1.41歳、3.19歳で大阪府より短くなっています。

平均寿命と健康寿命

	男性			女性		
	平均寿命 (A) (年)	日常生活動作が自立している期間の平均 (健康寿命) (B) (年)	不健康な期間の平均 (A-B) (年)	平均寿命 (A) (年)	日常生活動作が自立している期間の平均 (健康寿命) (B) (年)	不健康な期間の平均 (A-B) (年)
全国	79.64	78.17	1.47	86.39	83.16	3.23
大阪府	79.06	77.43	1.63	85.90	82.26	3.63
松原市	78.78	77.38	1.41	85.35	82.16	3.19

資料：大阪府健康医療部保健医療室健康づくり課

※健康寿命の算出方法について

本数値は、平成24年厚生労働科学研究補助金による「健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究」班により提供された、健康寿命の算定プログラムを用い、同研究班が提示する「健康寿命の算定方法の指針」（以下、「指針」という。）に基づき算出しています。

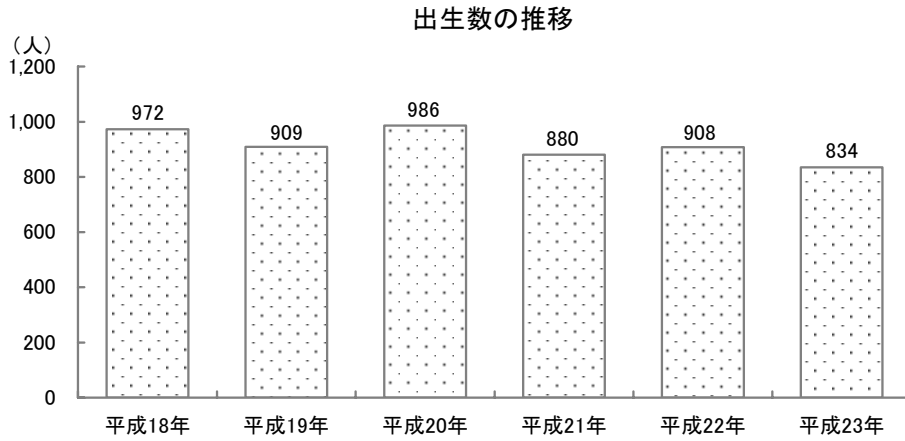
- ・要介護状態区分における「要介護2～5の認定者数」を「不健康者数」として用い、「日常生活動作が自立している期間の平均」を健康寿命として算出しています。
- ・なお、当市のような人口13万人未満の市町村については、指針に基づき、人口は平成22年の人口の3倍として計算し、死亡数については平成21～23年の3年間の合計として算出しているため、平均寿命についても、前ページの数値とは異なっています。

健康日本21（第2次）の推進に関する参考資料や第2次大阪府健康増進計画では、国民生活基礎調査の日常生活の制限に関する質問を用いて「日常生活に制限のない期間の平均」を算出し、健康寿命（大阪府 男性69.39年、女性72.55年）としています。市町村のデータを府や国と比較ができるよう今回の算出は指針に基づき算出しています。

6 出生・死亡の状況

(1) 出生数の推移

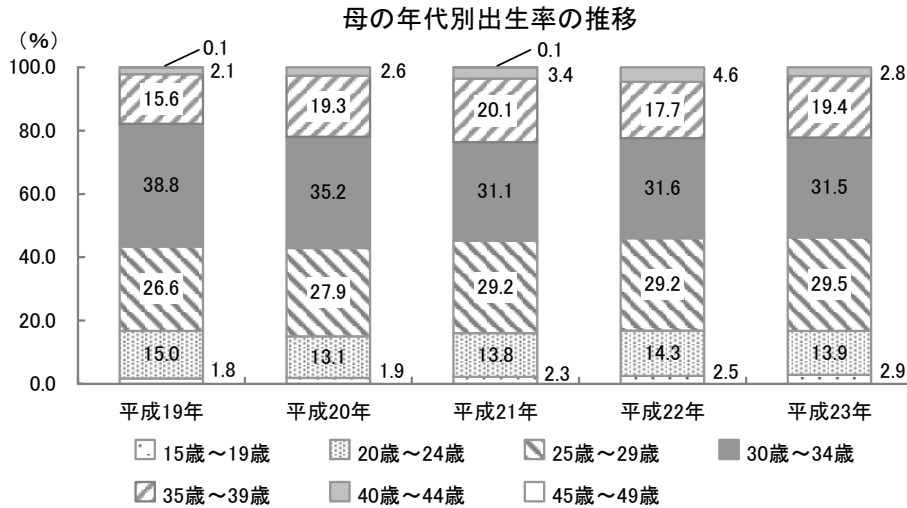
出生数は減少傾向にあり、平成23年は834人となっています。



資料：人口動態統計

(2) 母の年齢階級別出生率

母の年代別出生率をみると、30～34歳は、平成19年で38.8%から平成23年で31.5%に減少しており、15歳～19歳は1.8%から2.9%に増加しています。



母の年代別出生数

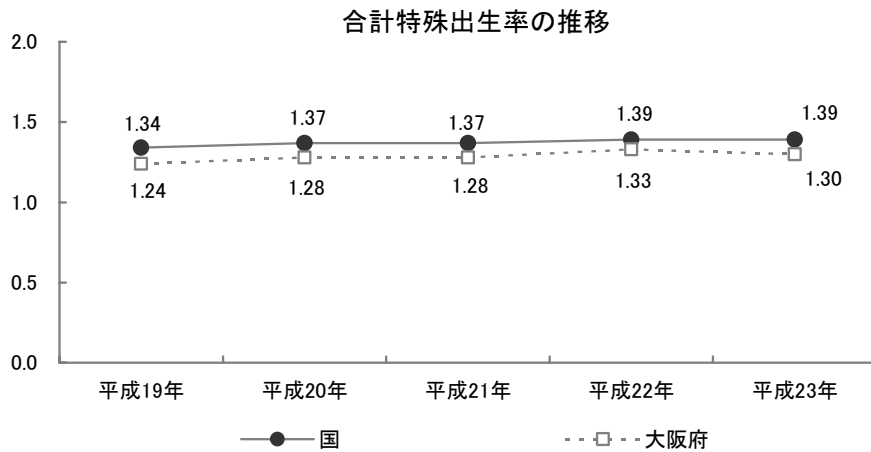
単位：人

	14歳以下	15歳～19歳	20歳～24歳	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	40歳～44歳	45歳～49歳	50歳以上	総数
平成19年	0	16	136	242	353	142	19	1	0	909
平成20年	0	19	129	275	347	190	26	0	0	986
平成21年	0	20	121	257	274	177	30	1	0	880
平成22年	0	23	130	265	287	161	42	0	0	908
平成23年	0	24	116	246	263	162	23	0	0	834

資料：人口動態統計

(3) 合計特殊出生率の推移

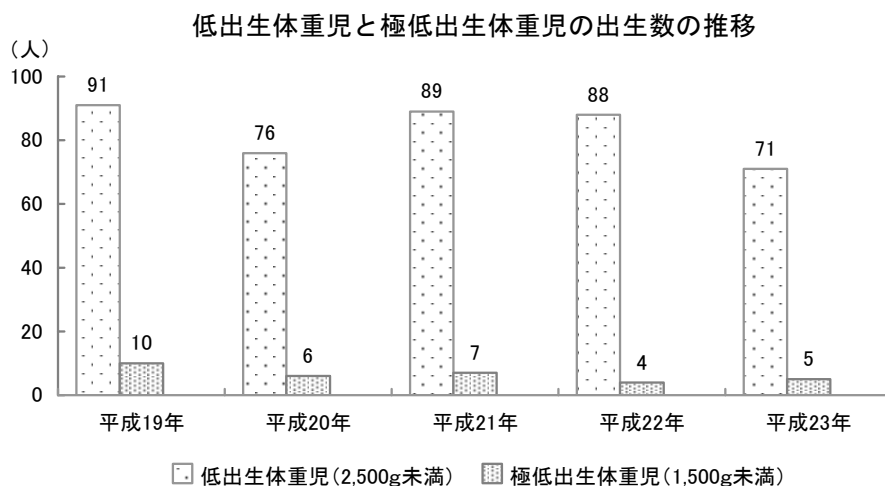
合計特殊出生率は、国、大阪府ともに緩やかな増加傾向にあり、平成23年は国で1.39、大阪府で1.30となっています。



資料：人口動態総覧

(4) 低出生体重児の出生数の推移

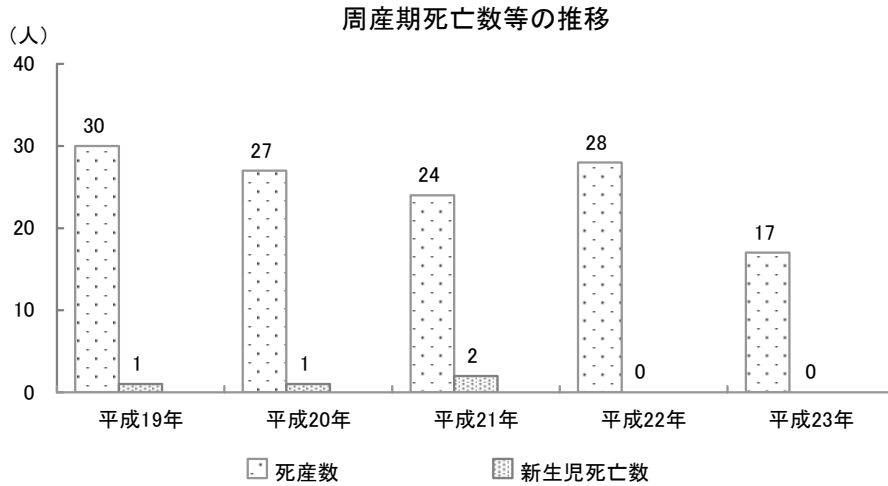
低出生体重児の出生数は平成21年以降減少しており、平成23年に71人となっています。また、極低出生体重児の出生数は平成23年で5人となっています。



資料：人口動態総覧

(5) 周産期死亡数等の推移

死産数、新生児死亡数は年々減少しており、平成23年では死産数が17人、新生児死亡数は0人となっています。

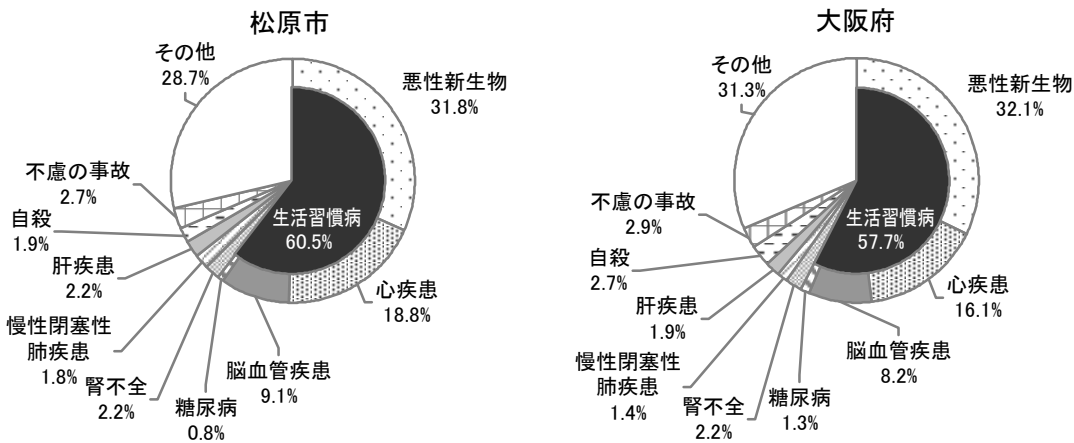


資料：人口動態統計

(6) 死因別死亡割合

死因別死亡割合は、悪性新生物による死亡が31.8%と最も高い割合を占めており、生活習慣病による死亡（悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、糖尿病）は60.5%となっています。また、大阪府と比べると生活習慣病による死亡が高くなっています。

平成22年 死因別死亡割合



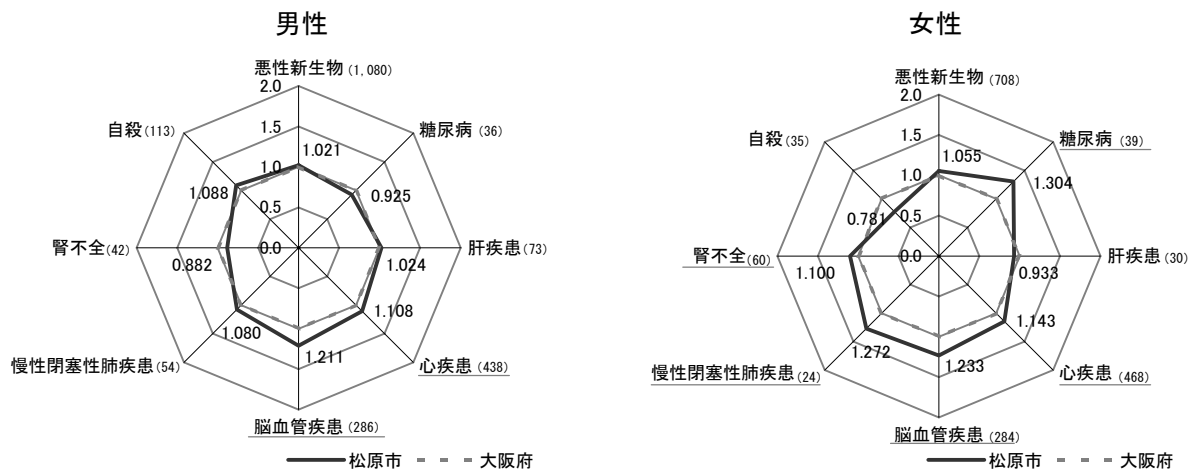
資料：人口動態統計

(7) 標準化死亡比

男性の標準化死亡比は、大阪府に比べて「心疾患」「脳血管疾患」が1.10以上と高くなっています。

女性の標準化死亡比は、大阪府に比べて「糖尿病」「心疾患」「脳血管疾患」「慢性閉塞性肺疾患」「腎不全」が1.10以上と高く、特に「糖尿病」は1.304と高くなっています。

平成17年～平成21年 死因別標準化死亡比

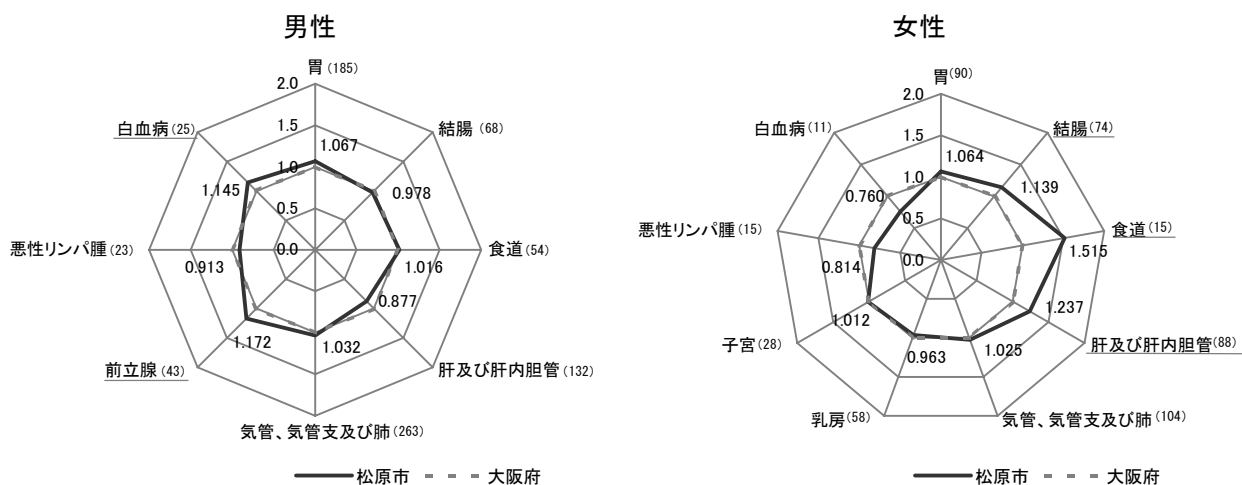


資料：人口動態統計

※ () は平成17年～平成21年の死亡数の合計

悪性新生物部位別標準化死亡比は、大阪府に比べて男性では「前立腺」「白血病」、女性では「結腸」「食道」「肝及び肝内胆管の悪性新生物」が1.10より高くなっています。

平成17年～平成21年 悪性新生物部位別標準化死亡比



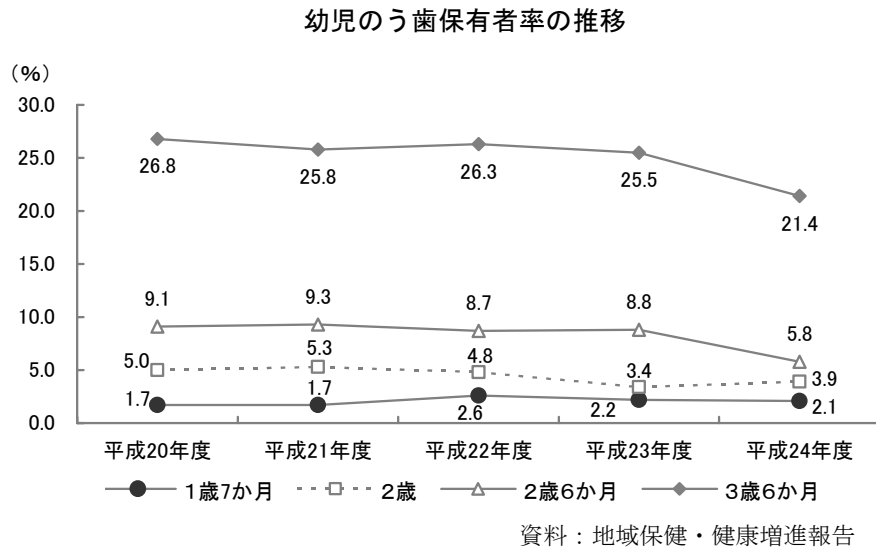
資料：人口動態統計

※ () は平成17年～平成21年の死亡数の合計

7 児童・生徒の健康状況

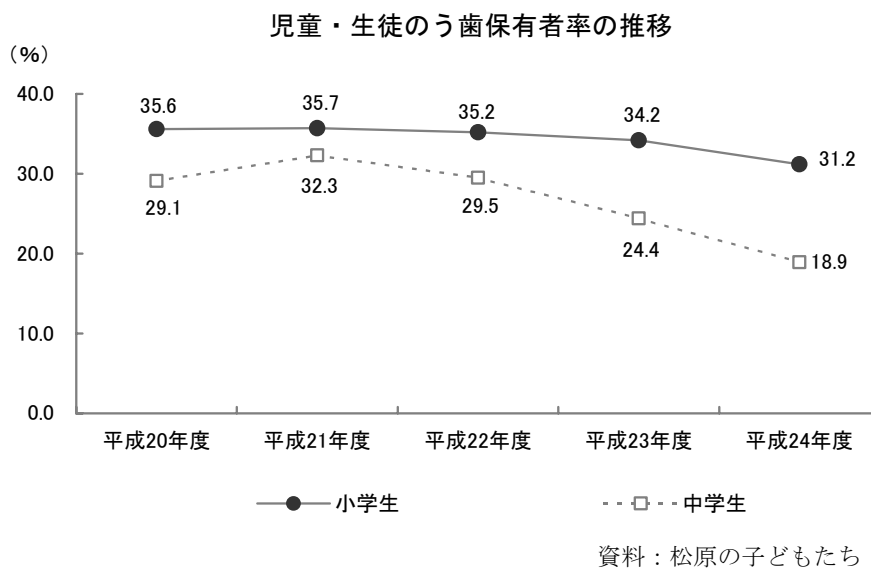
(1) 幼児のう歯保有者率

幼児のう歯保有者率は、年齢とともに高くなっていますが、推移をみると、減少傾向にあります。平成24年度では、特に3歳6か月児のう歯保有者率が減少しており、21.4%となっています。



(2) 児童・生徒のう歯保有者率

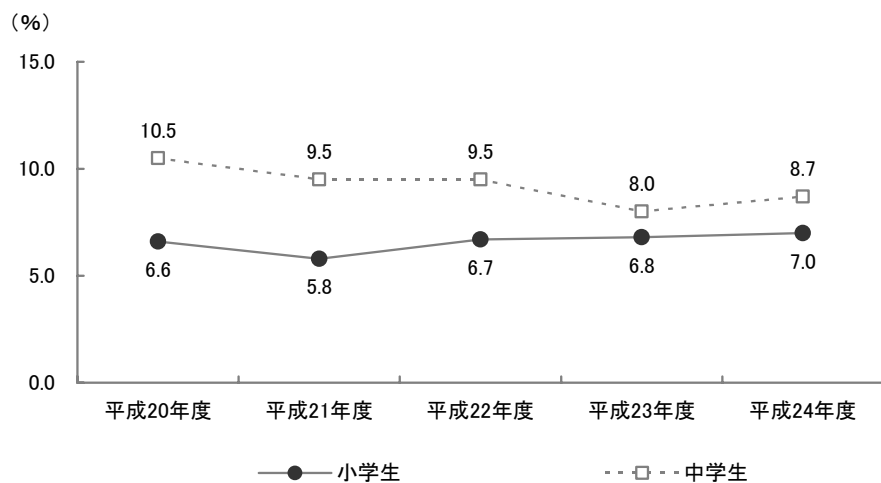
児童・生徒のう歯保有者率は、中学生に比べて小学生が高くなっています。推移をみると、小学生、中学生ともに減少傾向がみられ、平成24年度では小学生が31.2%、中学生が18.9%となっています。



(3) 児童・生徒の肥満傾向

肥満傾向のある児童・生徒の割合は、小学生に比べて中学生が高くなっています。推移をみると、小学生で緩やかな増加傾向がみられます。平成24年度の肥満傾向のある児童・生徒の割合は、小学生で7.0%、中学生で8.7%となっています。

肥満傾向のある児童・生徒の割合の推移

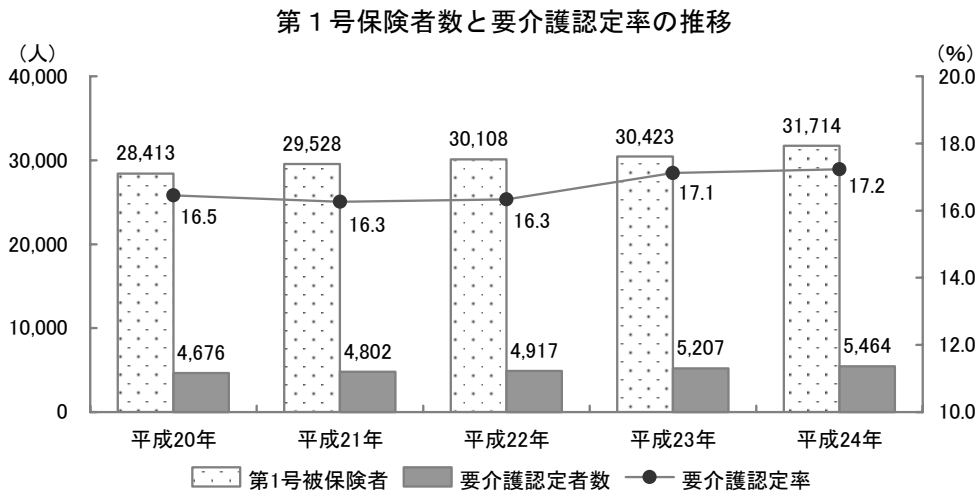


資料：松原の子どもたち

8 高齢者の状況

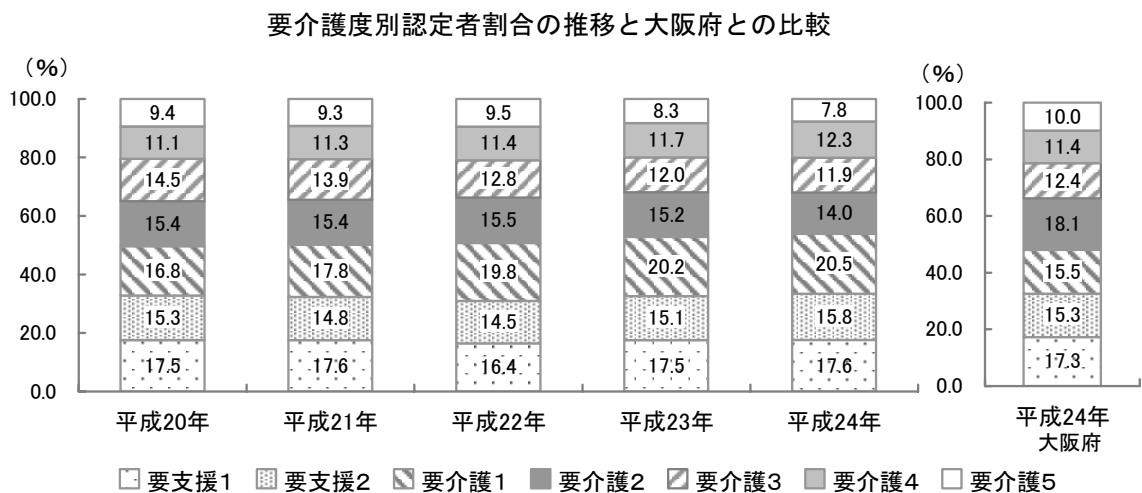
(1) 要介護認定率の推移

第1号被保険者数は年々増加しており、平成24年には31,714人となっています。また、要介護認定率は特に平成23年に増加し、平成24年には17.2%となっています。



(2) 要介護度別認定者割合の推移

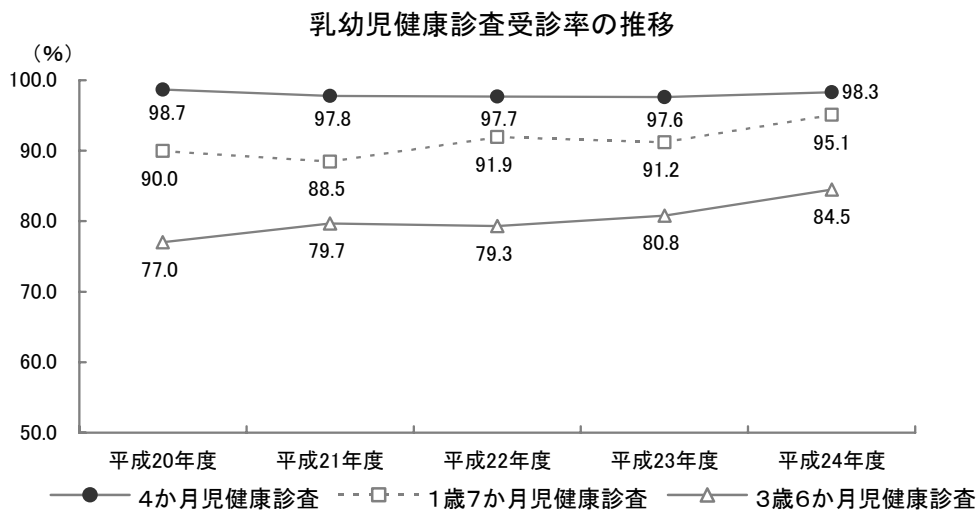
要介護認定者の要介護別認定者割合をみると、要介護1が増加しています。また、大阪府に比べても、本市は要介護1の認定者割合が高くなっています。



9 健康診査（検診）受診状況

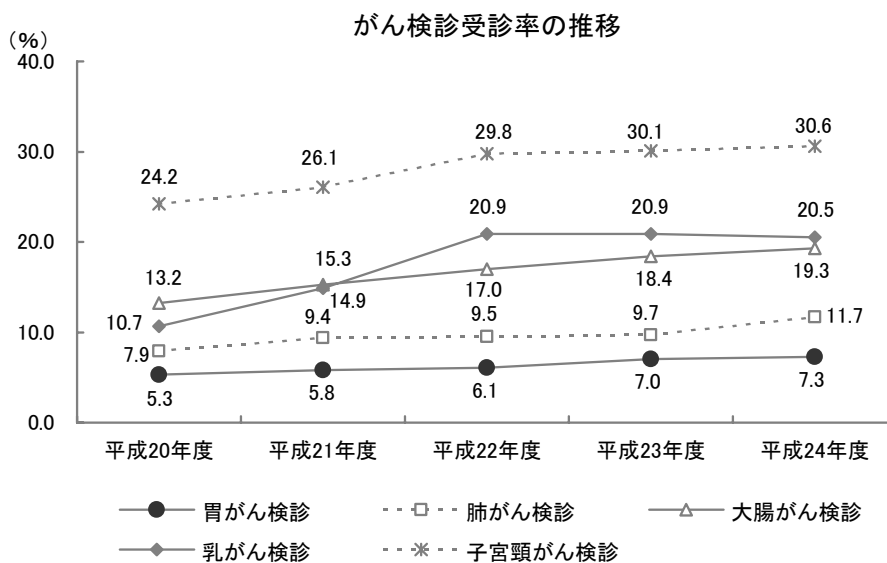
(1) 乳幼児健康診査の受診状況

乳幼児健康診査受診率は、4か月児は受診率が各年で9割以上となっており、3歳6か月児の受診率は年々増加しており、平成24年度で84.5%となっています。



(2) がん検診の受診状況

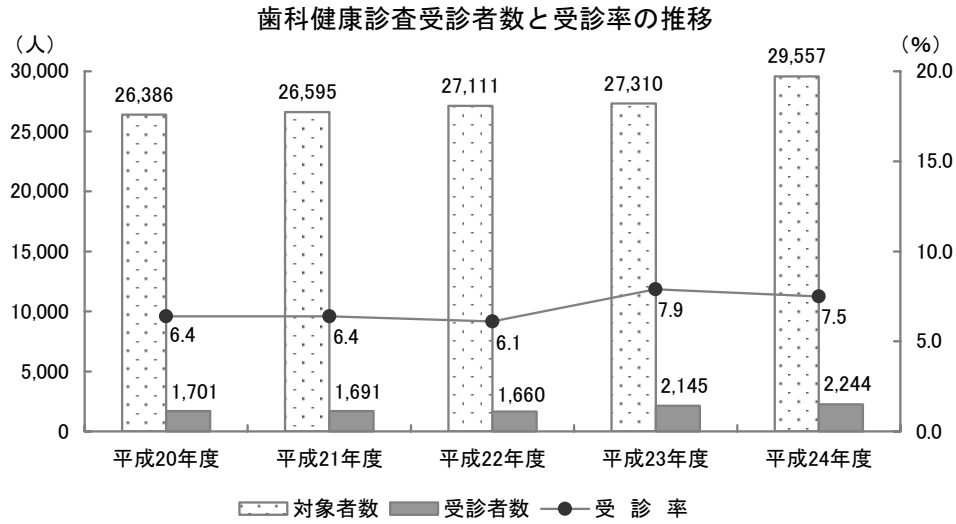
各種がん検診の受診率は、全体的に増加傾向にあります。乳がんは平成22年度をピークに横ばいとなっています。また、平成24年度より前立腺がんの検診が開始され、受診者は3,821人でした。



※平成21年 がんの助成クーポン検診を開始
 平成24年 乳がん個別検診、前立腺がん検診開始

(3) 歯科健康診査の受診状況

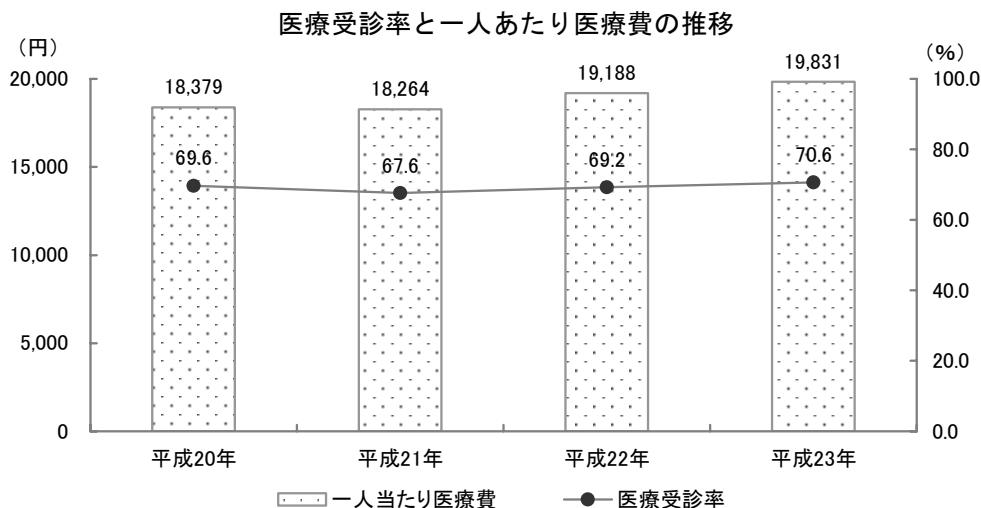
歯科健康診査の受診者は、増加傾向にあり、平成24年度には80歳を新たに対象に加え、受診者数は2,244人、受診率は7.5%となっています。



10 国保レセプトからみた疾病構造、受療状況

(1) 医療受診率と一人あたり医療費の状況

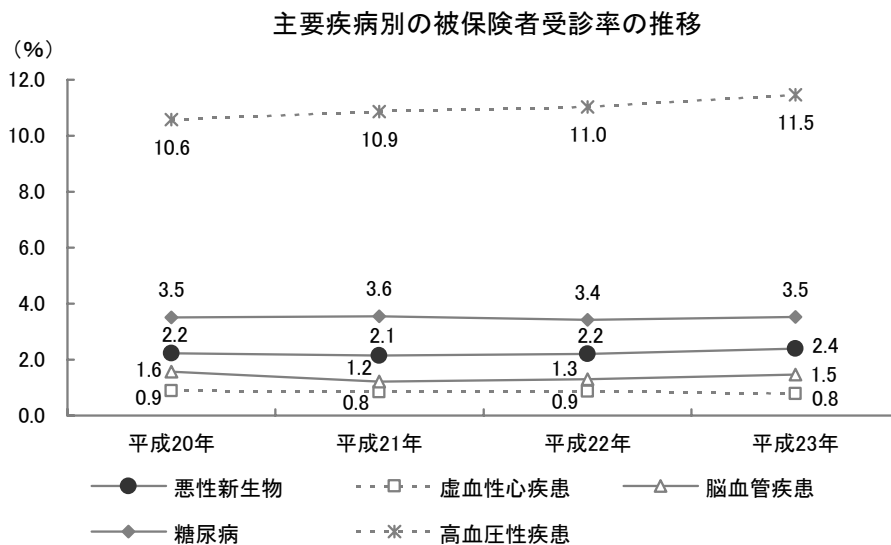
医療受診率はほぼ横ばいとなっていますが、一人あたりの医療費は年々増加しており、平成23年には19,831円、医療受診率は70.6%となっています。



資料：疾病分類統計

(2) 主要疾病別受診率の状況

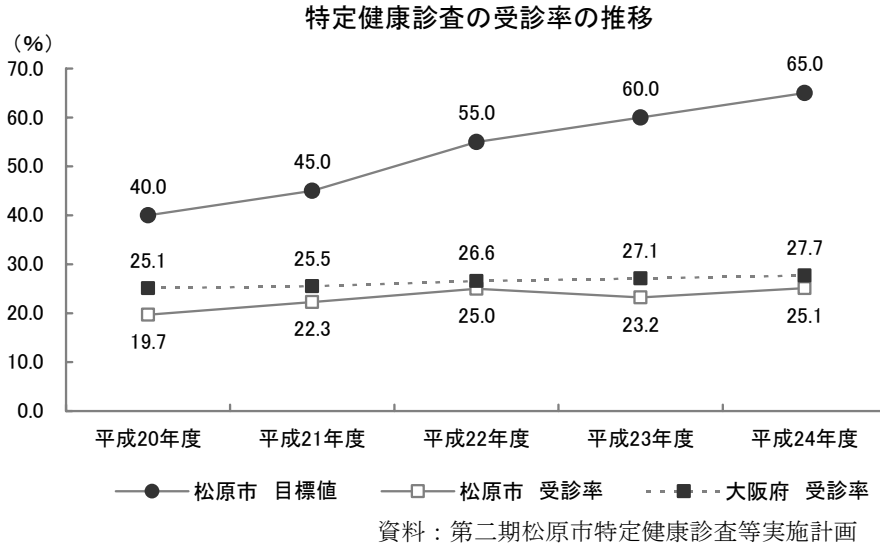
悪性新生物、虚血性心疾患、脳血管疾患、糖尿病、高血圧性疾患について、平成23年診療分における受診率をみると、高血圧性疾患が11.5%と最も高く、次いで、糖尿病が3.5%となっています。主要疾病において、高血圧性疾患は、年々受診率が増加しています。



資料：疾病分類統計

(3) 特定健康診査受診率の状況

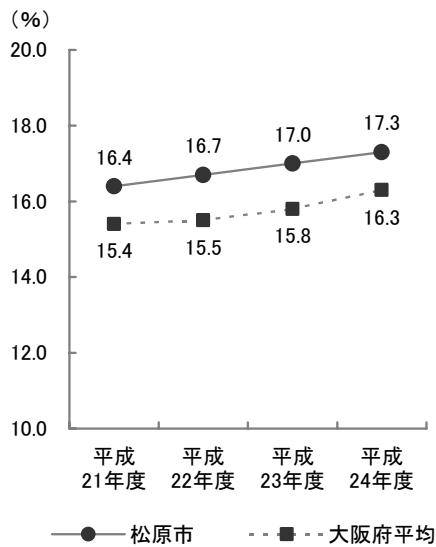
特定健康診査の受診率は各年度とも目標値に達しておらず、平成24年度の受診率は25.1%となっています。



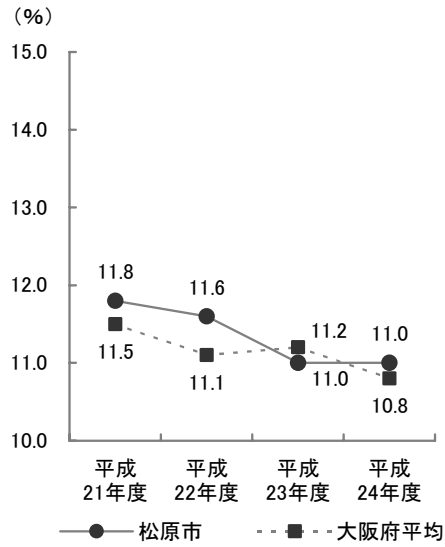
(4) メタボリックシンドローム該当者・予備群の推移

メタボリックシンドローム該当者の割合は、大阪府の平均より高くなっており、年々増加しています。一方、メタボリックシンドローム予備群の割合は減少傾向です。

メタボリックシンドローム該当者の割合



メタボリックシンドローム予備群の割合



資料：第二期松原市特定健康診査等実施計画

1 1 アンケートからみた市民健康状態

本計画を策定するにあたり、市民の健康や生活習慣の実態等を把握するためのアンケート調査を実施しました。

松原市 市民の健康と生活習慣に関する アンケート調査結果 概要

①調査対象

(市民) 松原市内の20歳以上の3,000人を無作為抽出
(中学生) 松原市内の公立中学校2年生1,214人

②調査期間

(市民) 平成25年7月10日から平成25年7月26日
(中学生) 平成25年7月8日から平成25年7月19日

③調査方法

(市民) 郵送による配布・回収
(中学生) 学校を通じて直接配布・回収

④回収状況

	配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
市民	2,988 通 (未着 12 通)	1,519 通	1,519 通	50.8%
中学生	1,196 通 (未着 18 通)	752 通	736 通	61.5%

⑤調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数(N)を基数とした百分率(%)で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計(全体)の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものに網かけをしています。(無回答を除く)

*取組みの参考として、関係団体・職員867人を対象に同様のアンケートを実施。

1) 栄養・食生活

(1) 肥満とやせの現状

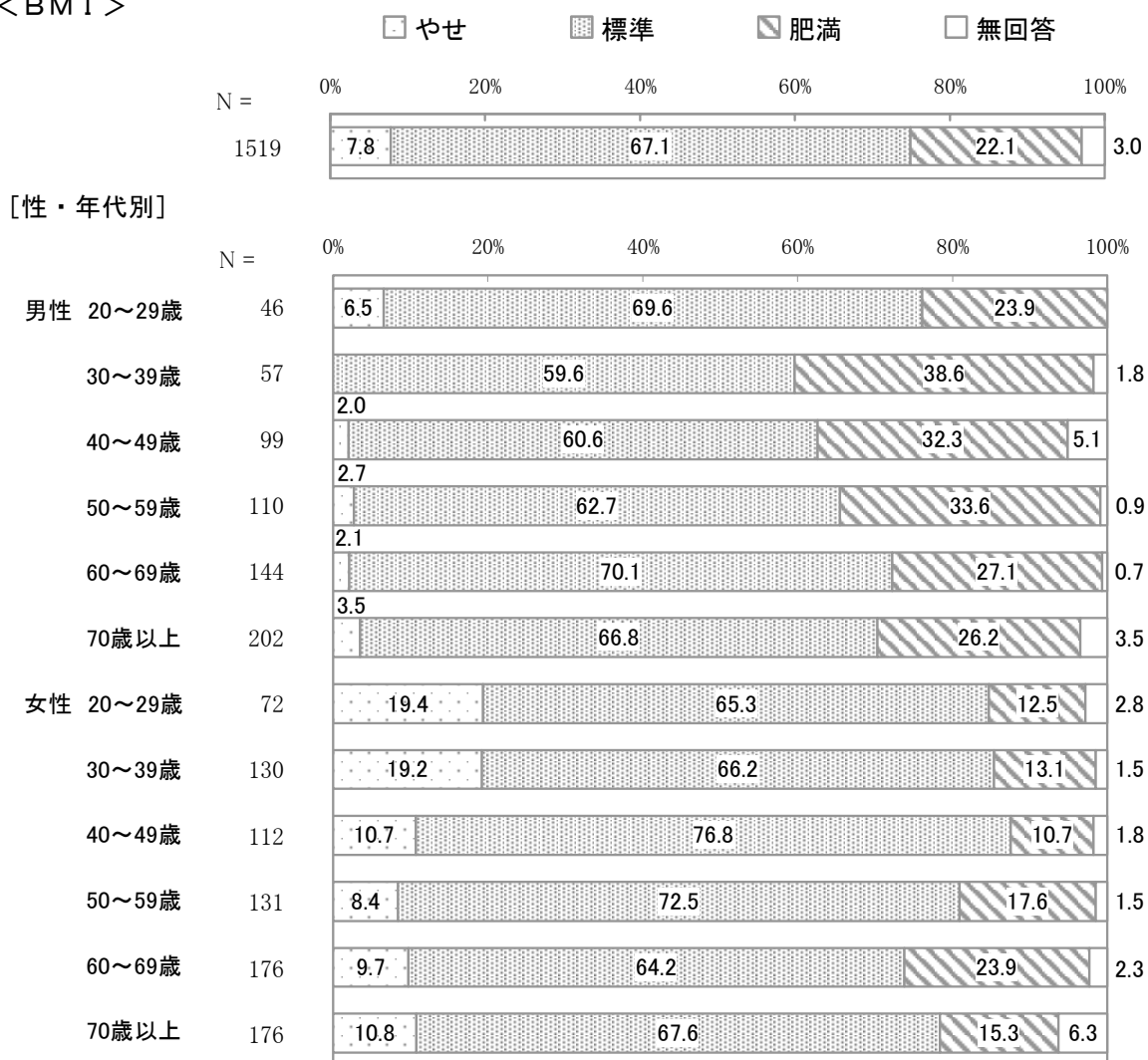
① BMI等 (やせ: BMI < 18.5、肥満: BMI ≥ 25.0)

【成人】

- ・肥満の割合は、男性では30～50歳代で高く、3割を超えています。女性では60歳代で高く、23.9%となっています。
- ・やせの割合は、女性の20、30歳代で他の年代に比べ高くなっています。

指標関連項目

< BMI >

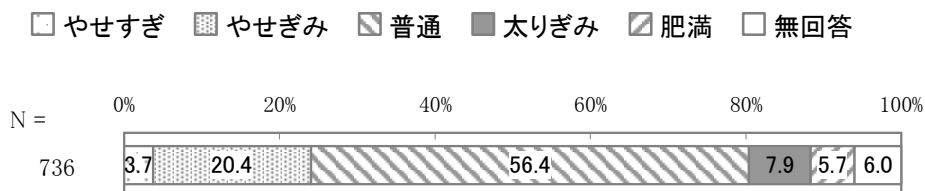


【中学生】

- ・中学生の肥満度について、「太りすぎ」「肥満」を合わせた割合が13.6%、「やせすぎ」「やせぎみ」を合わせた割合が24.1%となっています。

指標関連項目

<日比式肥満度>



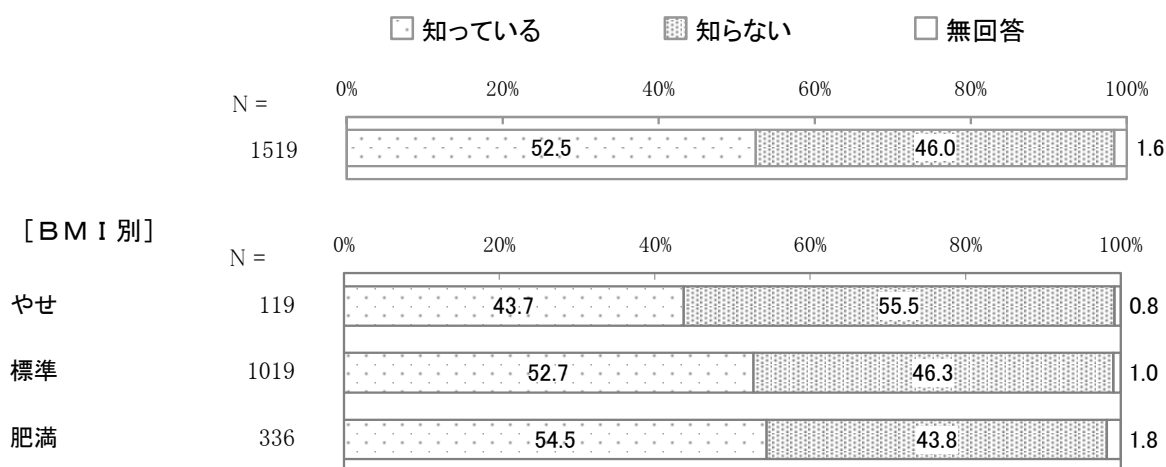
② 適正体重の維持

【成人】

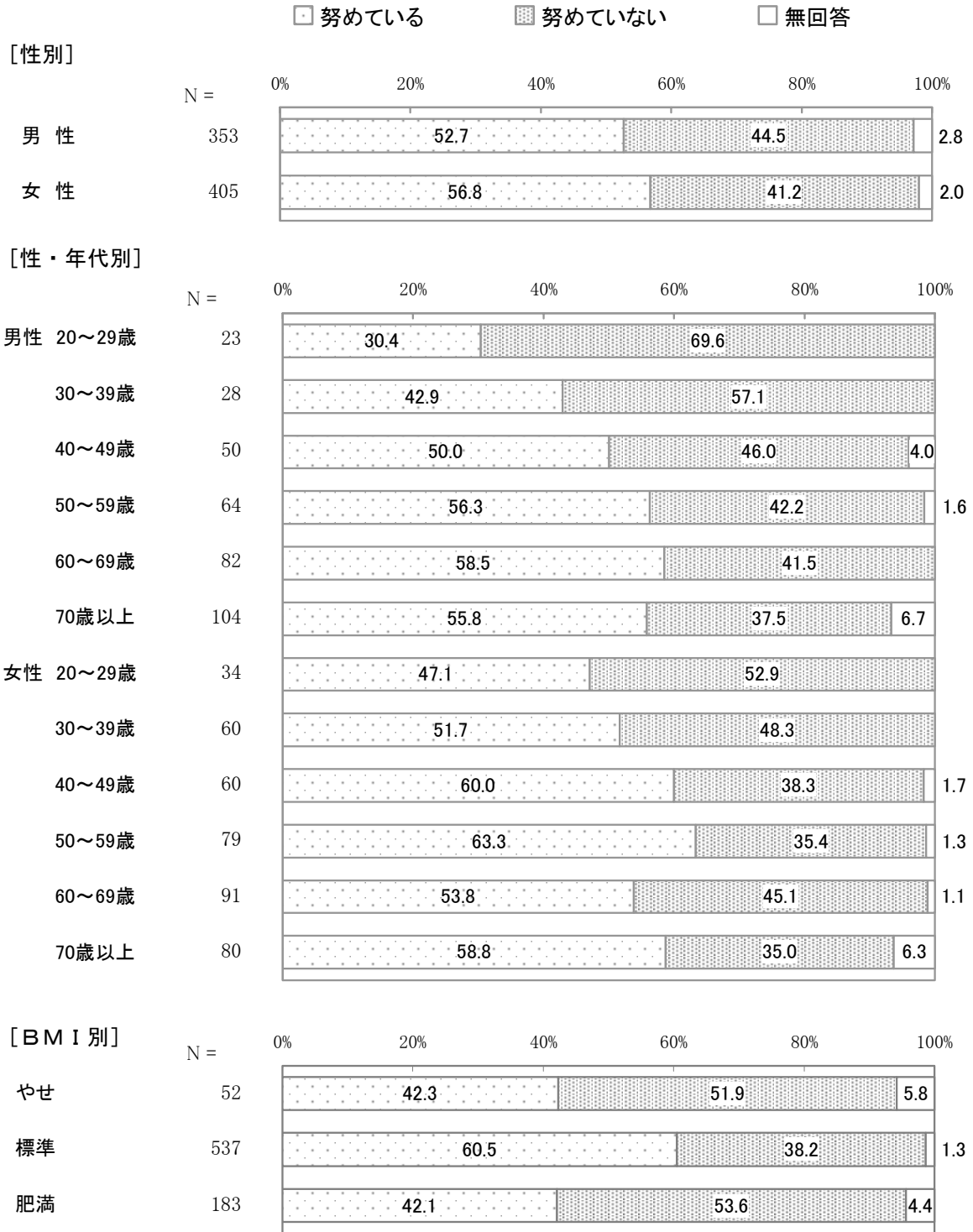
- ・自分の標準体重の認知度は52.5%、BMI別にみると、標準の人に比べ、やせの人で認知度が低くなっています。
- ・男性では年齢が低くなるにつれて標準体重は知っているが、体重コントロールに努めていない人の割合が高く、特に20歳代は努めていない人が69.6%となっています。
- ・BMI別にみると、標準の人に比べ、やせ、肥満の人で体重コントロールに努めている割合が低くなっています。

指標関連項目

<自分の標準体重の認知度>



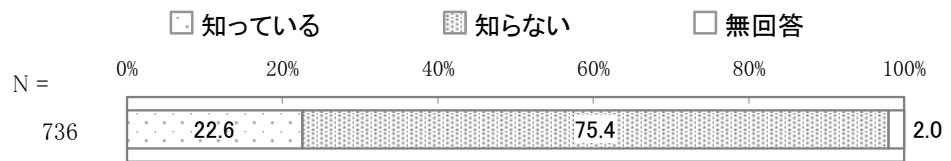
<自分の標準体重を知っている人の体重コントロールに努めている状況>



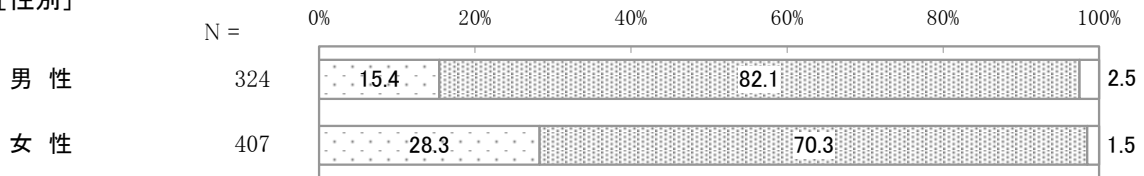
【中学生】

- ・自分の標準体重の認知度は22.6%となっており、女性で認知度が高くなっています。
- ・肥満度が普通の人約3割は自身を太っていると感じており、51.1%の人がやせたいと思ったことがある状況です。
- ・ダイエット経験者は15.8%となっており、女性で高くなっています。
また、ダイエット経験者のうち、67.2%が12～13歳にかけて初めてダイエットをしています。

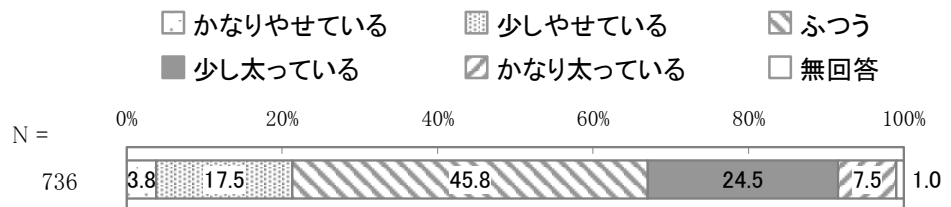
<自分の標準体重の認知度>



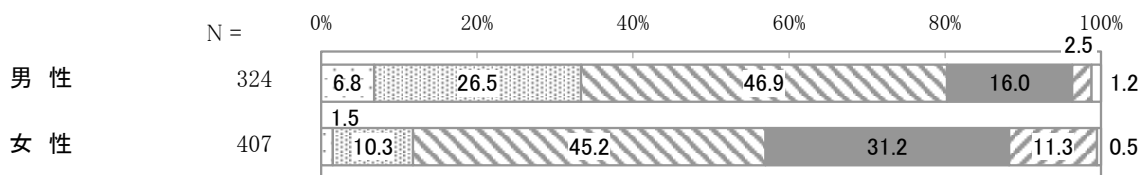
[性別]



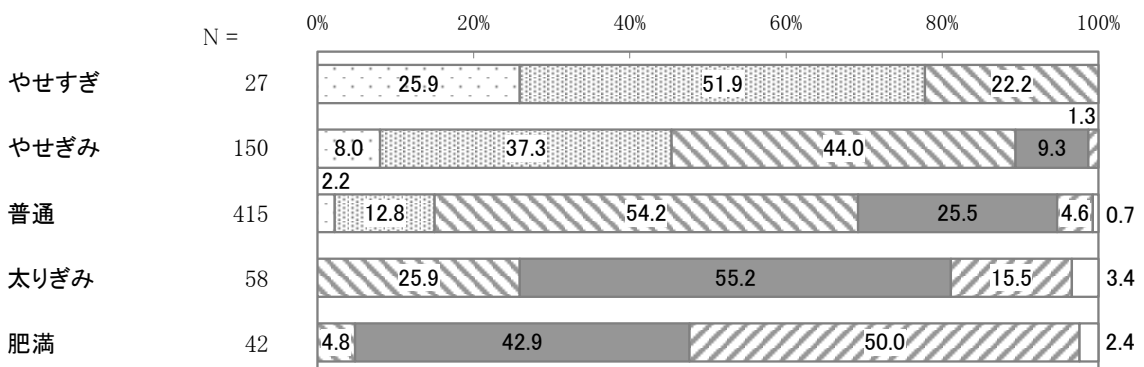
<自分の体型について>



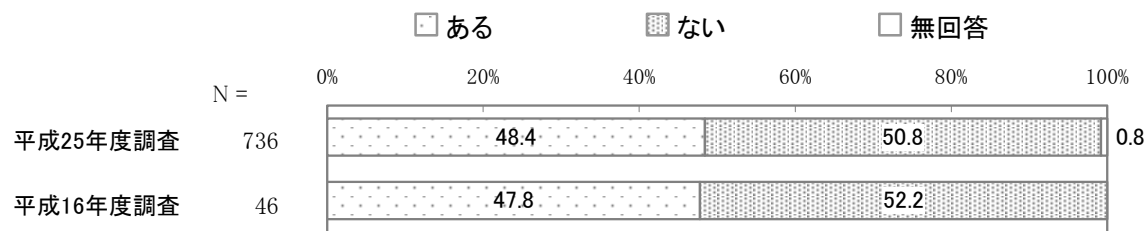
[性別]



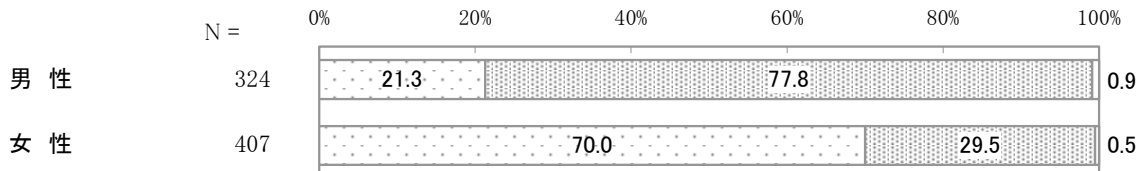
[日比式肥満度別]



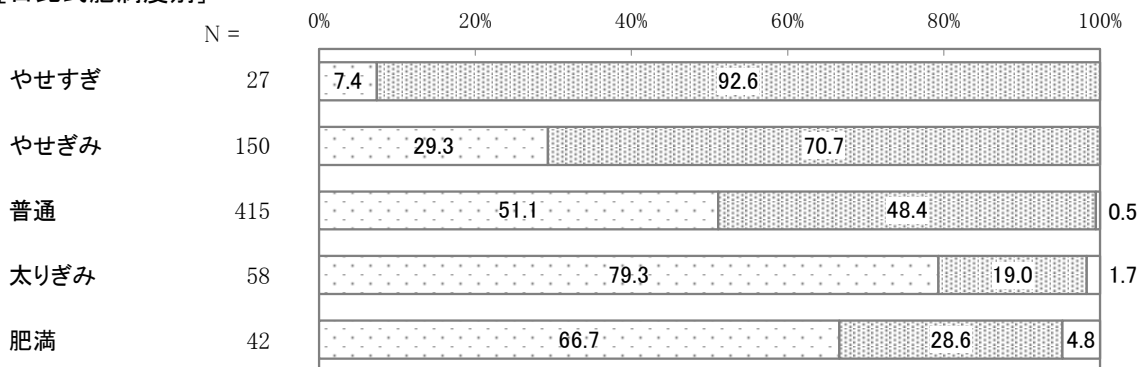
<「やせたい」と思ったことの有無>



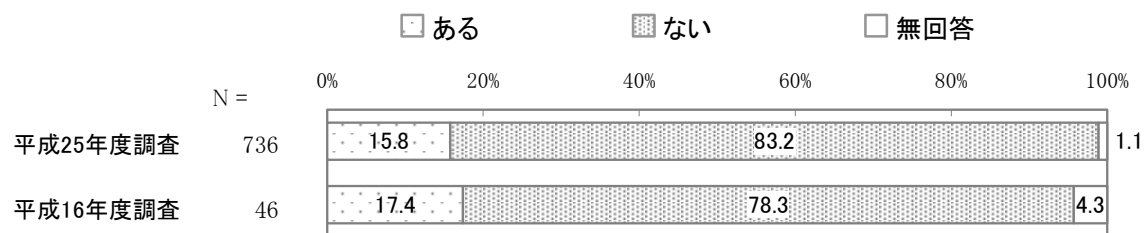
[性別]



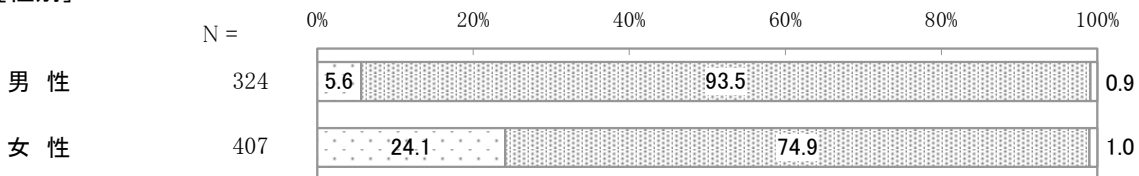
[日比式肥満度別]



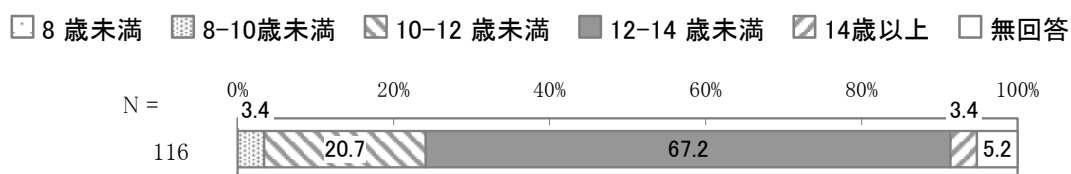
<ダイエットの経験の有無>



[性別]



<ダイエットを経験した年齢>



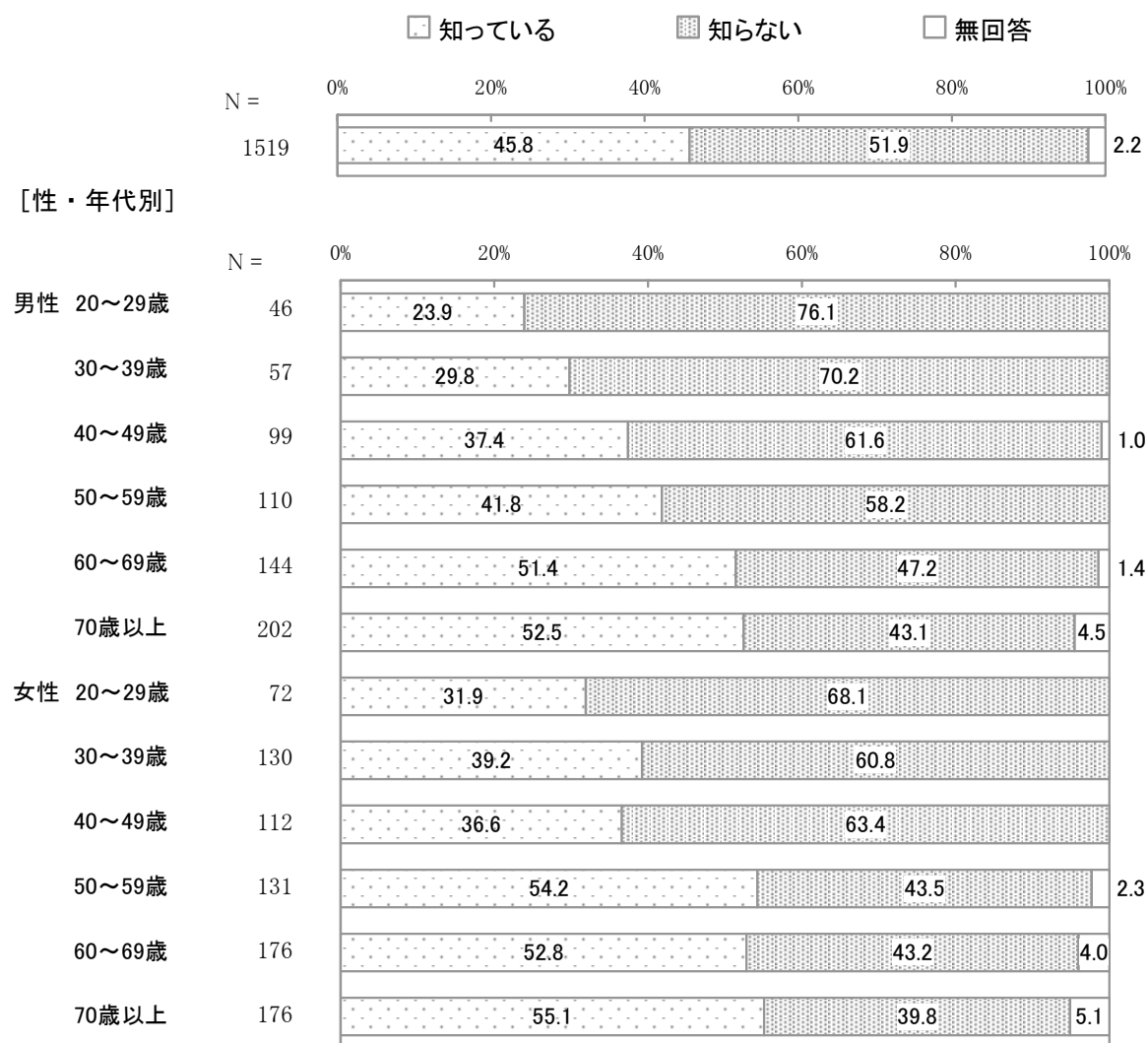
(2) 食生活の状況

① 適切な食事内容・量の認知度

【成人】

- ・自分にとって適切な食事内容・量の認知度は45.8%、男性では、年齢が高くなるにつれて適切な食事内容・量の認知度は高くなっています。

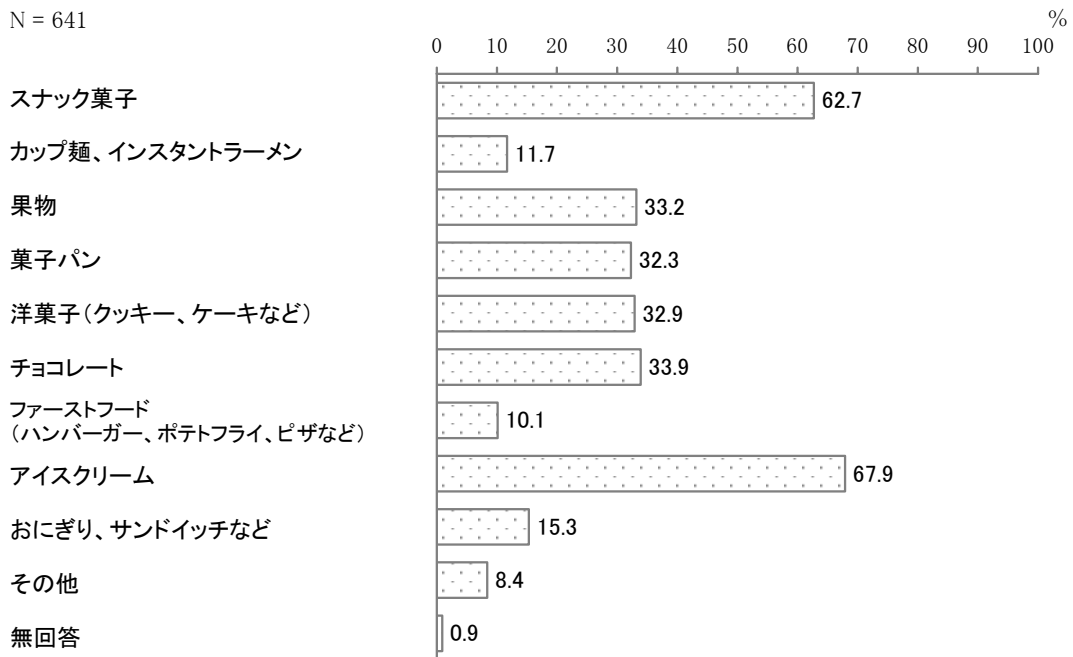
<自分にとって適切な食事内容・量の認知度>



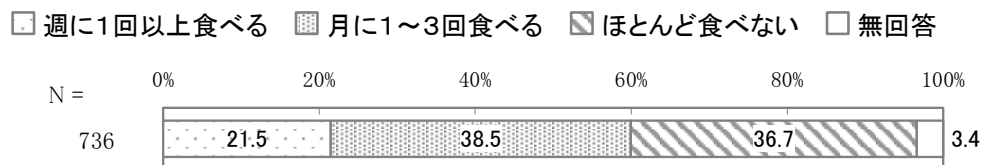
【中学生】

- おやつの内容は、「スナック菓子」が62.7%、「アイスクリーム」が67.9%と高く、6割強となっています。
- 週に1回以上、コンビニエンスストアやスーパーのお弁当、おにぎり、パン類を食べる人の割合は21.5%、ファーストフードを食べる人は7.2%となっています。
- 学校給食を「ほとんど残さない」人は19.3%、牛乳を「飲まない」人は22.4%となっています。

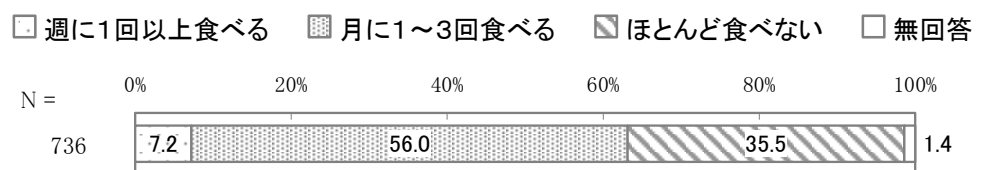
<おやつの内容>



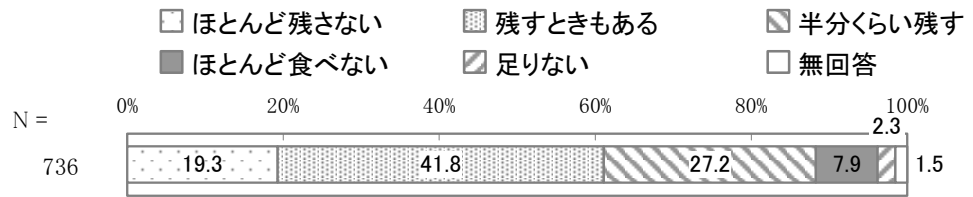
<コンビニエンスストアやスーパーマーケットのお弁当、おにぎり、パン類等を食べる頻度>



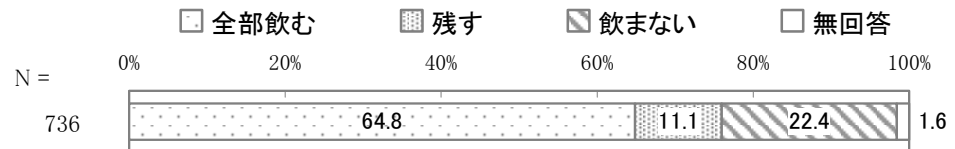
<ファーストフード(ハンバーガー、フライドチキン、ドーナツ等)を食べる頻度>



<学校給食を残さず食べる状況>



<牛乳を残さず飲む状況>



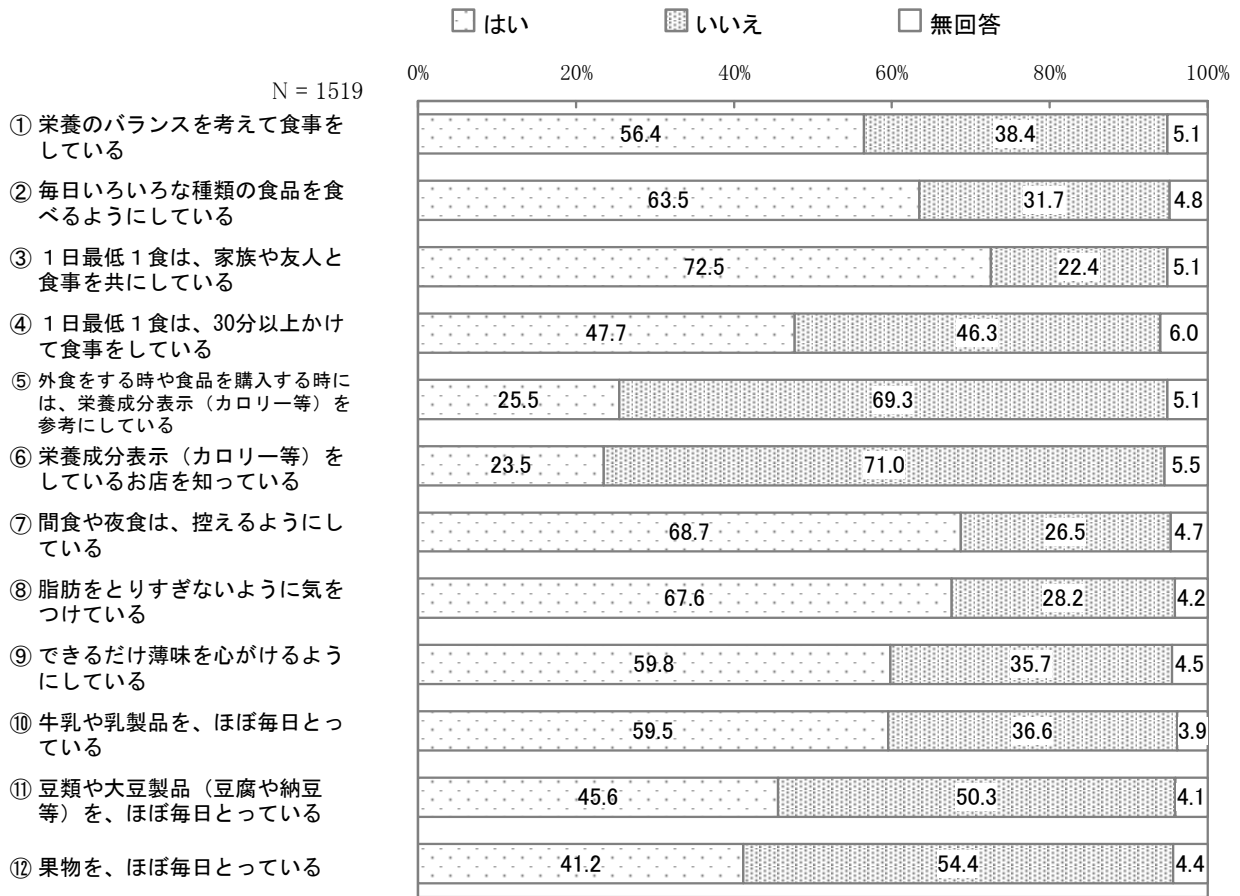
②正しい食習慣の実践

【成人】

- ・日頃の食生活で、気を配っていることについては、「①栄養のバランスを考えて食事をしている」の割合が56.4%となっています。また、「③1日最低1食は、家族や友人と食事を共にしている」「⑦間食や夜食は、控えるようにしている」「⑧脂肪をとりすぎないように気をつけている」の割合は高くなっていますが、「⑤外食をする時や食品を購入する時には、栄養成分表示（カロリー等）を参考にしている」「⑥栄養成分表示（カロリー等）をしているお店を知っている」の割合は低くなっています。
- ・栄養のバランスを考えて食事をしている人の割合は、男性に比べ、女性で高く、63.1%となっています。

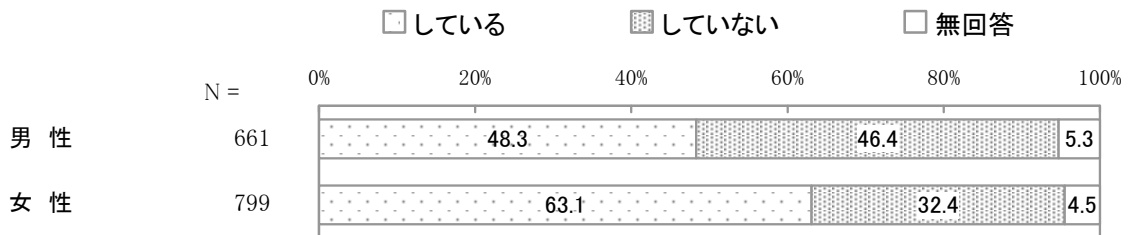
指標関連項目

<日頃の食生活で、気を配っていること>



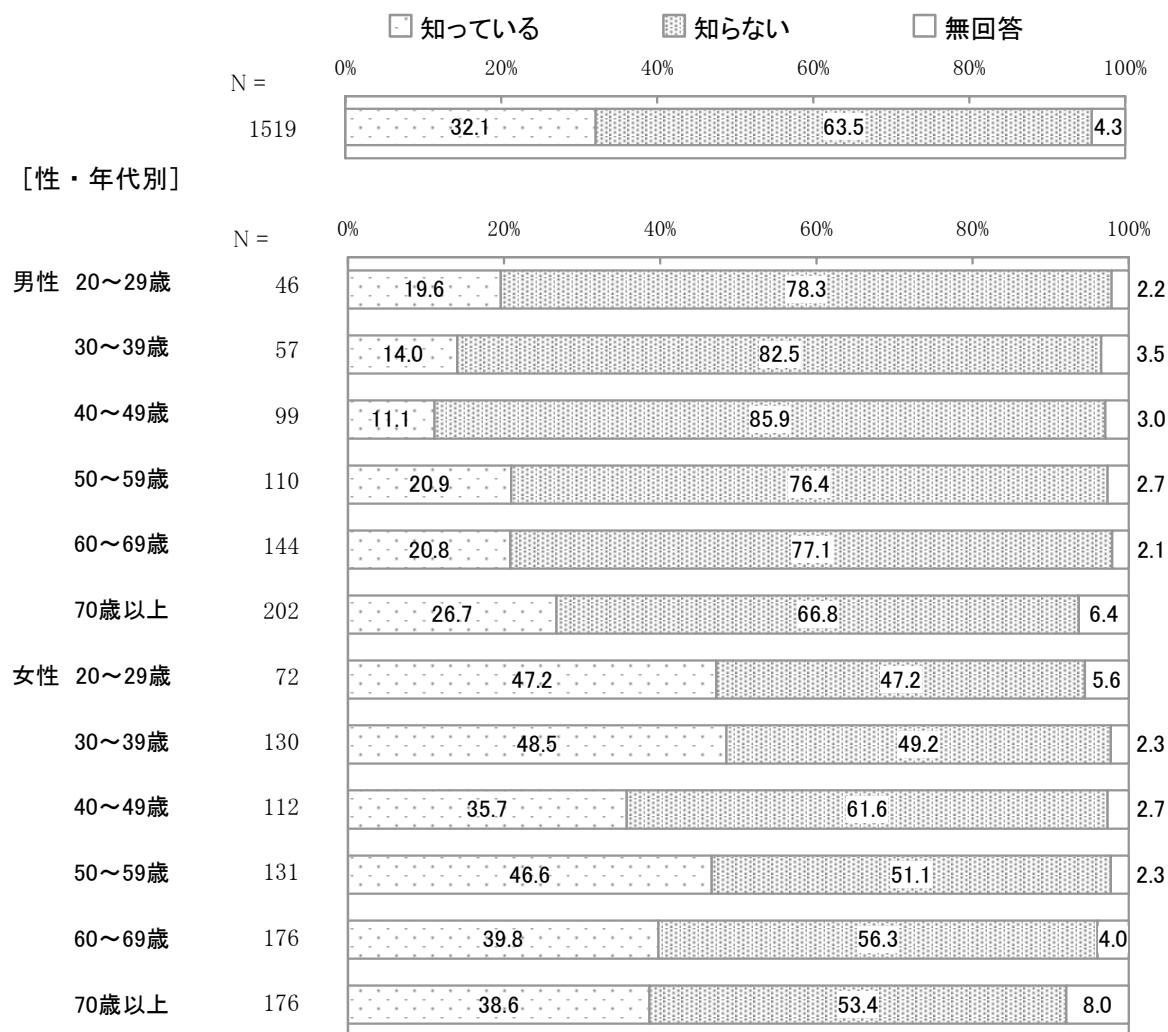
<栄養のバランスを考えて食事をしている状況>

[性別]

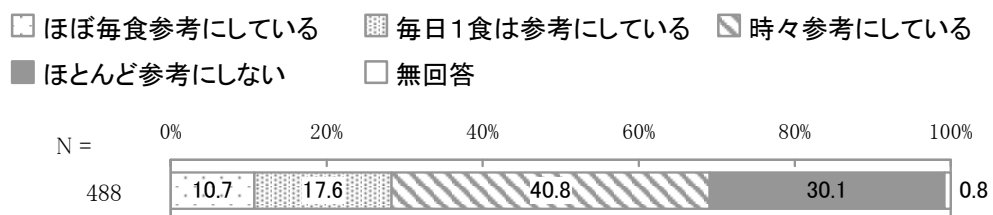


- ・「食事バランスガイド」の認知度は32.1%、参考にしている人の割合は全体の69.1%となっています。特に男性30、40歳代で認知度が低くなっています。
- ・1日3食のうち、野菜を食べる回数は、「3回」の割合が16.1%となっています。
- ・野菜の摂取が1日に4皿未満の人の割合が83.6%、野菜を十分にとれていると思う人の割合は33.3%となっています。女性に比べて男性の摂取が低く、野菜を摂取しない理由は、女性に比べて男性で「野菜が嫌い」の割合が高くなっています。

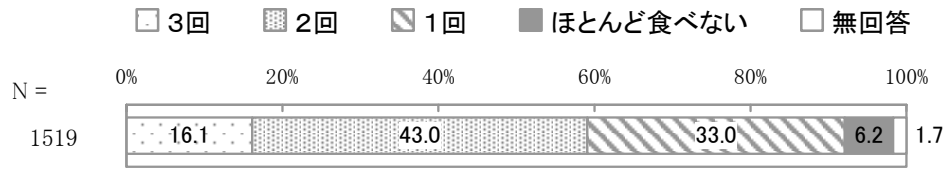
<食事バランスガイドの認知度>



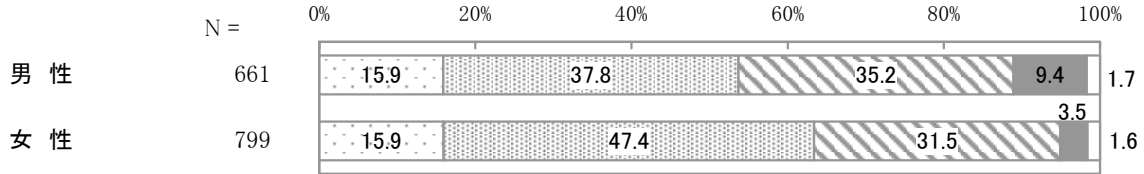
<食事バランスガイドを参考にしている状況>



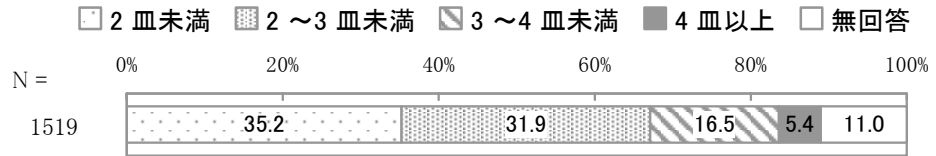
< 1日3食のうち、野菜を食べる回数 >



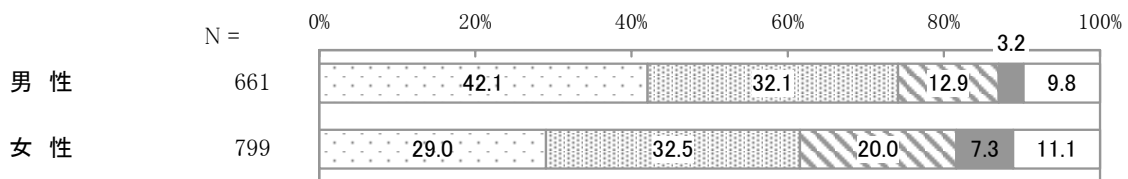
[性別]



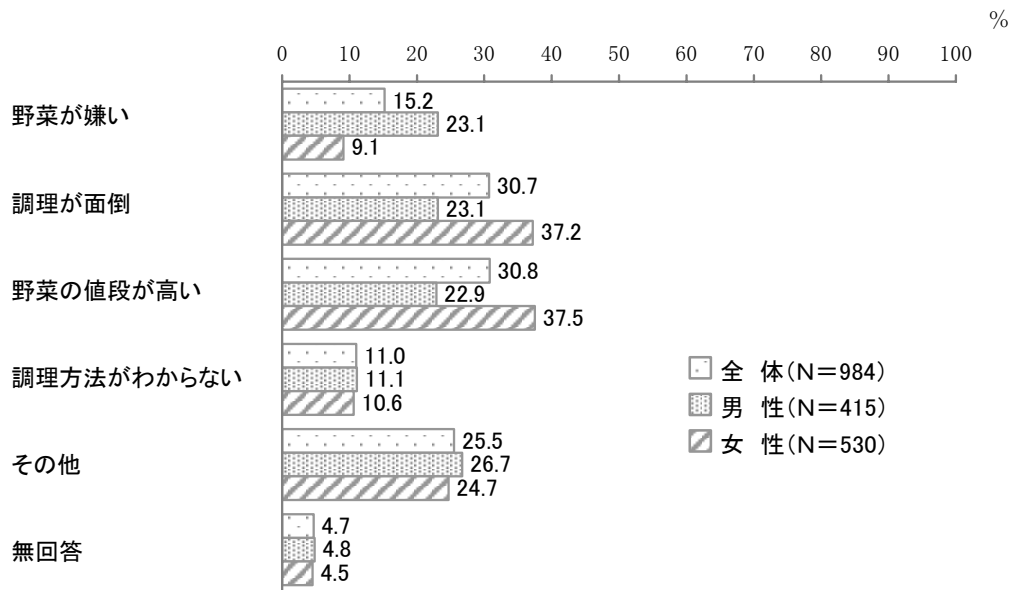
< 1日に食べる野菜の量 (皿) >



[性別]



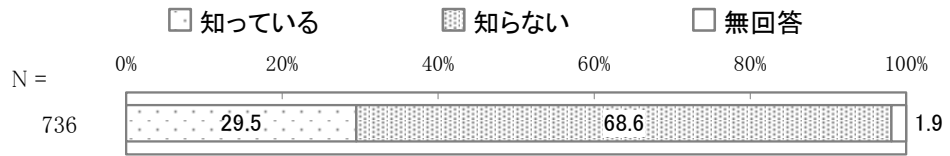
< 野菜が十分にとれていると思わない人のとれていない理由 >



【中学生】

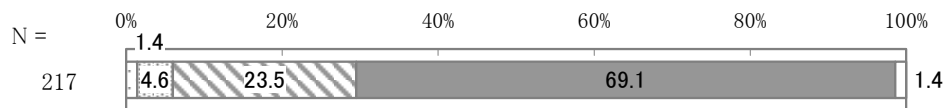
- ・「食事バランスガイド」の認知度は29.5%、参考にしている人の割合は29.5%となっています。
- ・野菜の摂取が1日に4皿未満の人の割合が84.9%となっています。

<食事バランスガイドの認知度>



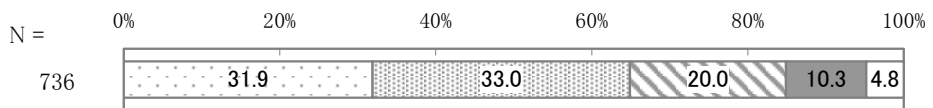
<食事バランスガイドを参考にしている状況>

- ほぼ毎食参考にしている
- ▨ 毎日1食は参考にしている
- ▩ 時々参考にしている
- ほとんど参考にしない
- 無回答



<1日に食べる野菜の量(皿)>

- 2皿未満
- ▨ 2~3皿未満
- ▩ 3~4皿未満
- 4皿以上
- 無回答



③朝食の摂取

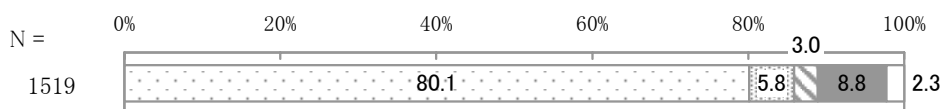
【成人】

・朝食の欠食率は8.8%、特に男性の20、30歳代で欠食率が高く、2割を超えています。

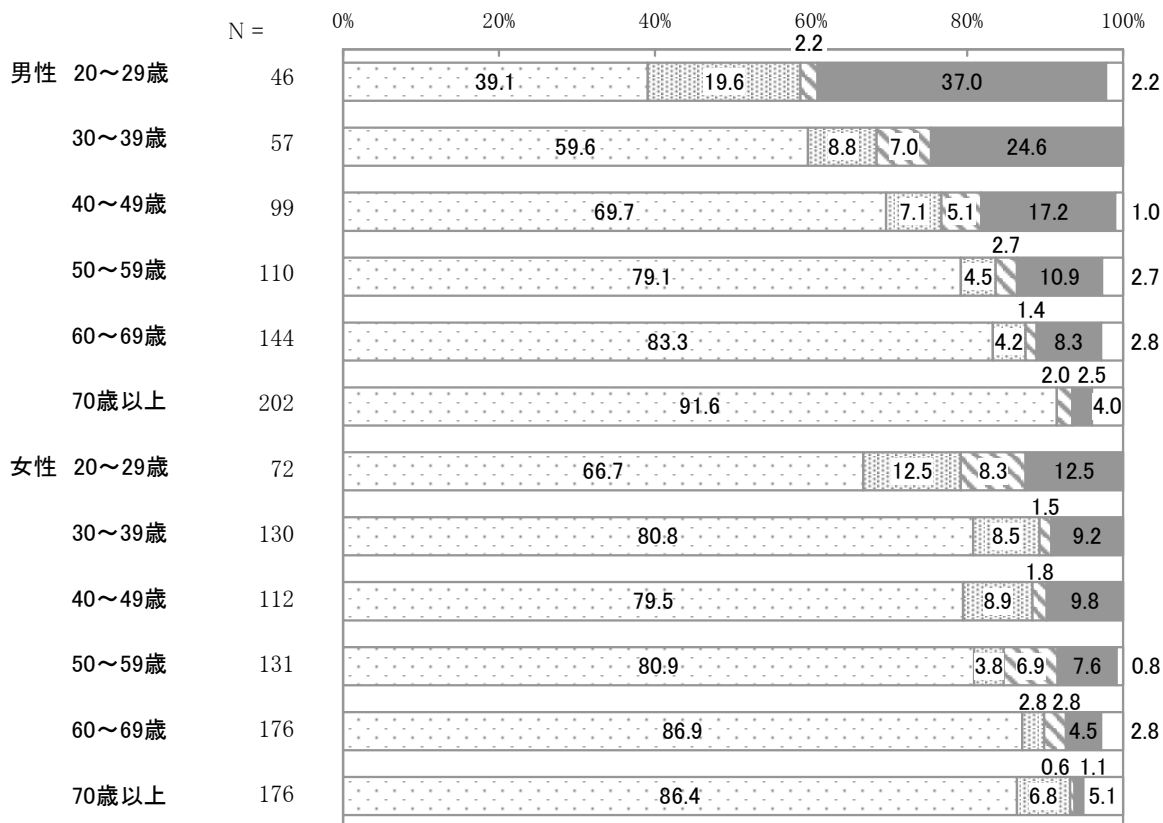
指標関連項目

<朝食摂取の有無>

- 毎日食べる
- ▨ 週3～5日程度食べる
- ▩ 週1～2日程度食べる
- ほとんど食べない
- 無回答



[性・年代別]

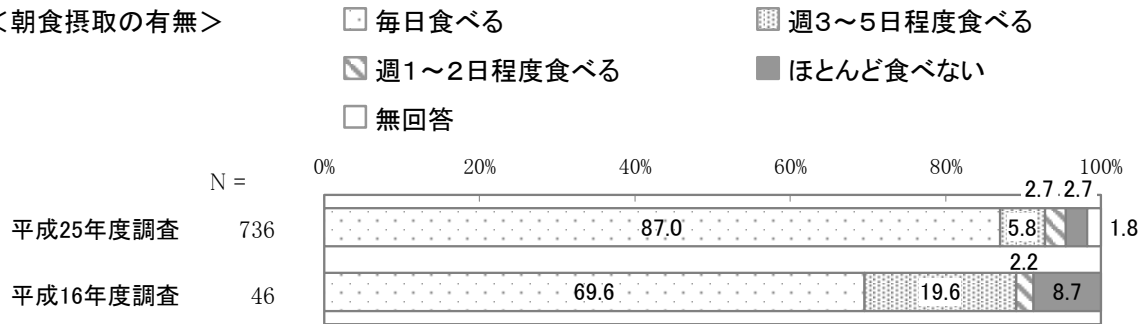


【中学生】

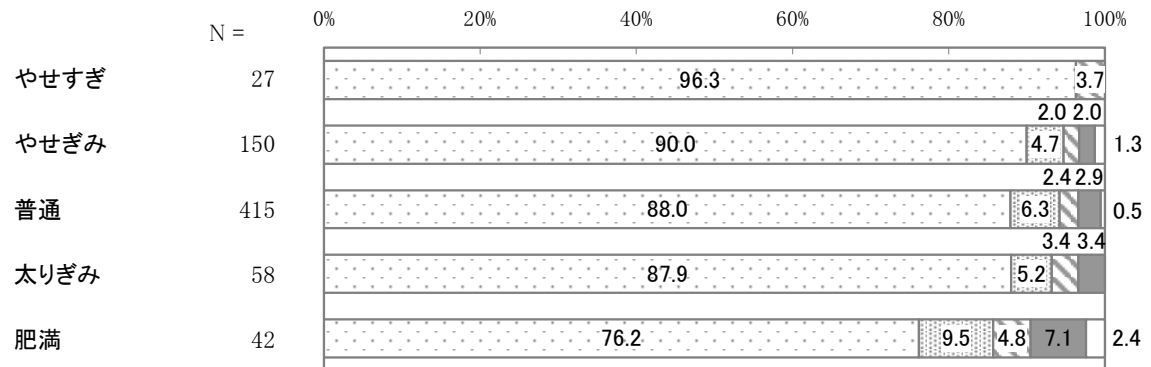
- 朝食の欠食率は2.7%となっており、平成16年度から大幅に改善しています。肥満度別にみると、肥満の人ほど朝食欠食の割合が高くなっています。
- 朝食を食べたくない理由は、「食べる気がしないから」の割合が54.2%と高くなっています。

指標関連項目

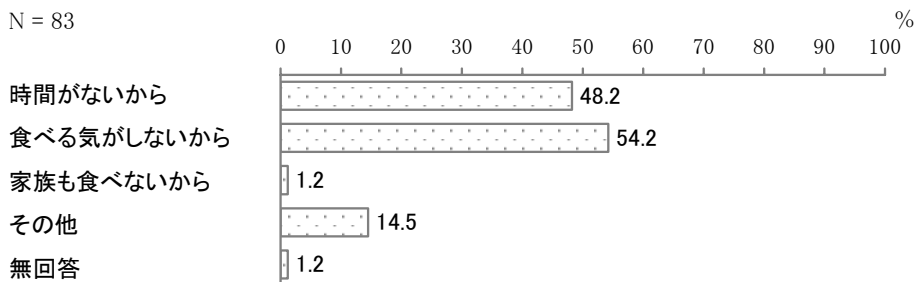
<朝食摂取の有無>



[日比式肥満度別]



<朝食を食べない理由>

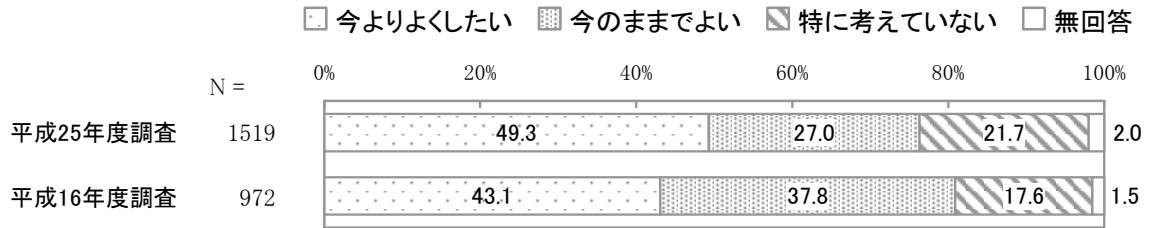


④食生活改善意欲

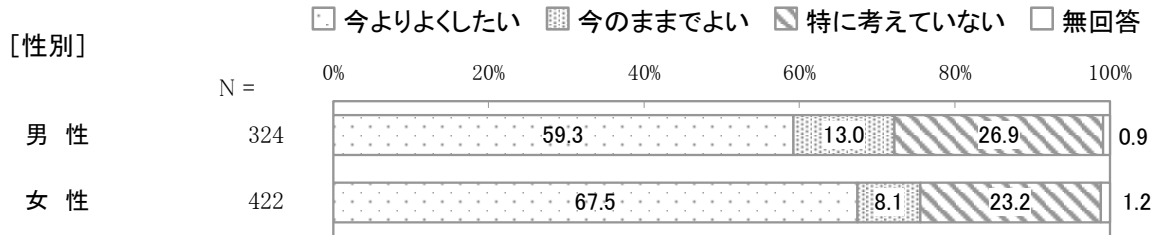
【成人】

- ・食生活を今よりよくしたい人の割合は49.3%、平成16年度から高くなっています。
- ・自分の食生活に問題があると思う人の食生活改善意欲は男性に比べて女性で高くなっています。

<食生活改善意欲>



<自分の食生活に問題があると思う人の食生活改善意欲>



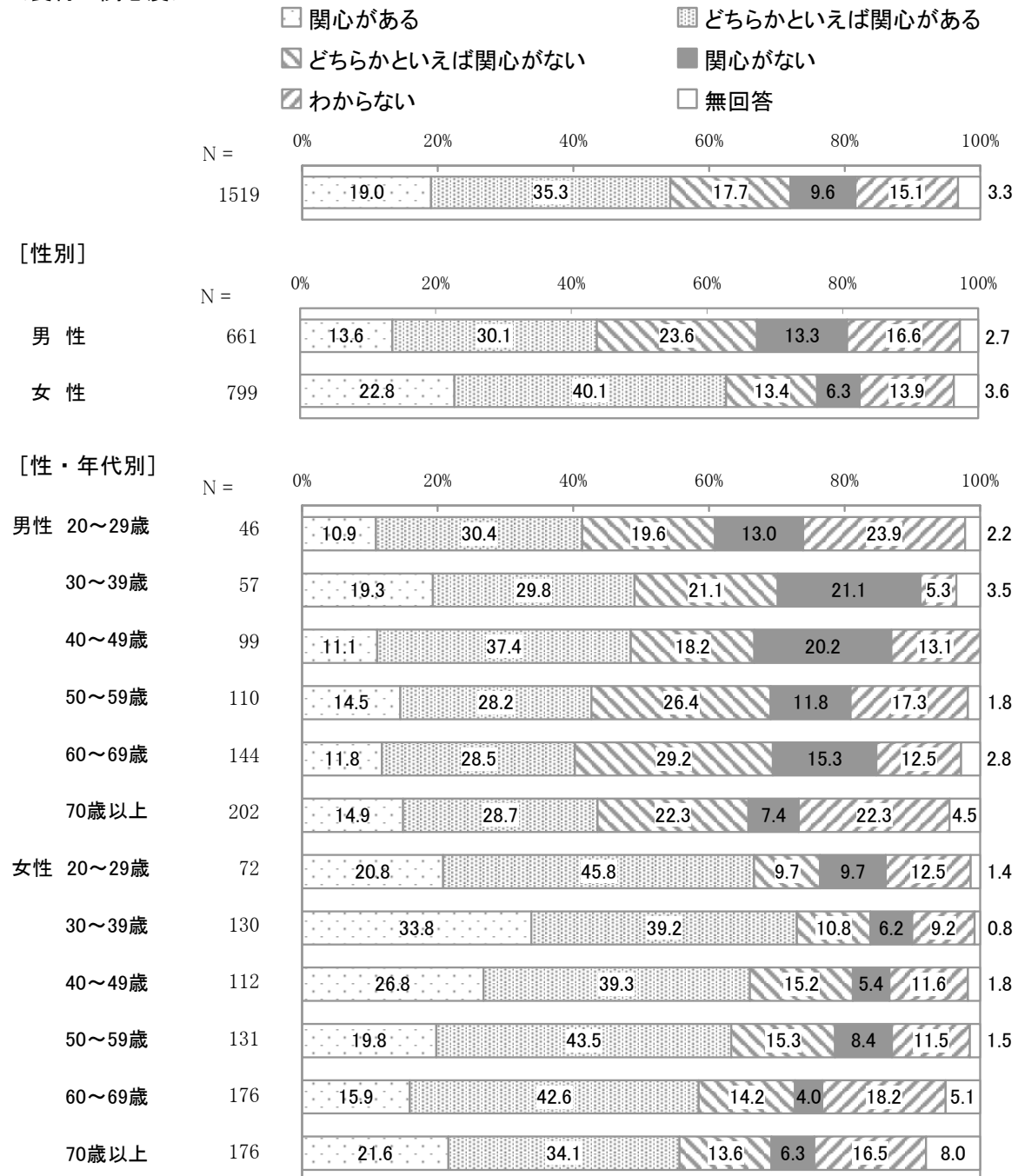
(3) 食育について

① 食育の関心度

【成人】

- ・食育に関心がある人は54.3%、男性に比べて女性で高くなっています。また、男性では、30、40歳代で関心が高いものの、5割未満となっています。

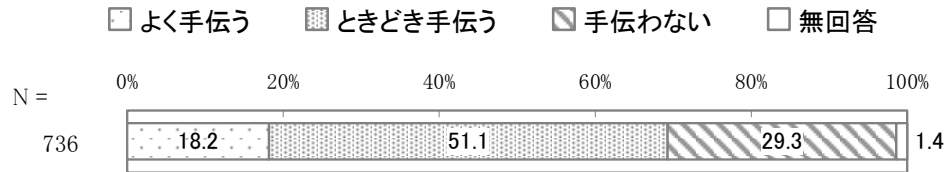
<食育の関心度>



【中学生】

・食事の準備や片づけを手伝っている人は69.3%となっています。

<食事づくりや片づけを手伝う頻度>



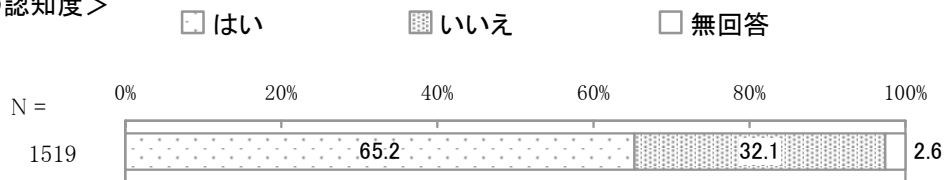
② 地産地消の認知度

【成人】

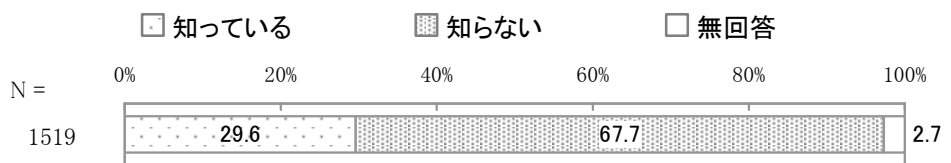
・「地産地消」の認知度は65.2%となっています。

・「まったく愛っ娘～松原育ち～」の認知度は29.6%となっており、女性は男性に比べて認知度が高くなっています。

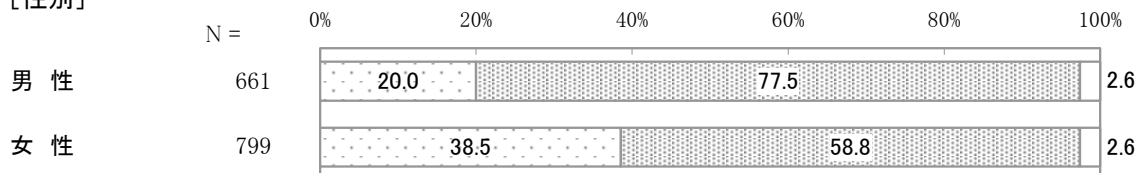
<「地産地消」の認知度>



<「まったく愛っ娘～松原育ち～」の認知度>



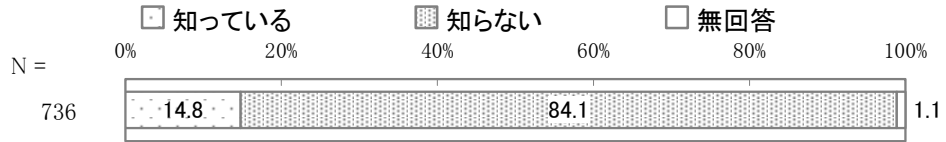
[性別]



【中学生】

・「まったら愛っ娘～松原育ち～」の認知度は14.8%となっています。

<「まったら愛っ娘～松原育ち～」の認知度>

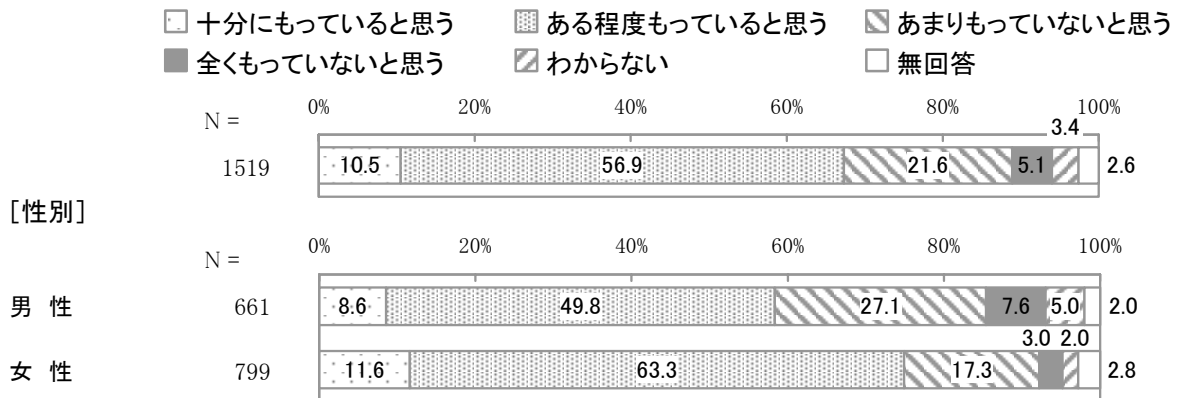


③食の安全の知識

【成人】

・食の安全に関する知識のある人は67.4%、男性に比べて女性で高くなっています。

<食品の安全に関する知識>

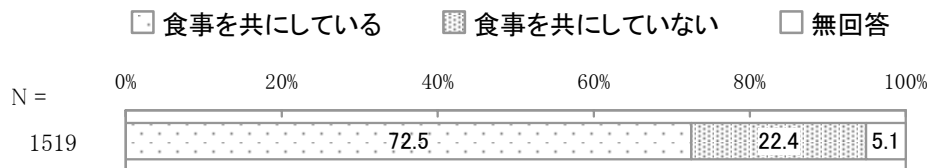


④共食

【成人】

・「1日最低1食は、家族や友人と食事を共にしている」人の割合は72.5%となっています。

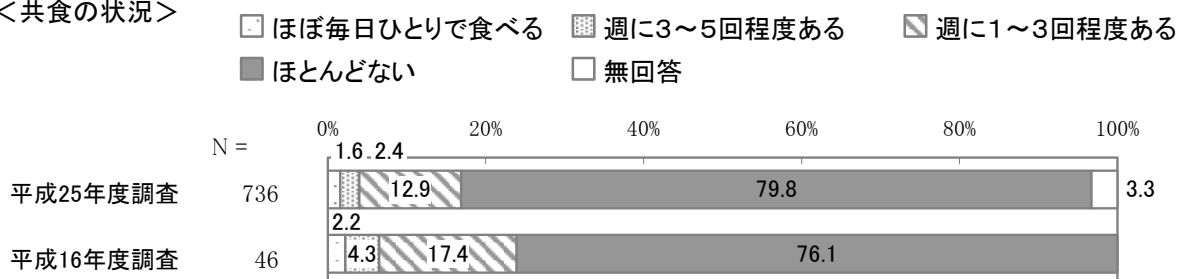
<共食の状況>



【中学生】

・1人だけで夕食を食べることがある人の割合は16.9%となっており、平成16年度から割合は減少しています。

<共食の状況>



2) 運動・身体活動

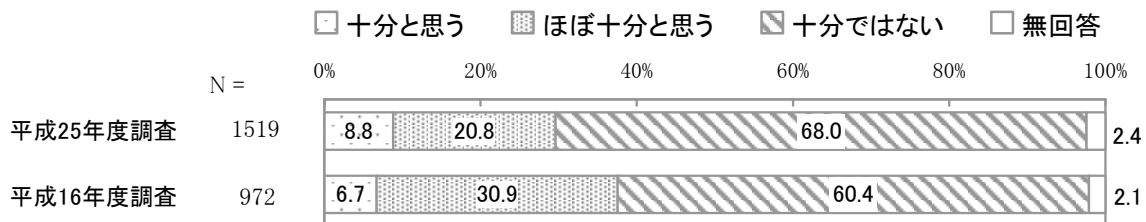
(1) 運動の実践

① 運動量の現状

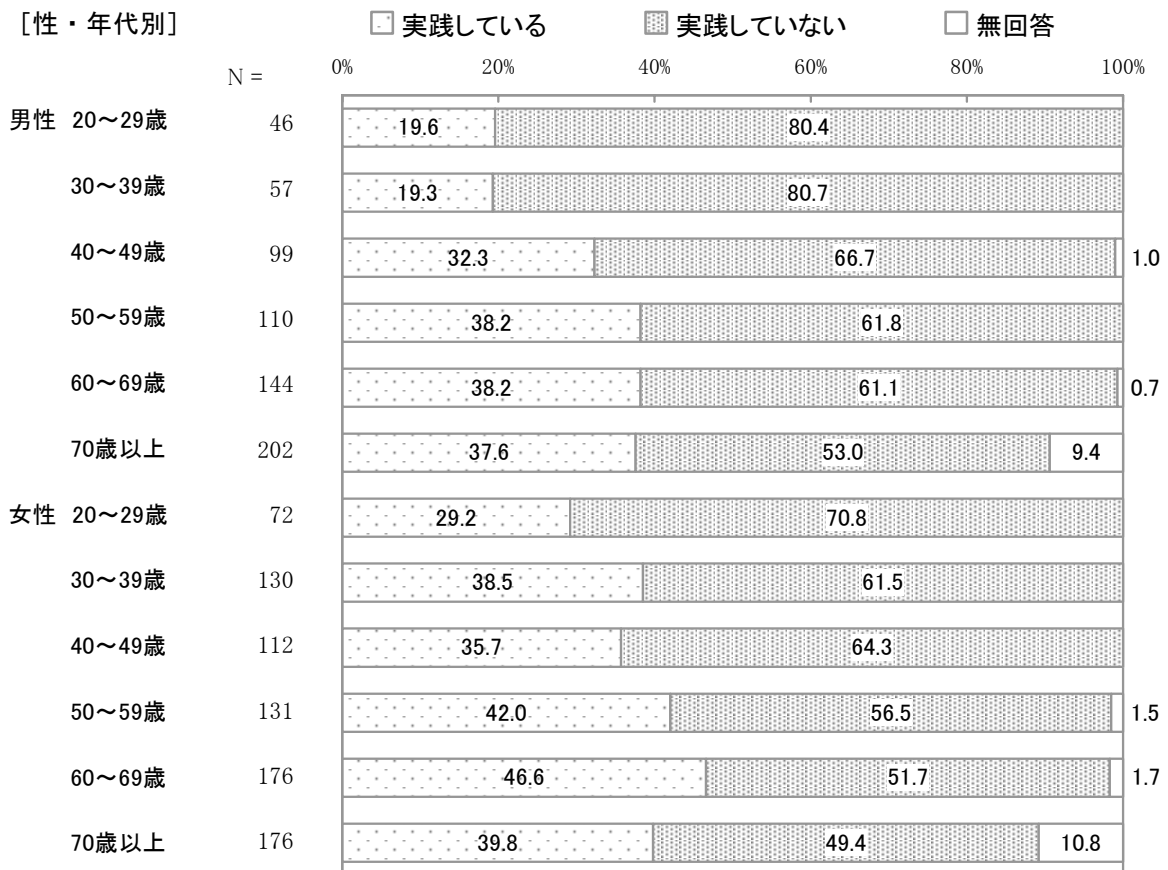
【成人】

- ・自身の運動量について、充分ではないと感じている人の割合は約68.0%となっており、平成16年度から増加しています。
- ・日常生活の中で生活活動の強度を上げるために意識的に何か実践している人は37.4%、男性の20、30歳代、女性の20歳代で、実践していない人の割合が高く、7割を超えています。
- ・1日に1時間以上歩く人の割合は24.1%となっています。

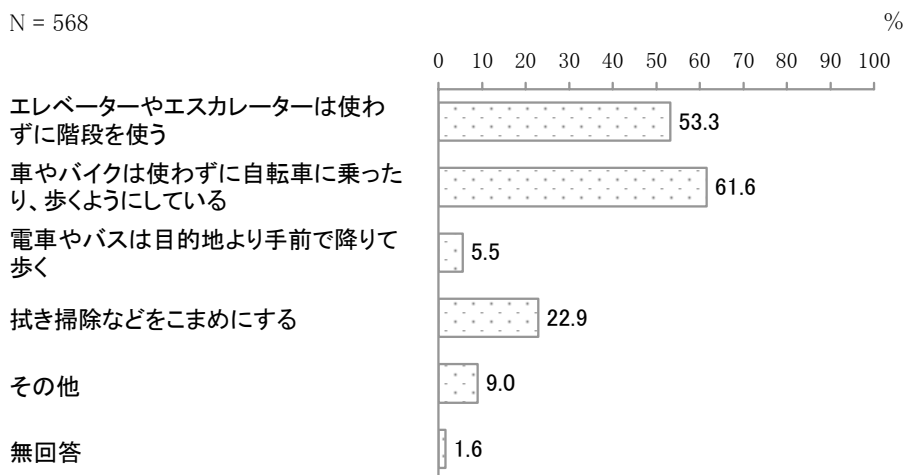
<自分自身の運動量を十分だと思うか>



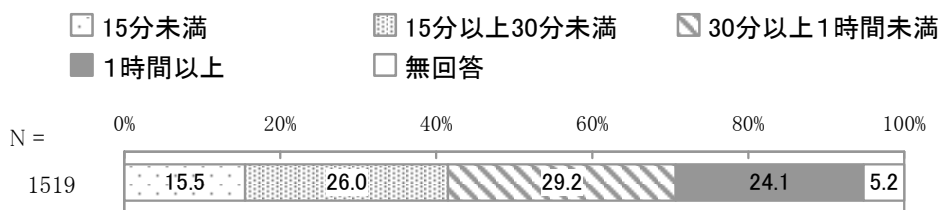
<日常生活の中で生活活動の強度を上げることの実践状況>



<日常生活の中で生活活動の強度を上げることを実践している人が取り組んでいる内容>



<1日に歩く時間（通勤、通学、買い物等も含む）>



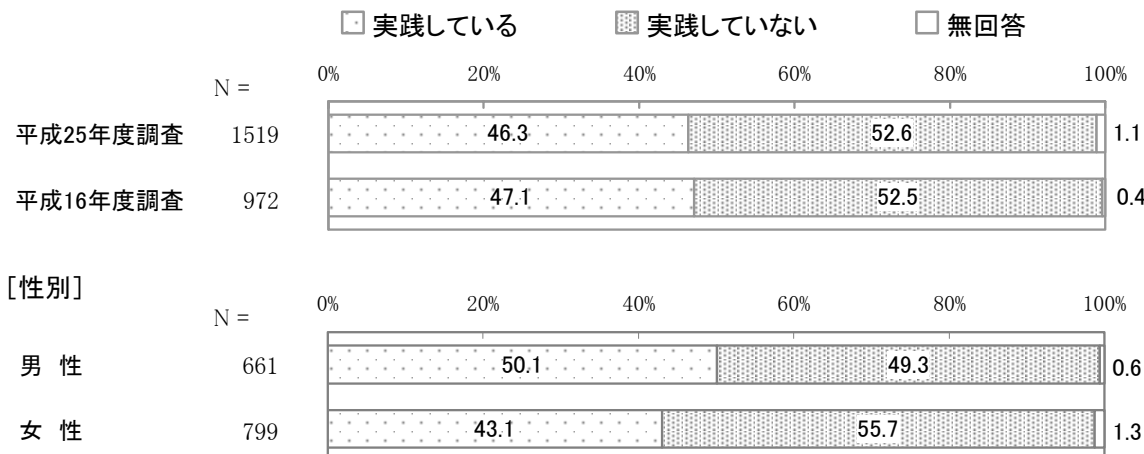
② 意識的に運動を心がけている状況

【成人】

- 日常生活の中で、意識的に身体を動かしている人の割合は46.3%となっており、動かしていない人の割合は、男女ともに20～40歳代で高く、6割を超えています。
- 運動をしていない理由は、「時間がない」の割合が最も高く、46.9%となっています。運動をしている人の内容は、「歩く」の割合が最も高く、66.2%となっています。

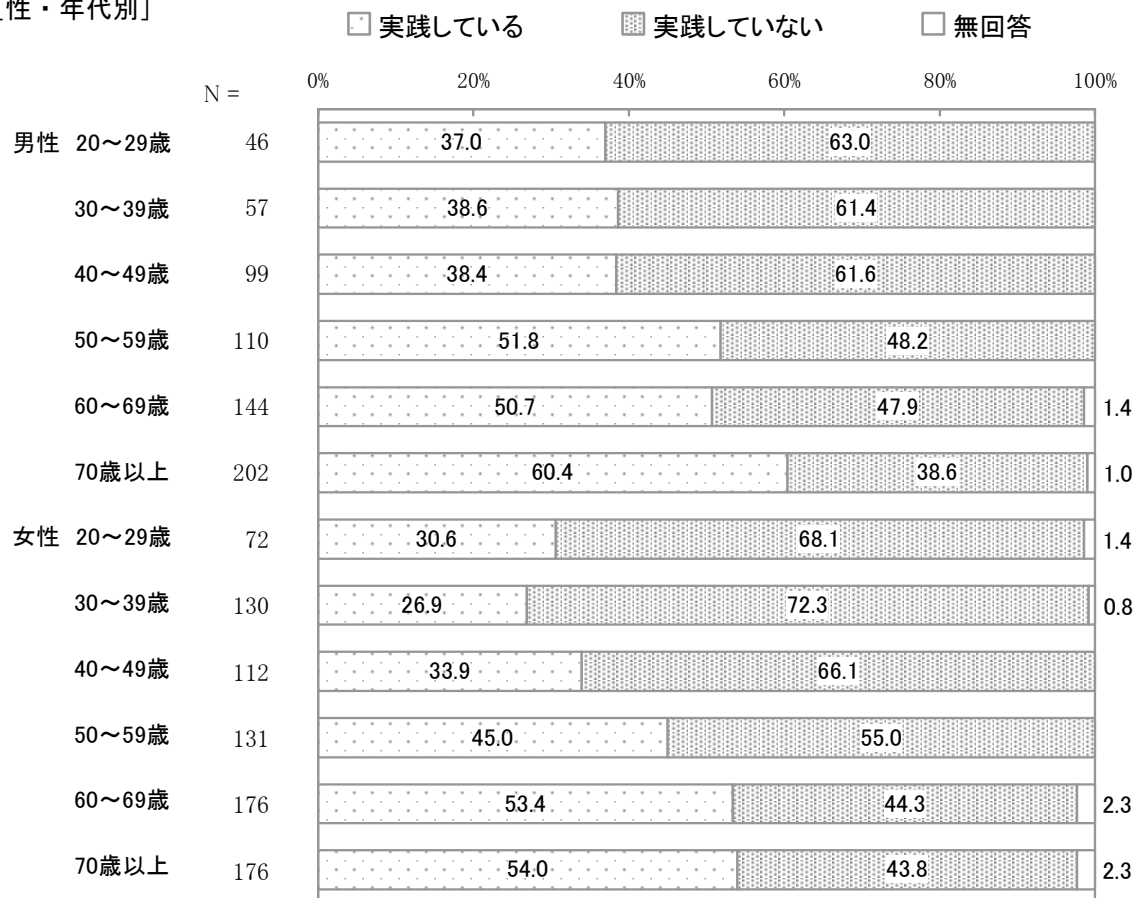
指標関連項目

<意識的な運動の実践>

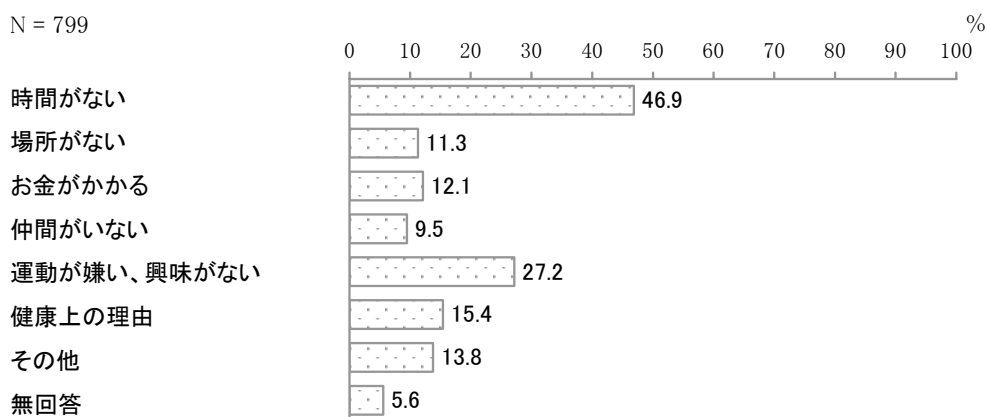


<意識的な運動の実践>

[性・年代別]



<意識的な運動の実践をしていない人の運動をしていない理由>



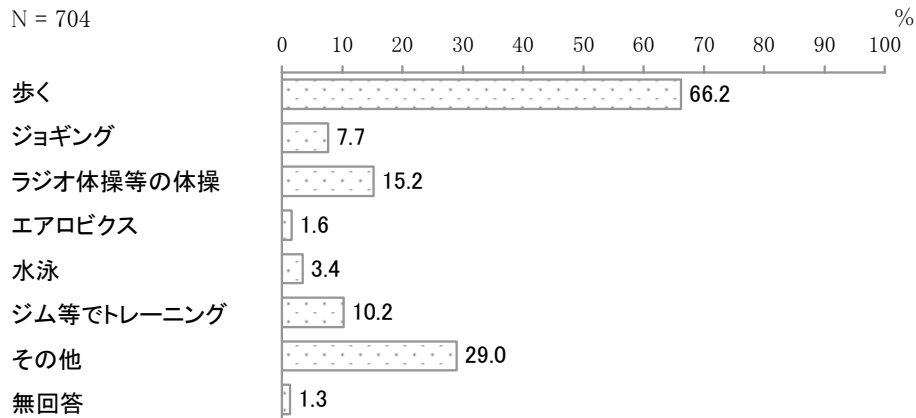
[性・年代別]

単位：％

区分	有効回答数 (件)	時間がない	場所がない	お金がかかる	仲間がない	運動が嫌い、 興味がない	健康上の理由	その他	無回答
男性 20～29 歳	29	79.3	24.1	10.3	3.4	17.2	0.0	6.9	0.0
30～39 歳	35	65.7	11.4	11.4	11.4	31.4	0.0	11.4	0.0
40～49 歳	61	68.9	19.7	14.8	4.9	14.8	4.9	9.8	6.6
50～59 歳	53	56.6	13.2	13.2	17.0	37.7	9.4	11.3	3.8
60～69 歳	69	29.0	11.6	5.8	13.0	31.9	23.2	11.6	5.8
70 歳以上	78	7.7	5.1	2.6	3.8	21.8	28.2	20.5	17.9
女性 20～29 歳	49	79.6	30.6	24.5	14.3	22.4	2.0	12.2	0.0
30～39 歳	94	61.7	10.6	13.8	12.8	38.3	2.1	17.0	0.0
40～49 歳	74	63.5	9.5	20.3	12.2	35.1	9.5	5.4	1.4
50～59 歳	72	58.3	11.1	13.9	11.1	27.8	16.7	12.5	0.0
60～69 歳	78	35.9	5.1	16.7	3.8	26.9	16.7	20.5	3.8
70 歳以上	77	14.3	3.9	3.9	7.8	18.2	44.2	16.9	16.9

<意識的な運動を実践している人の運動内容>

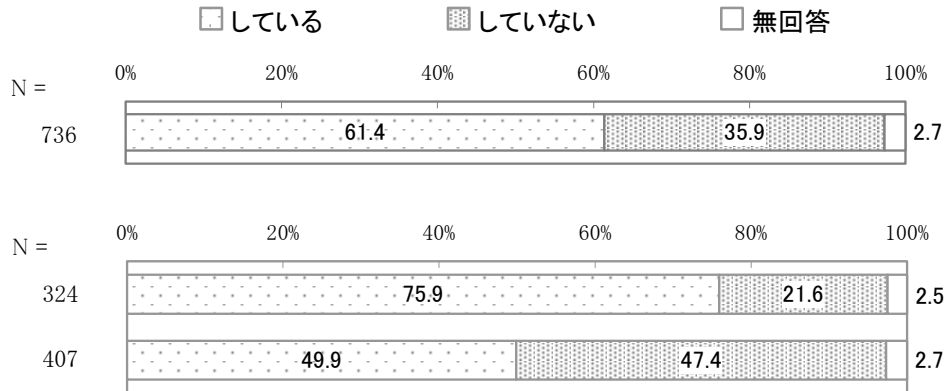
N = 704



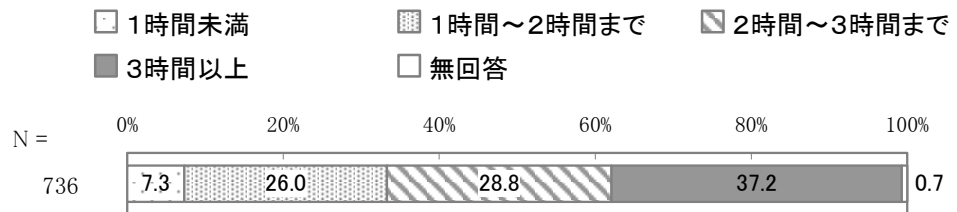
【中学生】

- 体育の授業以外に運動やスポーツを週に3日以上実施している人の割合は61.4%となっており、女性が49.9%、男性は75.9%となっています。
- 1日に平均してテレビを見たり、ゲーム（携帯電話のゲームを含む）をする時間は、「3時間以上」の割合が最も高く、37.2%となっています。

<授業以外の運動の有無>



<テレビを見たり、ゲームをしたりする時間（1日の平均）>



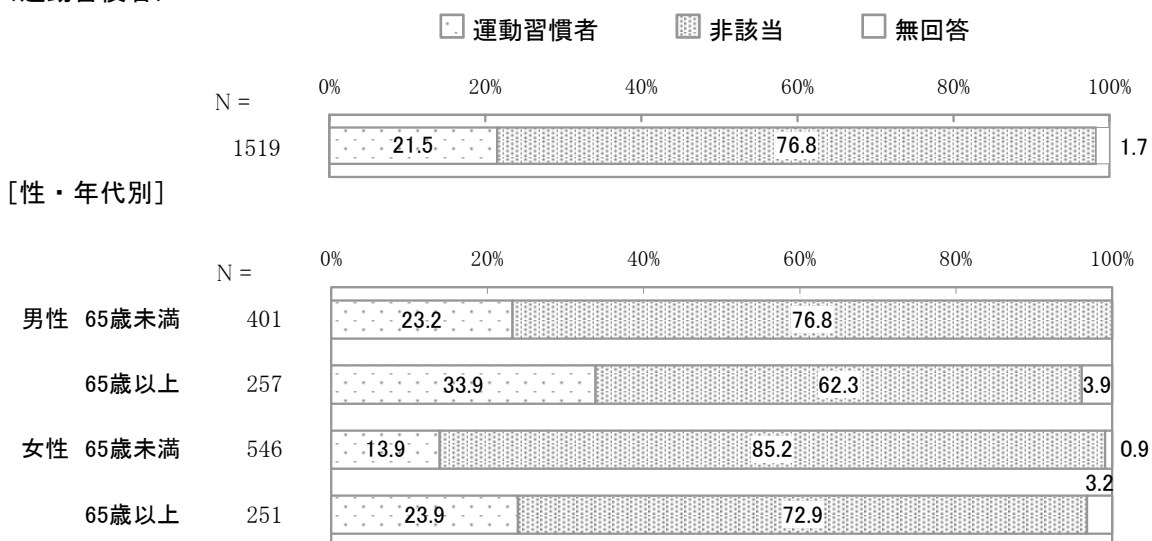
③ 運動習慣者

【成人】

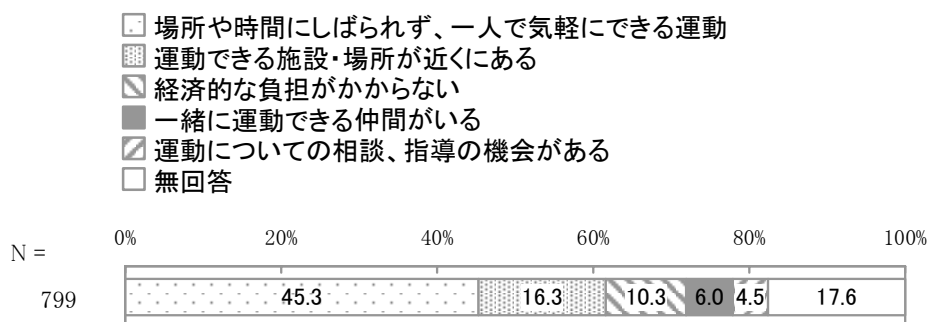
- ・運動習慣者（1日30分以上の運動を週2日、1年以上続けている人）の割合は全体で約2割、男女ともに65歳以上で運動習慣者の割合が高くなっています。
- ・運動習慣を身につけるために必要なことは、「場所や時間にしばられず、一人で気軽にできる運動」の割合が高く、45.3%となっています。

指標関連項目

<運動習慣者>



<意識的な運動を実践していない人が運動習慣を身につけるための条件>



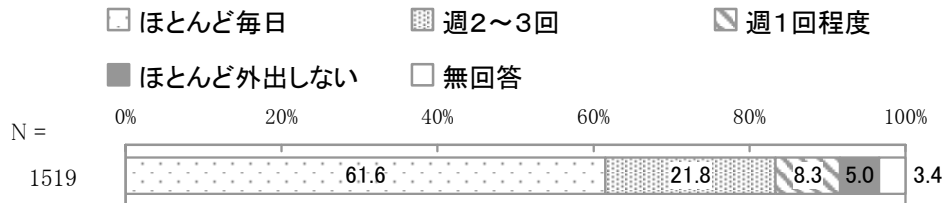
(2) 外出頻度

【成人】

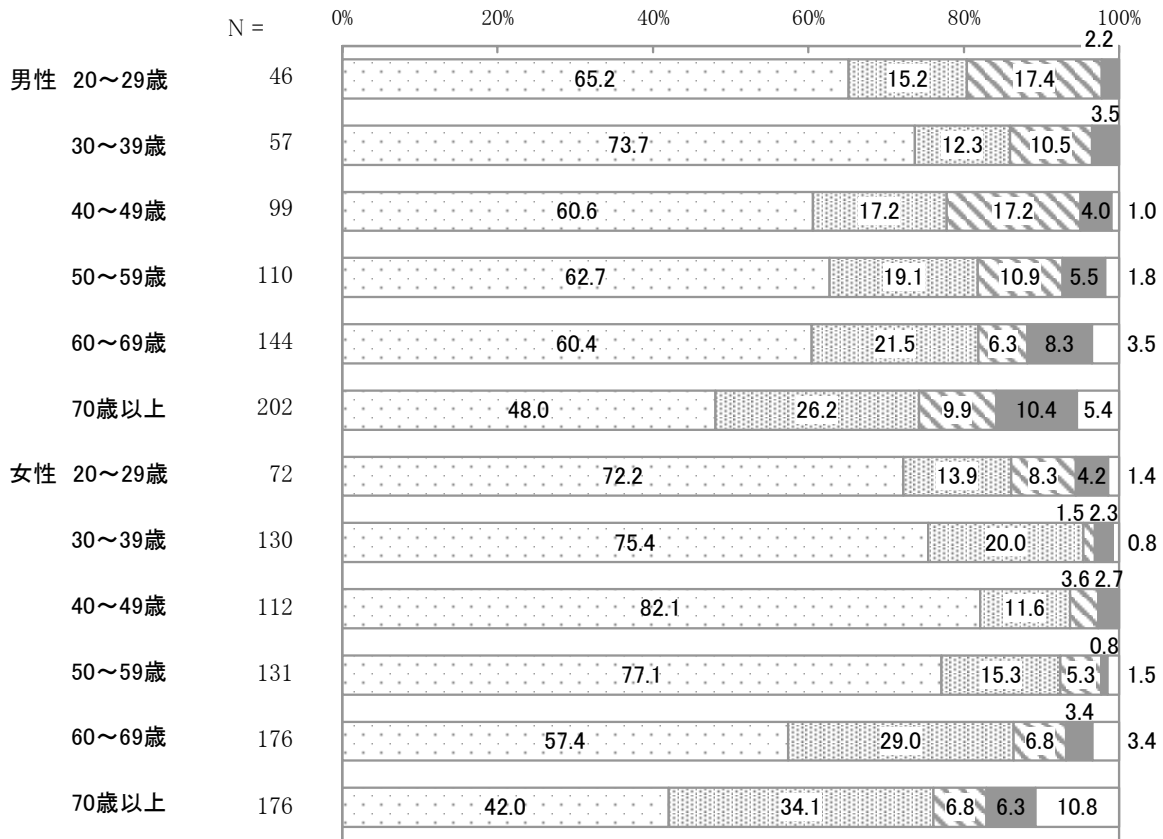
- ・外出頻度については、「ほとんど毎日」の割合が最も高く、61.6%となっています。また、男性の20、40歳代で「週1回程度」の割合が高くなっています。

指標関連項目

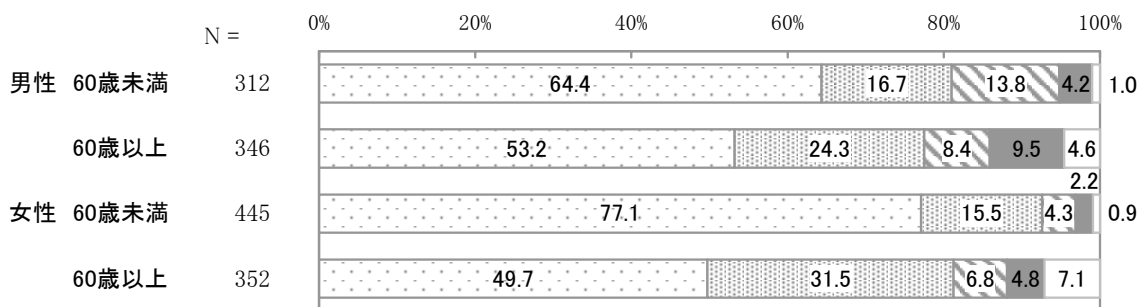
<外出頻度>



[性・年代別]



[性・年代別 (60歳未満・以上)]



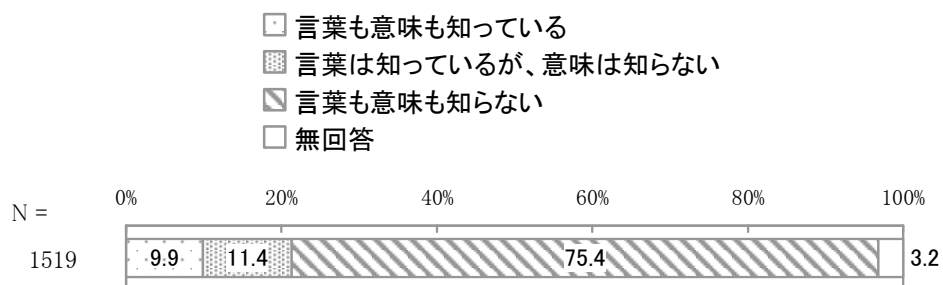
(3) ロコモティブシンドローム（運動器症候群）について

① ロコモティブシンドロームの認知度

【成人】

- ・ロコモティブシンドローム（運動器症候群）については、「言葉も意味も知らない」の割合が最も高く、75.4%となっています。

<ロコモティブシンドロームの認知度>



3) 休養・こころの健康

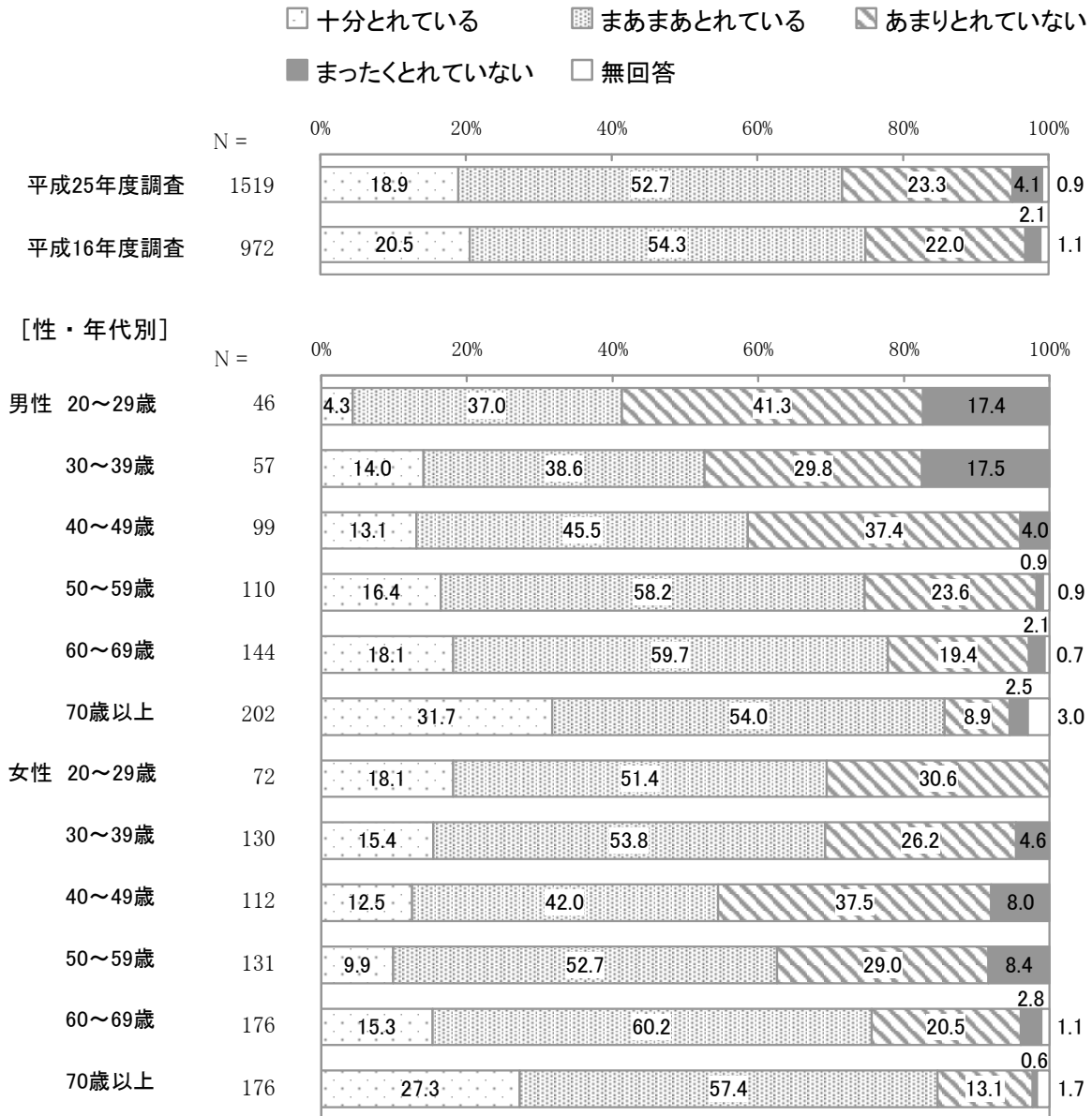
(1) 休養の状況

① 睡眠の状況

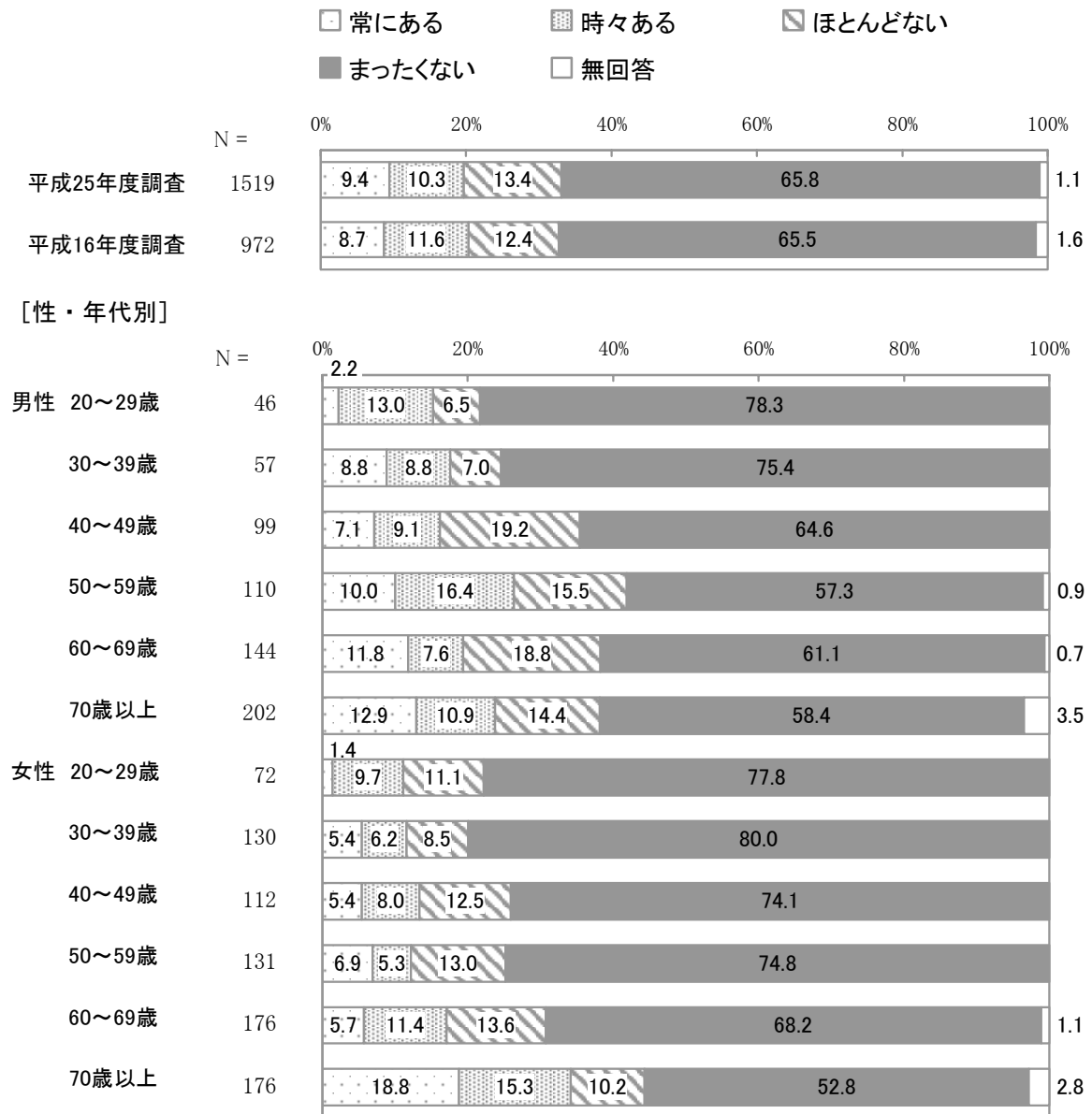
【成人】

- ・睡眠で、休養が「十分とれている」人の割合は18.9%、特に男性の20、30歳代で「まったくとれていない」の割合が高く、約2割となっています。
- ・睡眠の確保のために睡眠補助品（睡眠薬、精神安定剤）やアルコールを使うことがある人の割合が19.7%となっており、男女ともに年齢が高くなるほどその傾向がみられます。

<睡眠による休養度>



<睡眠のための睡眠補助品やアルコール使用の有無>



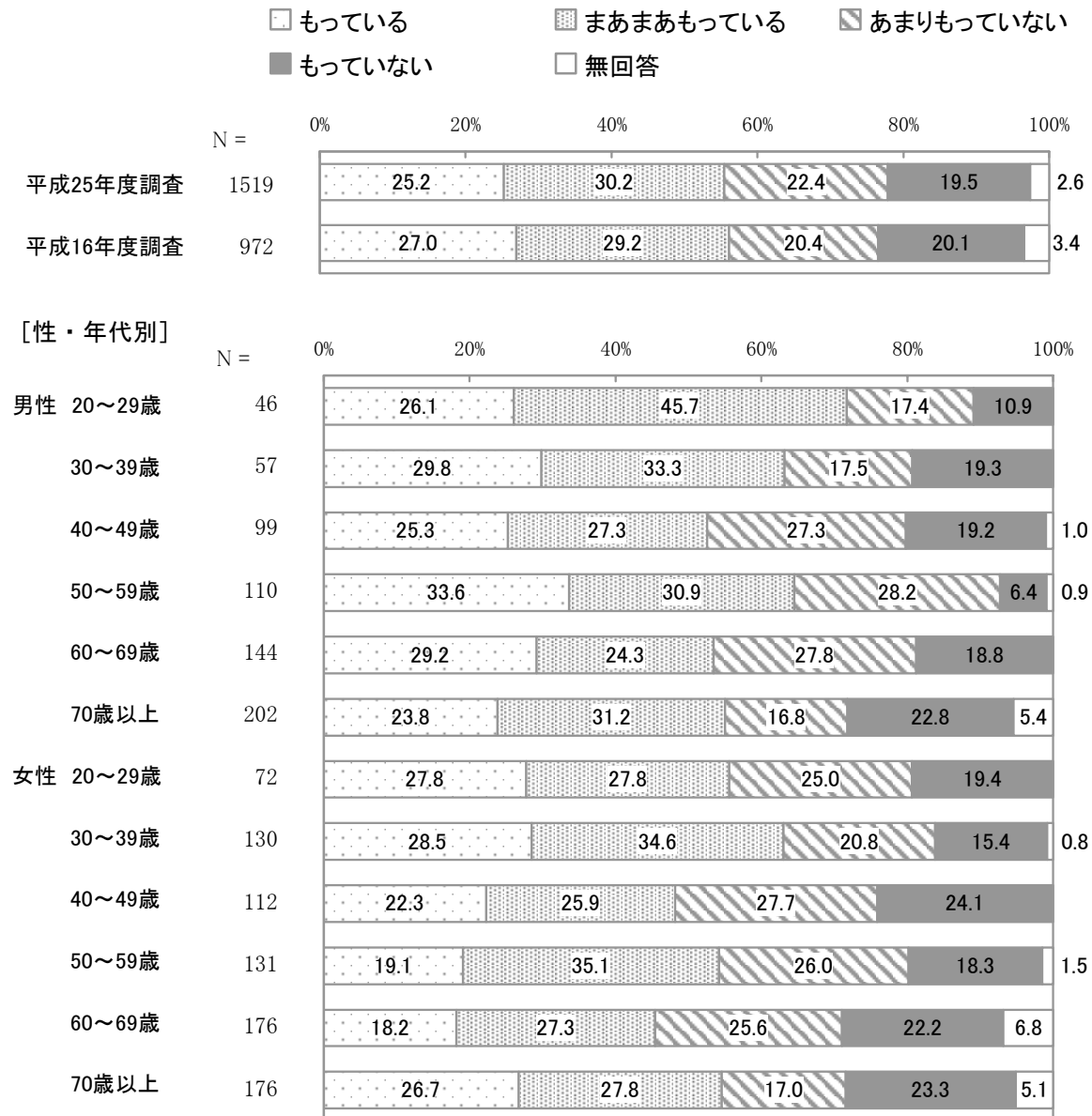
(2) こころの健康づくりの状況

① やりがいや充実感

【成人】

- ・自分が打ち込んでやりがいや充実感を得られるものをもっている人の割合が55.4%、特に男性の20歳代で高く、71.8%となっています。

<充実感を得られるものの有無>

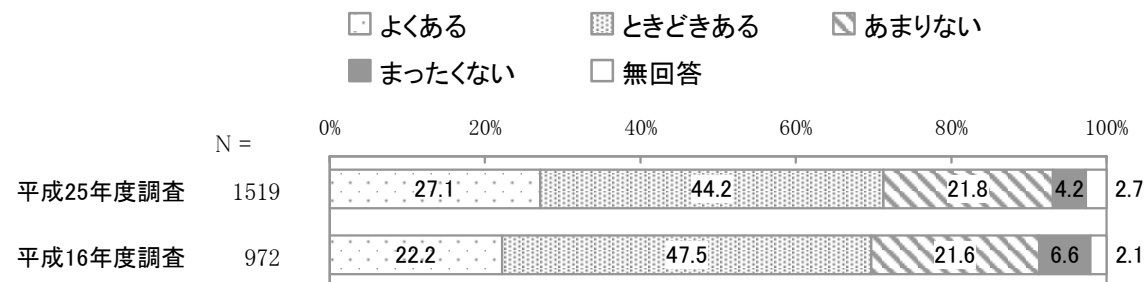


② ストレスの状況

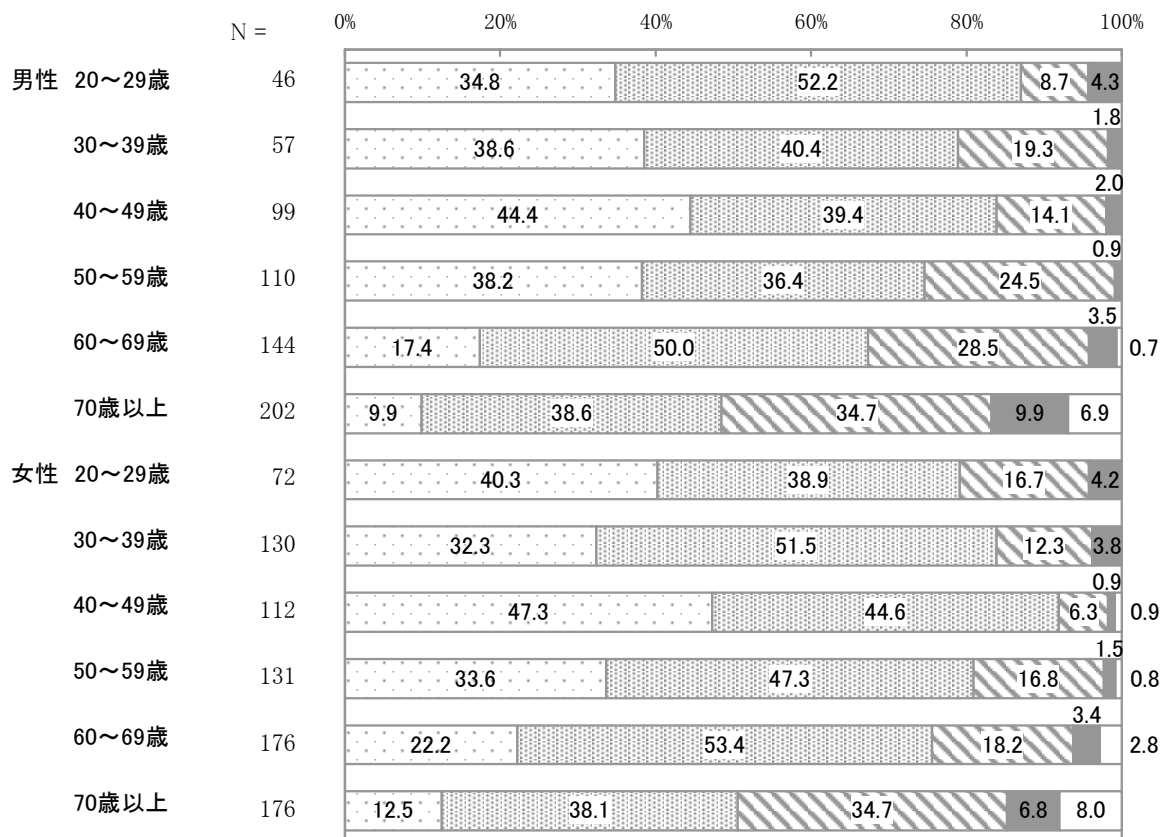
【成人】

- ・日常生活でストレスを感じる人の割合は71.3%となっています。男女ともに20～50歳代でその割合が高く、7割を超えています。

<ストレスの有無>

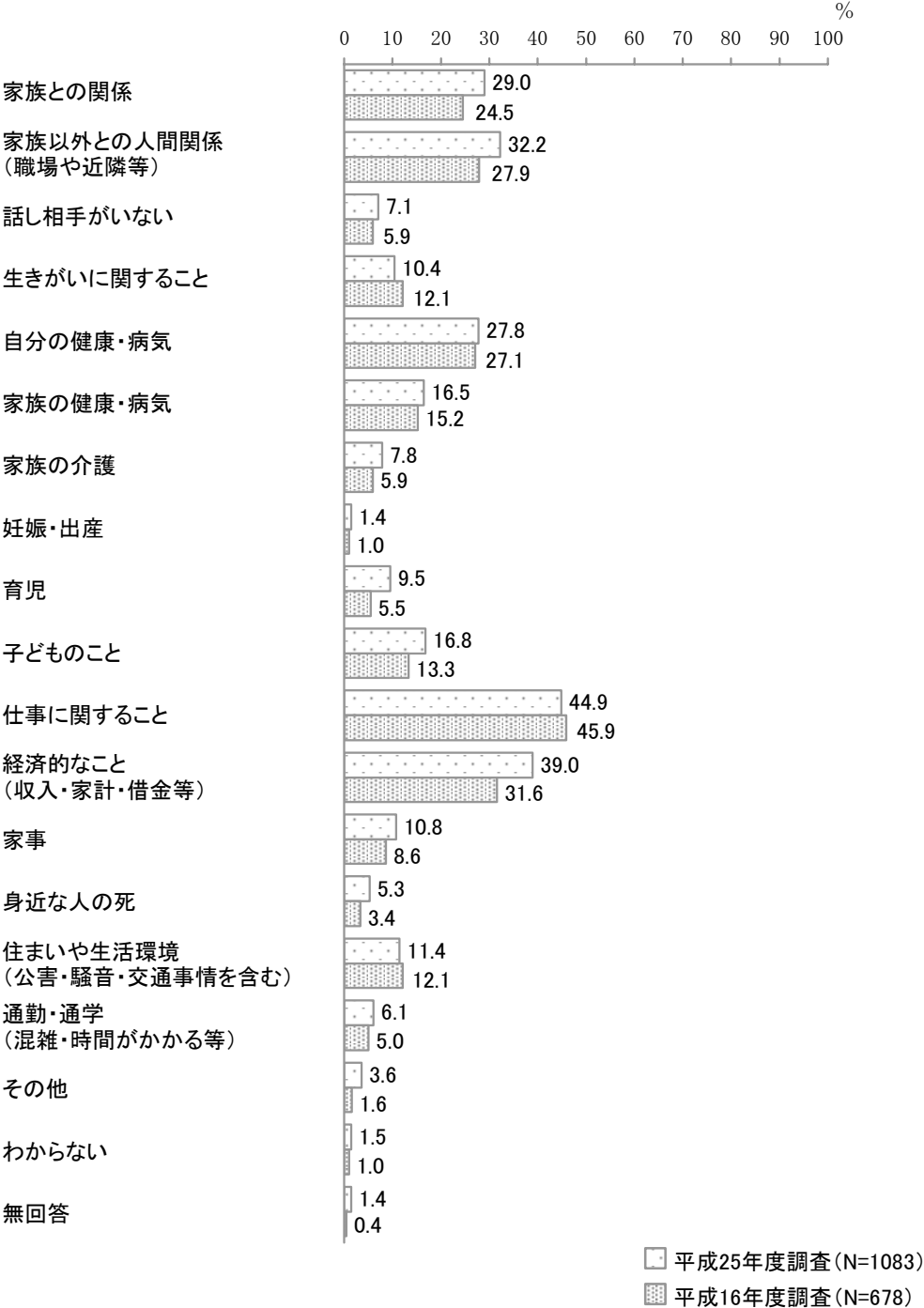


[性・年代別]



・ストレスの内容は、「仕事に関すること」、「経済的なこと（収入・家計・借金等）」の割合が約4割となっています。女性の30歳代では、「育児」の割合が高く、45.9%となっています。また、70歳以上では男女ともに、「自分の健康・病気」の割合が高くなっています。

<ストレスを感じる人のストレスの内容>



[性・年代別]

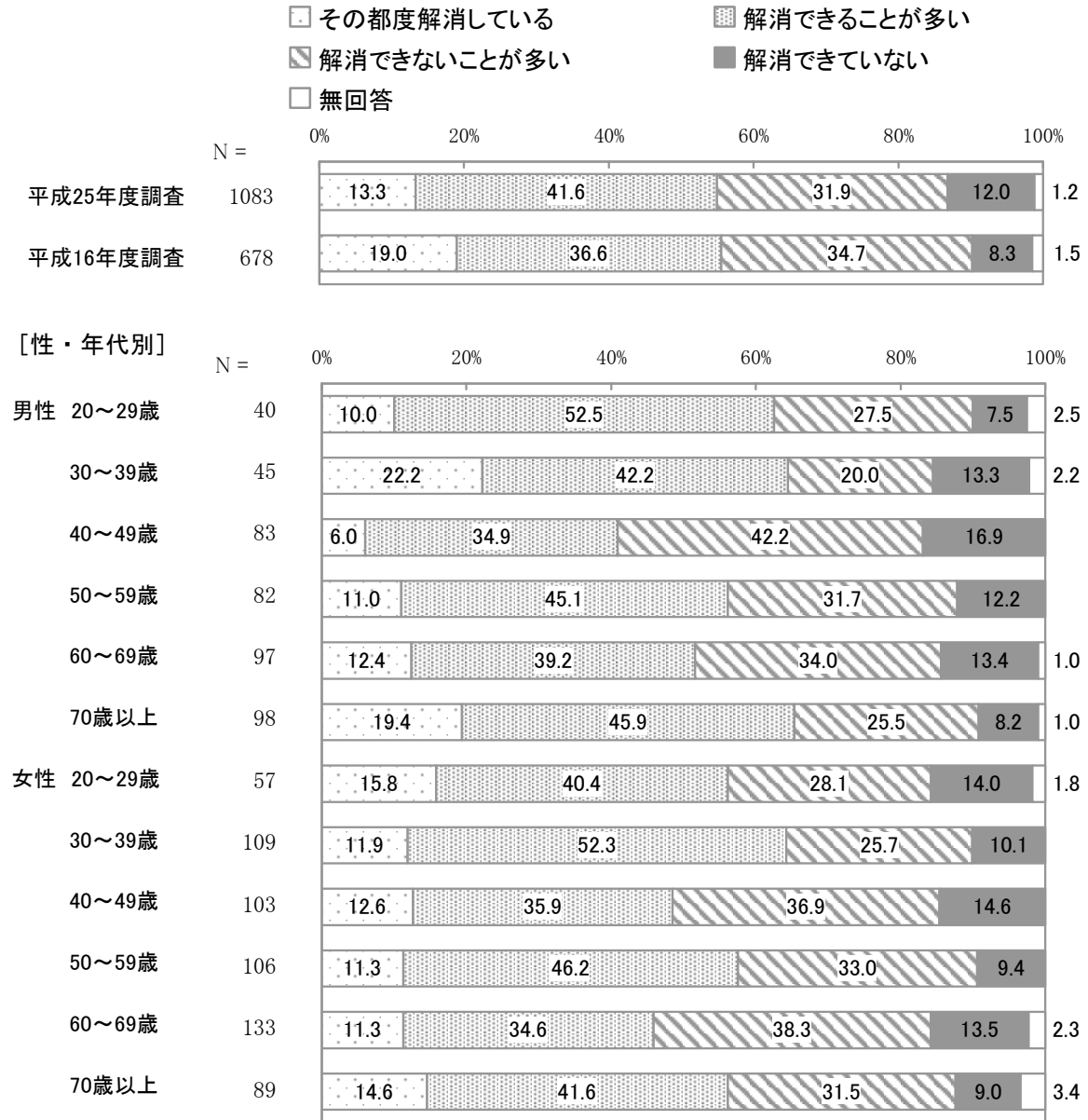
単位：%

区分	有効回答数(件)	家族との関係	家族以外との人間関係 (職場や近隣等)	話し相手がない	生きがいに関する事	自分の健康・病気	家族の健康・病気	家族の介護	妊娠・出産	育児
男性 20～29 歳	40	7.5	37.5	5.0	7.5	2.5	5.0	2.5	0.0	5.0
30～39 歳	45	17.8	37.8	2.2	8.9	15.6	4.4	0.0	0.0	8.9
40～49 歳	83	27.7	49.4	8.4	10.8	21.7	14.5	7.2	0.0	6.0
50～59 歳	82	35.4	39.0	7.3	9.8	25.6	17.1	14.6	0.0	0.0
60～69 歳	97	17.5	17.5	6.2	15.5	30.9	15.5	10.3	0.0	1.0
70 歳以上	98	27.6	11.2	16.3	12.2	50.0	20.4	7.1	0.0	0.0
女性 20～29 歳	57	35.1	40.4	10.5	8.8	17.5	8.8	0.0	12.3	40.4
30～39 歳	109	33.0	30.3	5.5	9.2	20.2	14.7	2.8	6.4	45.9
40～49 歳	103	34.0	46.6	5.8	13.6	27.2	19.4	10.7	1.0	13.6
50～59 歳	106	32.1	42.5	3.8	4.7	22.6	19.8	14.2	0.0	2.8
60～69 歳	133	27.1	32.3	4.5	10.5	35.3	22.6	10.5	0.0	0.0
70 歳以上	89	36.0	18.0	7.9	9.0	39.3	19.1	3.4	0.0	0.0

区分	子どものこと	仕事に関する事	経済的なこと (収入・家計・借金等)	家事	身近な人の死	住まいや生活環境 (公害・騒音・ 交通事情を含む)	通勤・通学(混雑・ 時間がかかる等)	その他	わからない	無回答
男性 20～29 歳	5.0	67.5	37.5	0.0	0.0	2.5	12.5	2.5	7.5	0.0
30～39 歳	4.4	91.1	51.1	0.0	2.2	4.4	13.3	4.4	2.2	0.0
40～49 歳	13.3	77.1	44.6	7.2	4.8	15.7	20.5	6.0	1.2	0.0
50～59 歳	15.9	75.6	47.6	4.9	6.1	7.3	6.1	3.7	0.0	1.2
60～69 歳	14.4	45.4	42.3	4.1	7.2	13.4	5.2	1.0	3.1	1.0
70 歳以上	12.2	9.2	15.3	6.1	4.1	9.2	0.0	5.1	3.1	4.1
女性 20～29 歳	33.3	45.6	49.1	28.1	1.8	10.5	8.8	1.8	0.0	0.0
30～39 歳	33.0	43.1	42.2	24.8	3.7	17.4	3.7	5.5	0.9	0.0
40～49 歳	26.2	46.6	48.5	22.3	7.8	15.5	11.7	3.9	1.9	0.0
50～59 歳	17.0	57.5	37.7	13.2	3.8	10.4	4.7	0.9	0.0	0.9
60～69 歳	12.8	24.1	39.1	8.3	9.0	12.8	1.5	5.3	0.0	1.5
70 歳以上	9.0	6.7	23.6	3.4	6.7	9.0	0.0	1.1	0.0	5.6

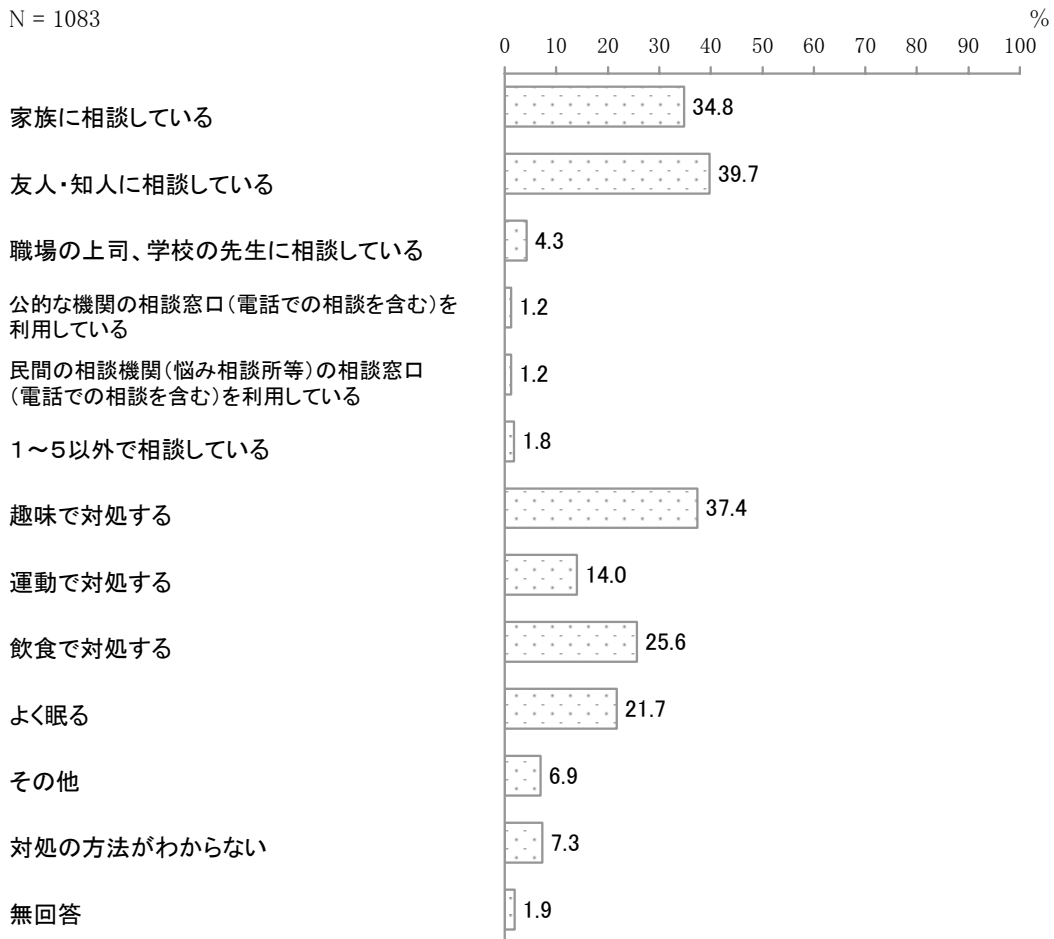
・ストレスを解消できている人の割合は54.9%、男女ともに40歳代、女性では60歳代で解消できている人の割合が低く、5割未満となっています。

<ストレスを感じる人のストレス解消の有無>



- ・ストレスへの対処法は、「家族に相談している」「友人・知人に相談している」「趣味で対処する」の割合が高く、3割を超えています。

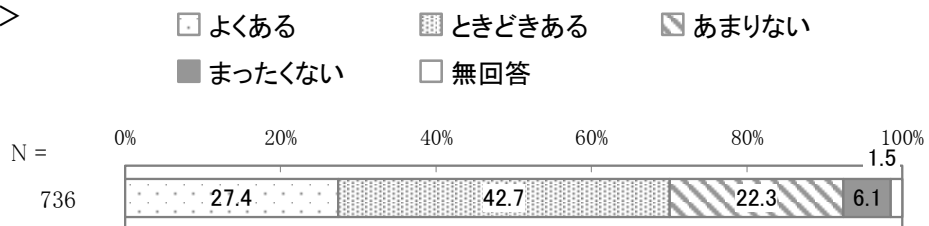
<ストレスを感じる人のストレスへの対処法>



【中学生】

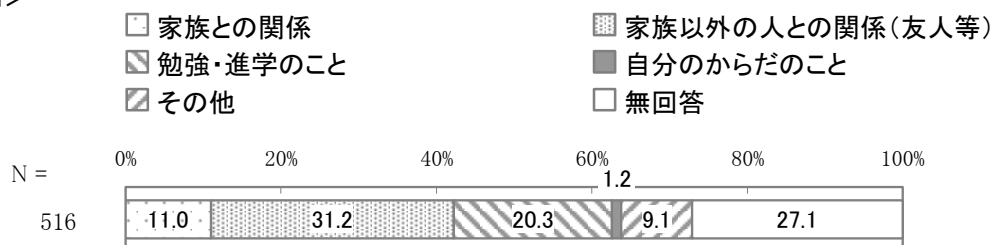
- ・日常生活でストレスを感じる人の割合は70.1%となっています。

<ストレスの有無>

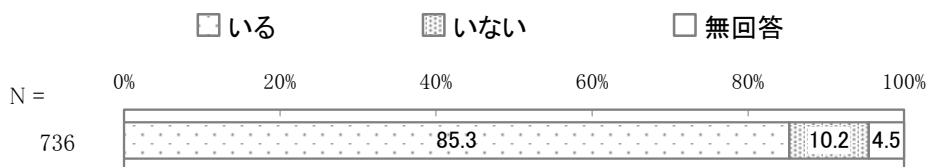


- ・ストレスの内容は、「家族以外の人との関係（友人等）」の割合が最も高く、31.2%となっています。
- ・悩みの相談相手がいる人の割合は85.3%、いない人の割合は10.2%となっています。

<ストレスの原因>



<悩みがあるとき、相談にのってくれる人の有無>

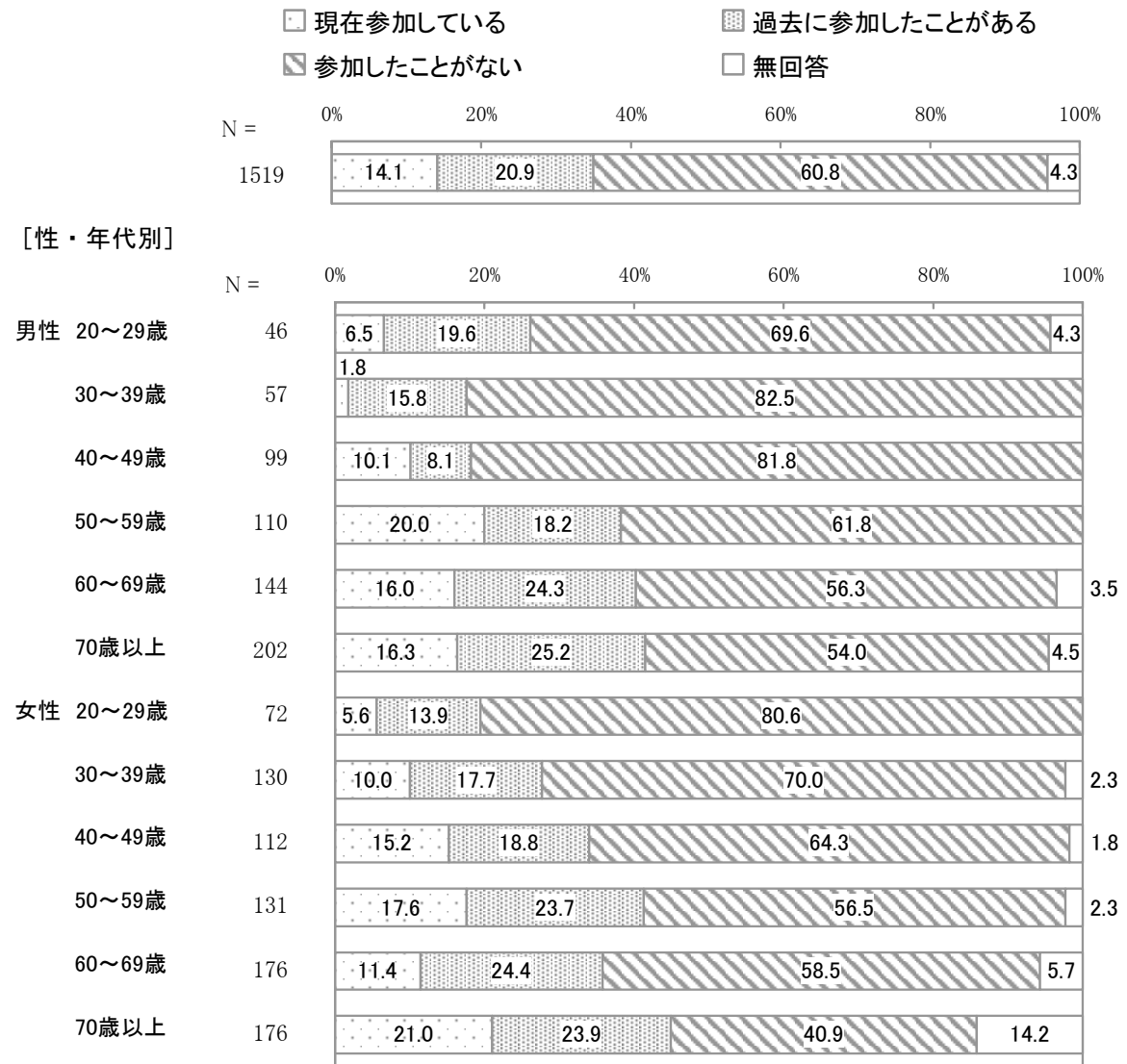


③ 地域活動への参加状況

【成人】

- ・地域活動に現在参加している人の割合は14.1%、男性の20、30歳代、女性の20歳代では参加率が低く、1割未満となっています。

<地域活動への参加度>

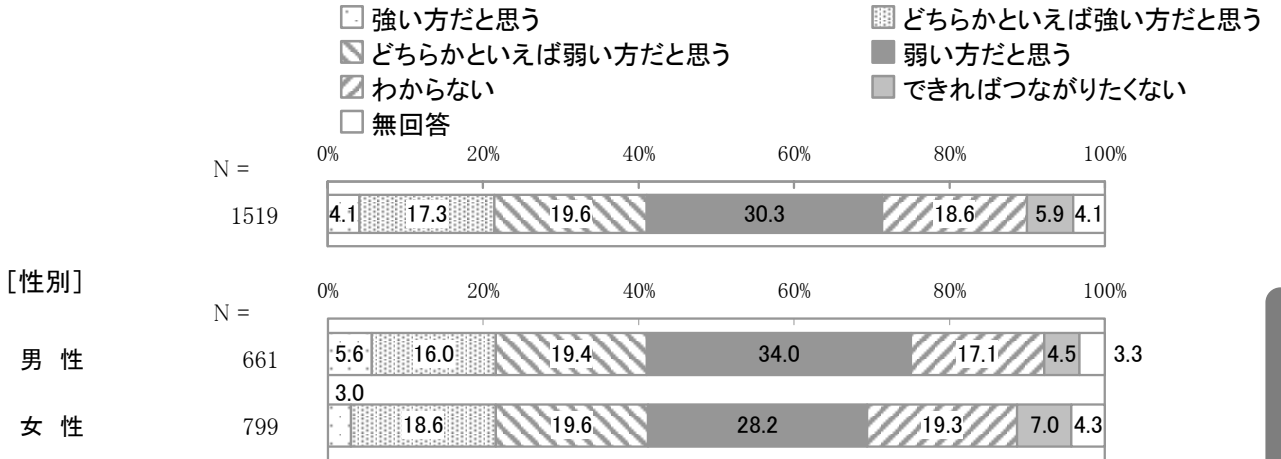


④ 地域のつながり

【成人】

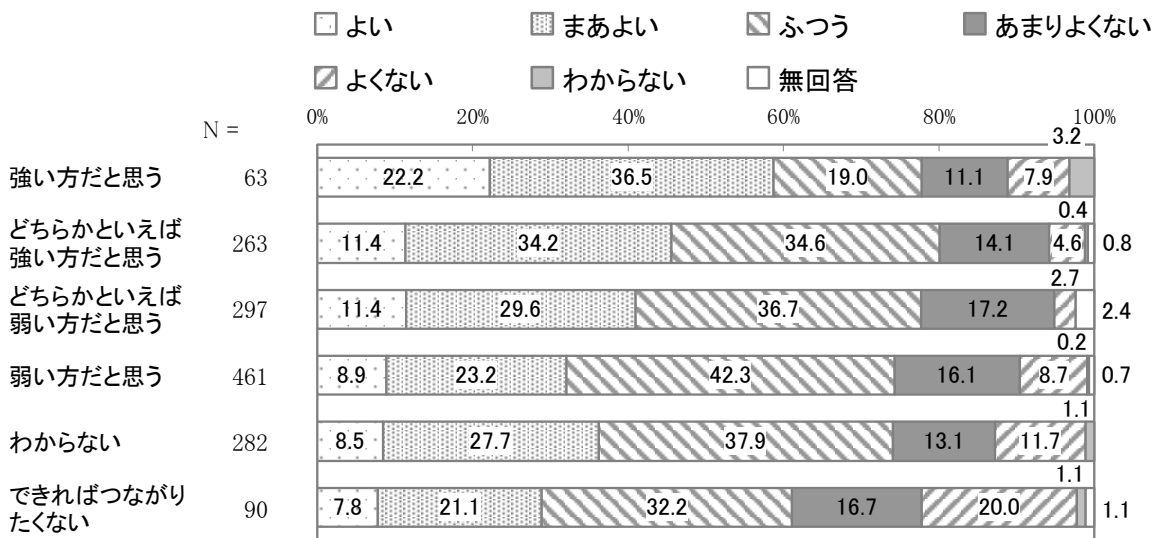
- ・地域のつながりが強いと感じている人の割合は21.4%となっています。
- ・地域のつながりが強いと思う人ほど、健康状態がよいと答えている人が多くなっています。

<地域のつながりについて>



<健康状態>

[地域のつながり度合い別健康状態]

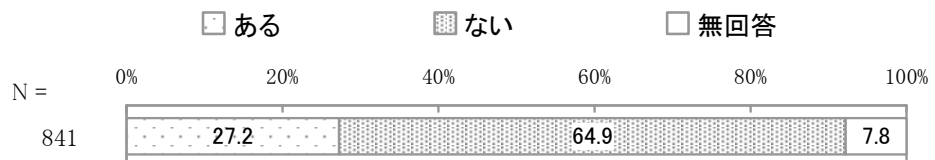


⑤ 職場でのメンタルヘルス

【成人】

- ・就労している人の職場でメンタルヘルスに関する制度がある人の割合は27.2%となっています。

<就労している人の職場におけるメンタルヘルスに関する制度（相談や研修等）の有無>



4) 歯の健康

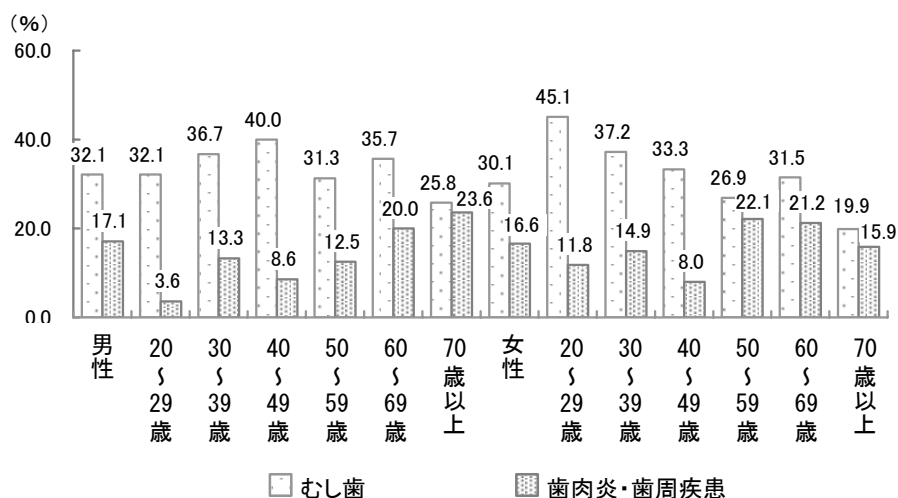
(1) 歯科受診の状況

① 1年間の医療機関の受診状況（歯科）

【成人】

- ・ 1年間の医療機関の受診状況では「むし歯」の割合が最も高く31.0%、「歯肉炎・歯周疾患」の割合は16.7%となっています。（P. 82 健康管理「受診した傷病」参照）また、「むし歯」の受診は、男性の40歳代、女性の20歳代が高く、4割を超えています。

< 歯科受診状況 >



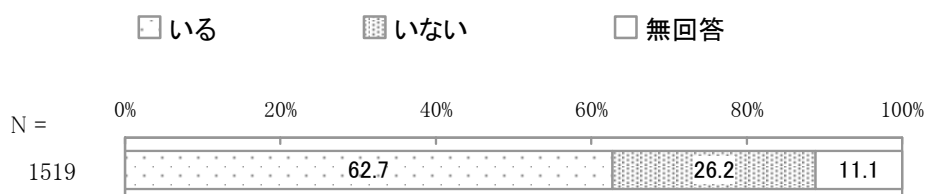
② かかりつけ歯科医の有無

【成人】

- ・ かかりつけ歯科医のある人の割合は62.7%となっています。

指標関連項目

< かかりつけ歯科医の有無 >



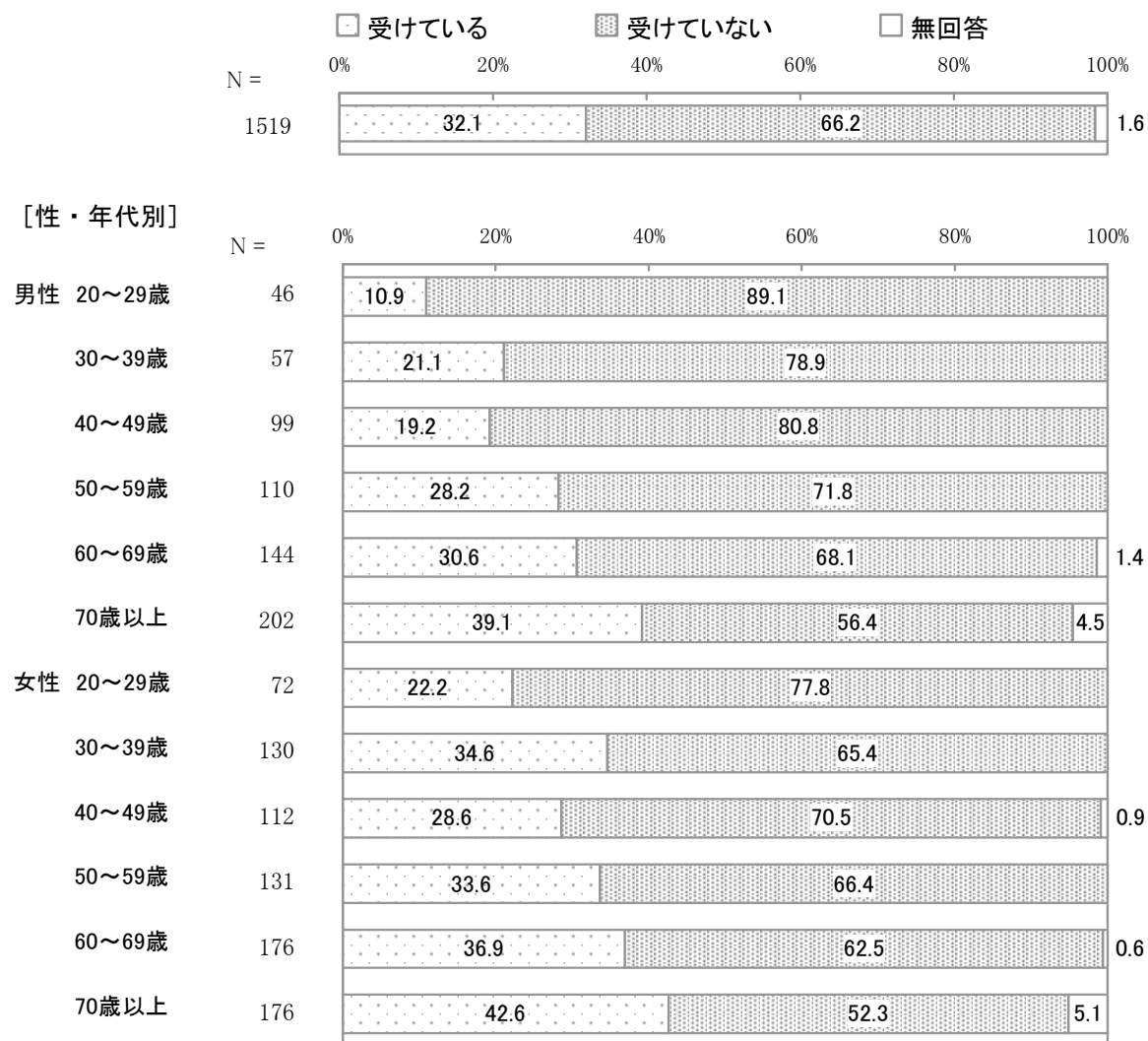
③ 歯科健康診査の受診状況

【成人】

- ・定期的に歯科健康診査を受診している人の割合は32.1%、男女ともに20歳代で受診している人の割合が低く、男性は10.9%、女性は22.2%となっています。

指標関連項目

<定期的な歯科健康診査の受診状況>



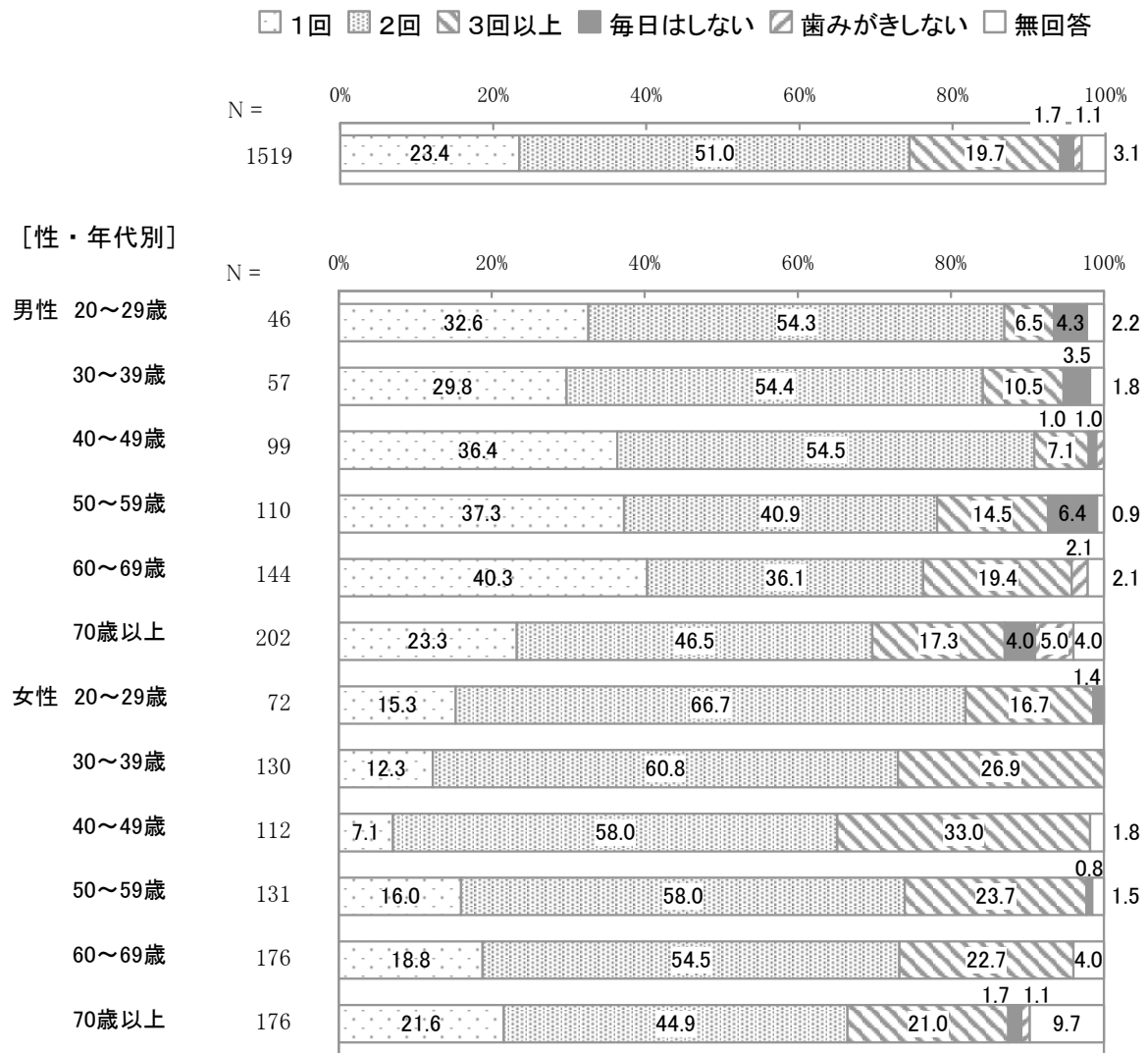
(2) 歯みがき習慣の状況

① 1日の歯みがき回数

【成人】

- ・ 1日の歯みがき回数が3回以上の人の割合は19.7%となっています。男性は、20歳代、40歳代で3回以上の人の割合が低く、1割未満、女性は20歳代で3回以上の人の割合が低く、16.7%となっています。

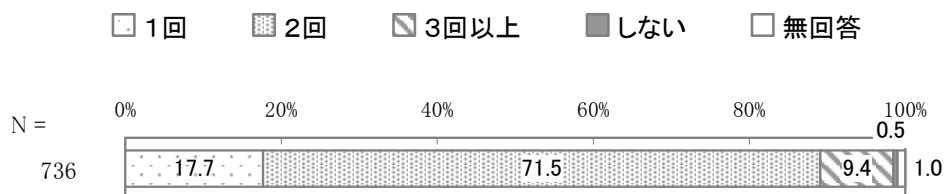
<1日の歯みがき回数>



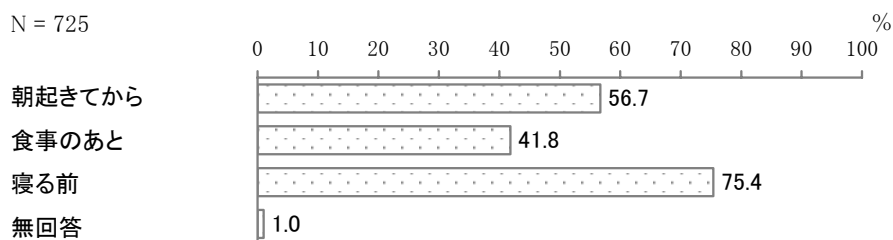
【中学生】

- 1日の歯みがき回数が3回以上の人の割合は9.4%となっています。
- 歯みがきを「朝起きてから」する人の割合は56.7%、「食事のあと」にする人の割合は41.8%「寝る前」にする人の割合は75.4%となっています。

<1日の歯みがき回数>



<歯みがきの実施>

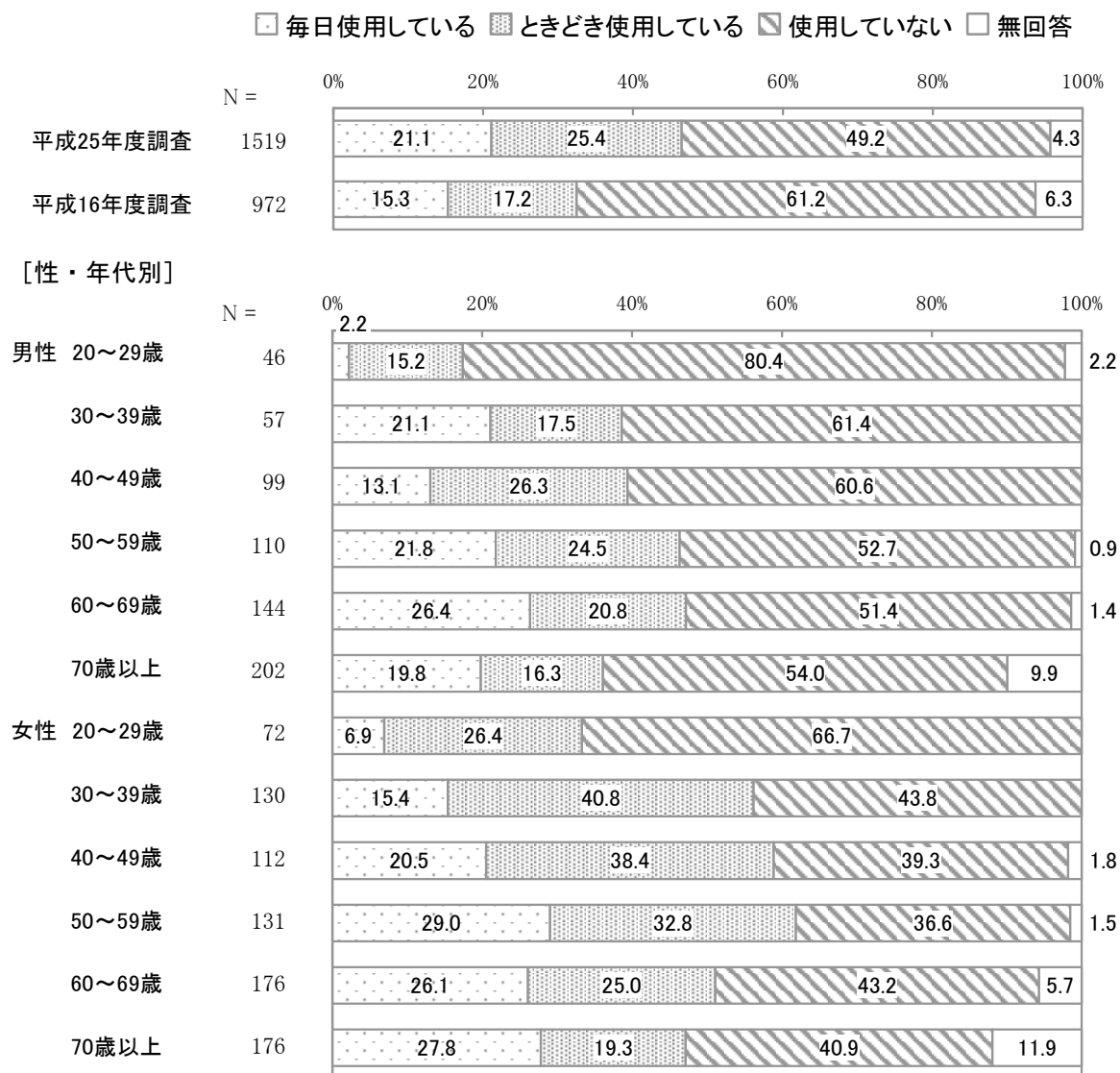


② 歯間部清掃用具の使用状況

【成人】

- ・歯間部清掃用具を使用している人の割合は46.5%となっています。

<歯間部清掃用具の使用状況>

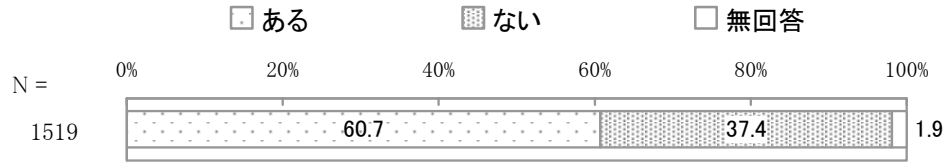


③ 歯みがき指導の経験の有無

【成人】

・歯みがき指導を受けたことがある人の割合は60.7%となっています。

<歯みがき指導を受けたことの有無>

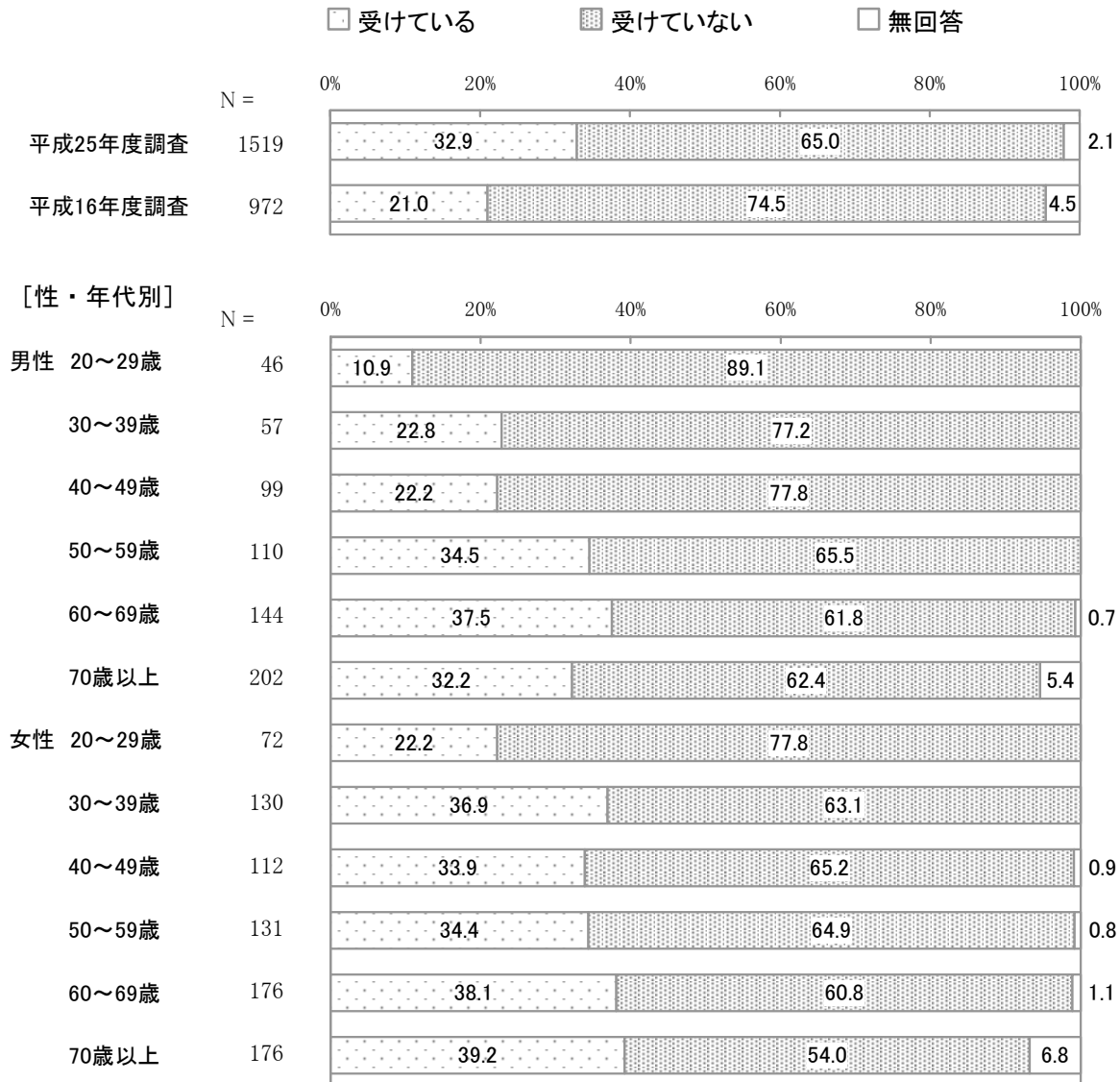


④ 定期的な歯石除去や歯面清掃

【成人】

・定期的に歯石除去や歯面清掃を受けている人の割合は32.9%、男女ともに20歳代で受けている人の割合が低く、男性は10.9%、女性は22.2%となっています。

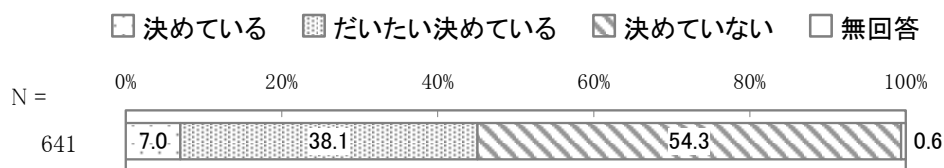
<定期的に歯石除去や歯面清掃を受けている状況>



⑤ おやつ時間

【中学生】

・おやつ時間を決めていない人の割合は54.3%となっています。



(3) 歯の喪失状況

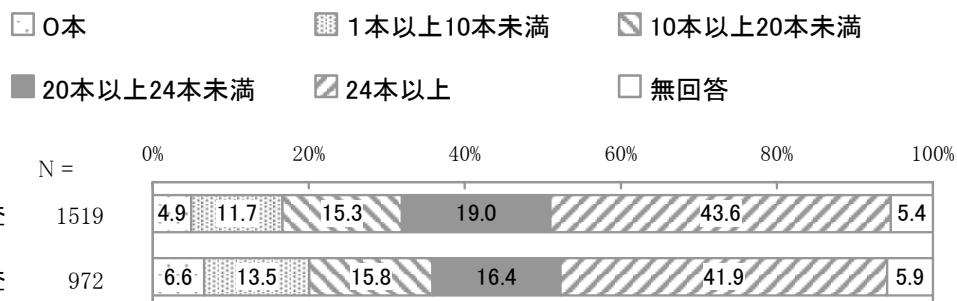
① 歯の本数

【成人】

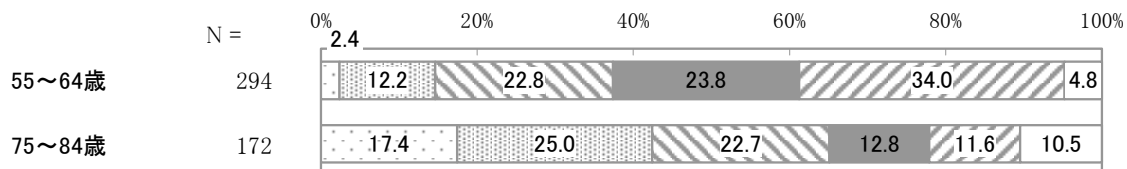
・残歯20本以上の割合は、62.6%となっています。80歳以上（75歳から84歳）は、24.4%と目標を達成しています。（なお策定時、75～84歳で20本以上歯を有している人の割合より80歳で20本以上歯を有している人の割合を推定しているため、同様の算出にて推定しています。）同じく60歳で20本以上歯を有している人の割合は34.0%と推定されます。

指標関連項目

<歯の本数>



[年代別]



5) たばこ

(1) 喫煙状況

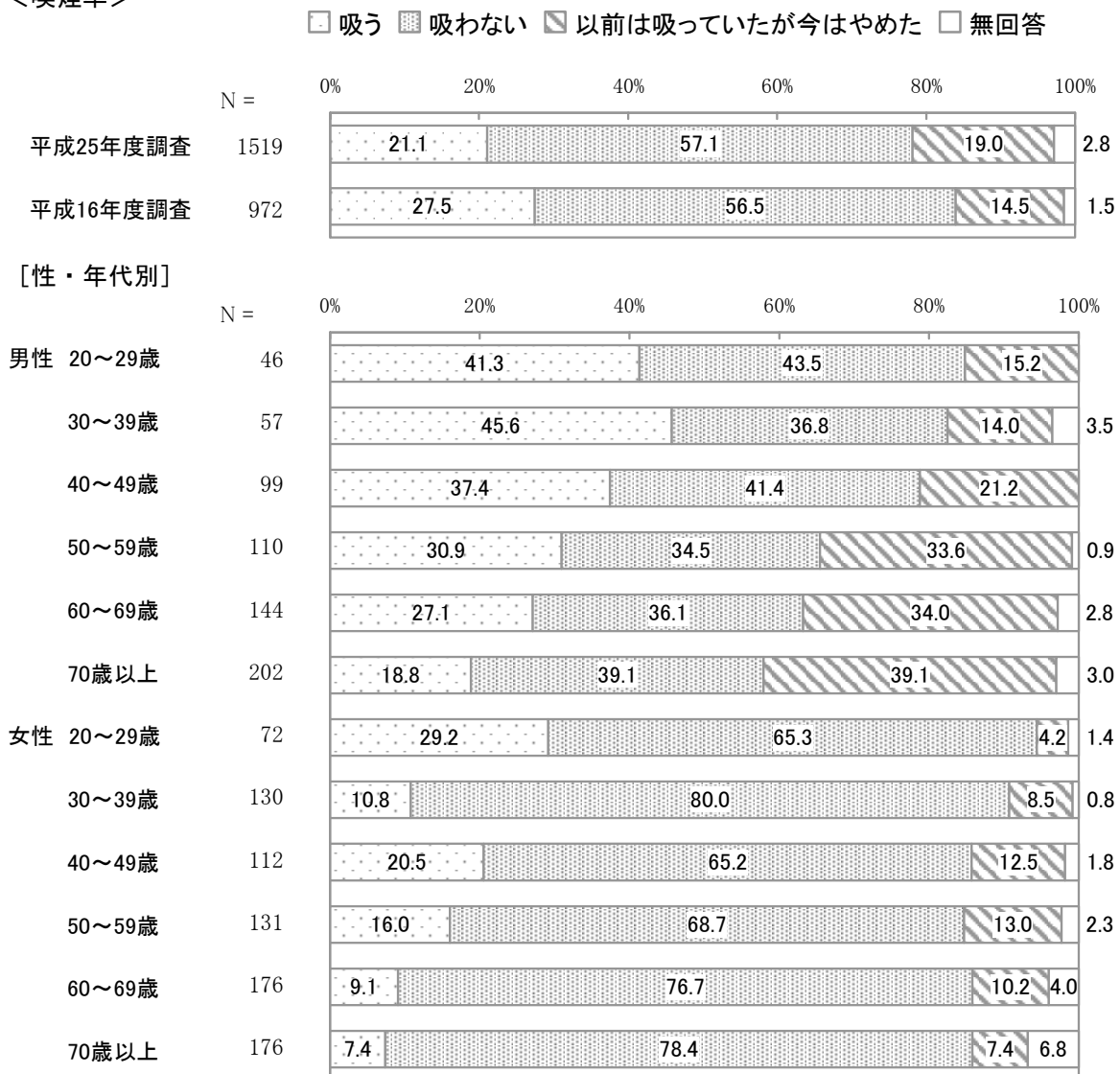
① 喫煙率と喫煙者の状況

【成人】

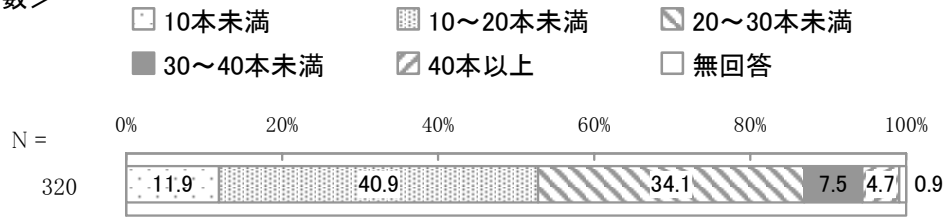
- 全体の喫煙率は21.1%、男性では20～40歳代の喫煙率が高く、約4割程度となっています。また、女性では20歳代の喫煙率が高く、29.2%となっています。
- 喫煙者が1日に吸う本数は「10～20本未満」の割合が最も高く、40.9%となっています。
- 喫煙者の喫煙歴は「20年以上」の割合が最も高く、69.1%となっています。
- 喫煙者の禁煙希望は56.3%、このうち83.3%は禁煙について「考えており、方法もわかるが、実行できない」としています。

指標関連項目

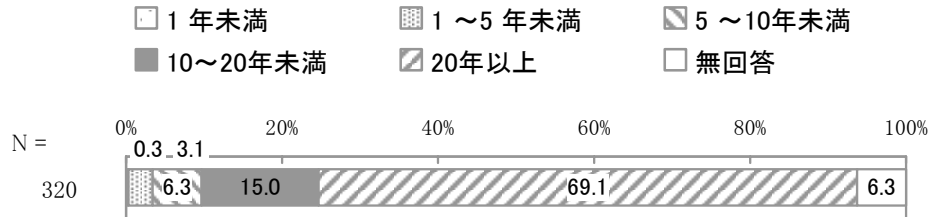
<喫煙率>



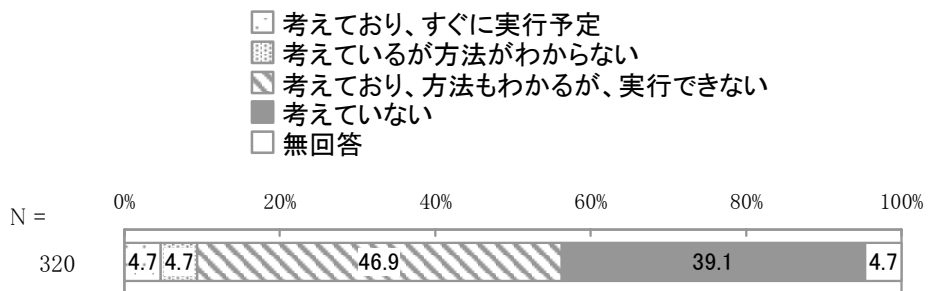
<喫煙者の喫煙本数>



<喫煙者の喫煙年数>



<喫煙者の禁煙希望>



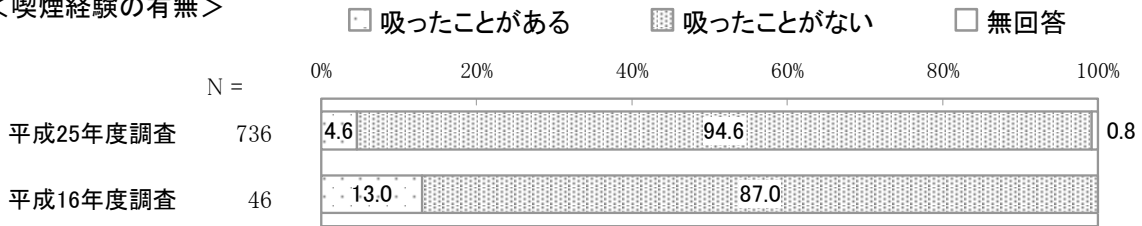
② 未成年者の喫煙

【中学生】

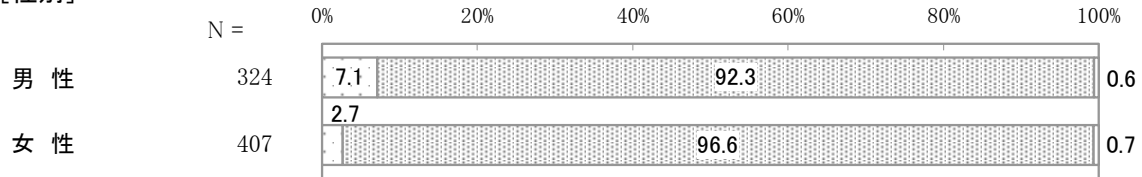
- ・喫煙経験は4.6%となっています。また、喫煙経験のある人のうち、初めて吸ったのは「中学校1年生頃」の割合が最も高く、32.4%となっています。
- ・家族に喫煙習慣がある人の割合は45.7%となっています。
- ・20歳になるまでにたばこを吸うことについては、「体に悪いのでよくない」の割合が最も高く、84.8%となっています。

指標関連項目

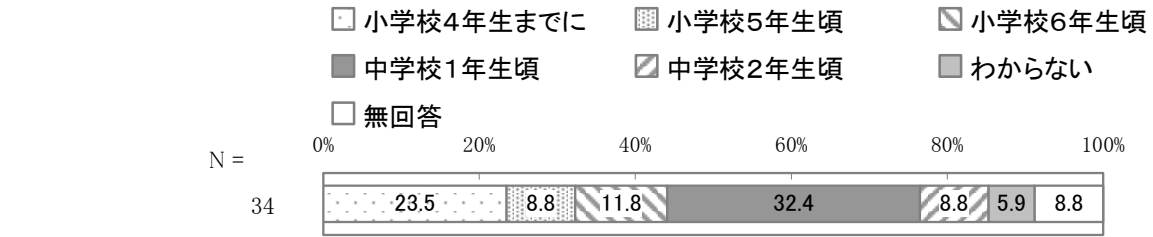
<喫煙経験の有無>



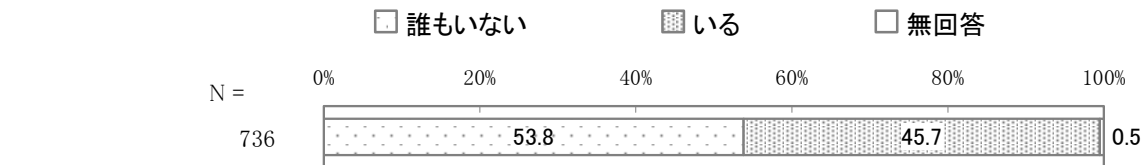
[性別]



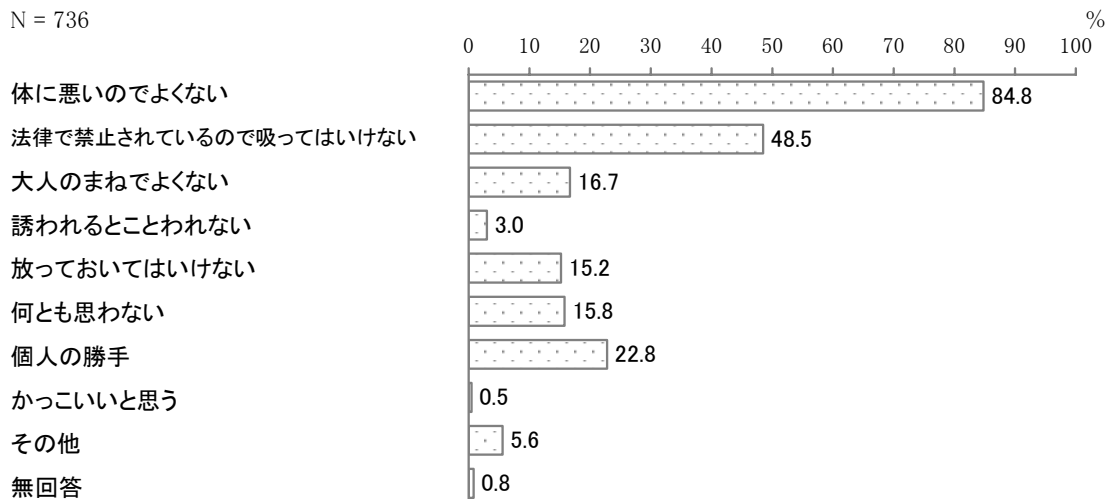
<初めて喫煙した年齢>



<家族に喫煙習慣がある人の有無>



<20歳になるまでにたばこを吸うことについて>

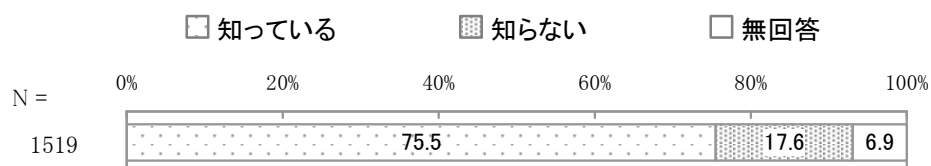


③ 禁煙支援

【成人】

・禁煙のための飲み薬や貼り薬があることの認知度は75.5%となっています。

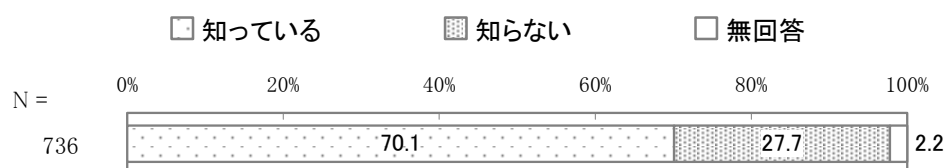
<たばこをやめるための飲み薬や貼り薬があることの認知度>



【中学生】

・禁煙のための飲み薬や貼り薬があることの認知度は70.1%となっています。

<たばこをやめるための飲み薬や貼り薬があることの認知度>



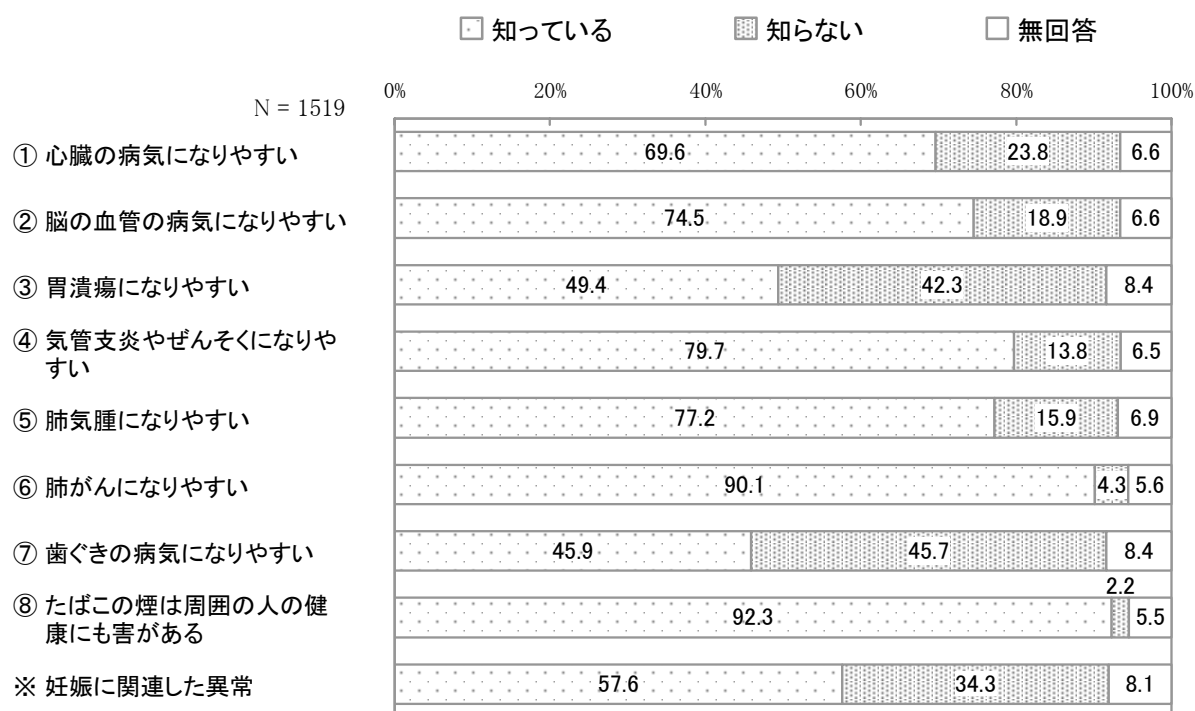
(2) たばこの健康への影響

① たばこの健康への影響についての認知度

【成人】

・喫煙が健康に及ぼす影響については、心臓病、脳卒中、気管支炎やぜんそく、肺気腫、肺がんになりやすいということ、および周囲の人への健康被害について知っている人の割合は高く、6割以上となっています。しかし、胃潰瘍、歯周病、妊娠に関連した異常について知っている人の割合は低く、6割未満となっています。

<たばこの健康への影響についての認知度>

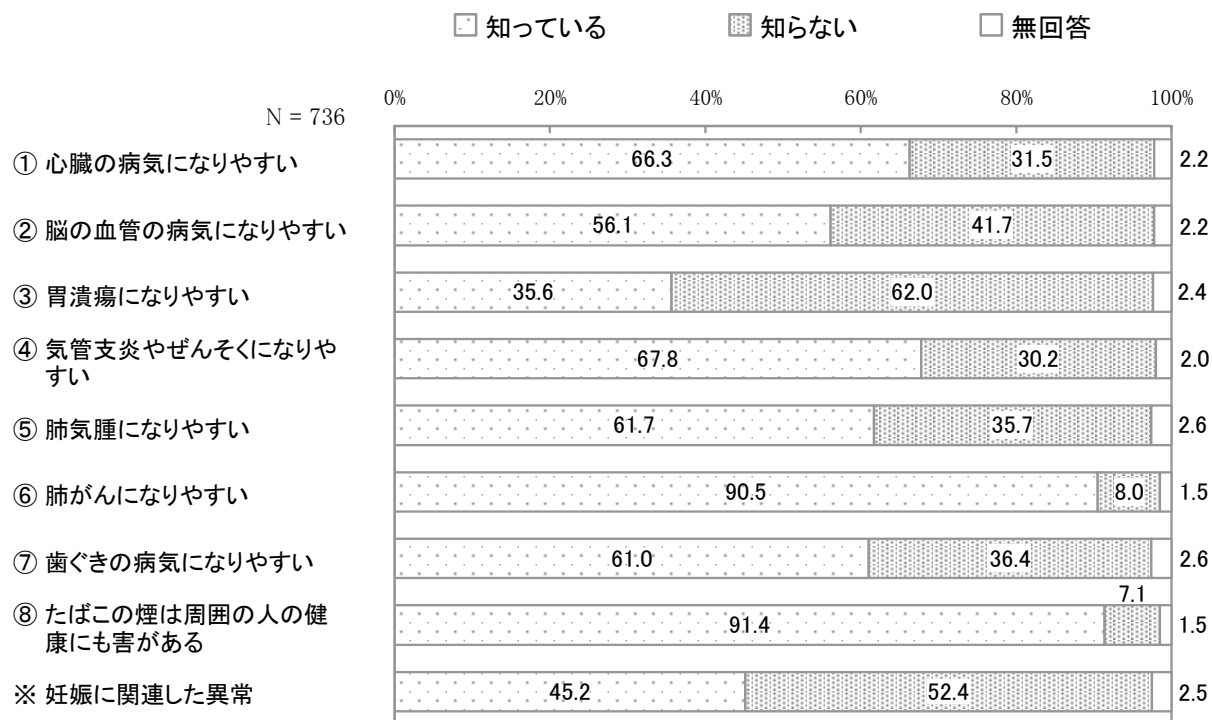


※妊娠に関連した異常は、「⑨妊娠中にたばこを吸うと、赤ちゃんが予定よりはやく生まれやすい」と「⑩妊娠中にたばこを吸うと、体重の小さい赤ちゃんが生まれやすい」の平均となっています。

【中学生】

・喫煙が健康に及ぼす影響については、心臓病、気管支炎やぜんそく、肺気腫、肺がん、歯周病になりやすいということ、および周囲の人への健康被害について知っている人の割合は高く、6割以上となっています。しかし、脳卒中、胃潰瘍、妊娠に関連した異常について知っている人の割合は低く、6割未満となっています。

<たばこの健康への影響についての認知度>



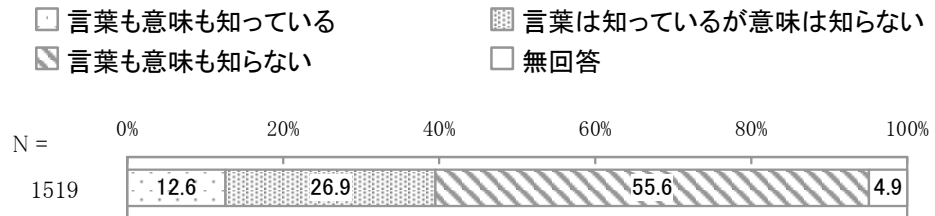
※妊娠に関連した異常は、「⑨妊娠中にたばこを吸うと、赤ちゃんが予定よりはやく生まれやすい」と「⑩妊娠中にたばこを吸うと、体重の小さい赤ちゃんが生まれやすい」の平均となっています。

② COPD（慢性閉塞性肺疾患）の認知度

【成人】

・COPD（慢性閉塞性肺疾患）の認知度については、「言葉も意味も知っている」「言葉は知っているが意味は知らない」の割合を合わせて39.5%となっています。

<COPD（慢性閉塞性肺疾患）の認知度>



(3) 職場での禁煙

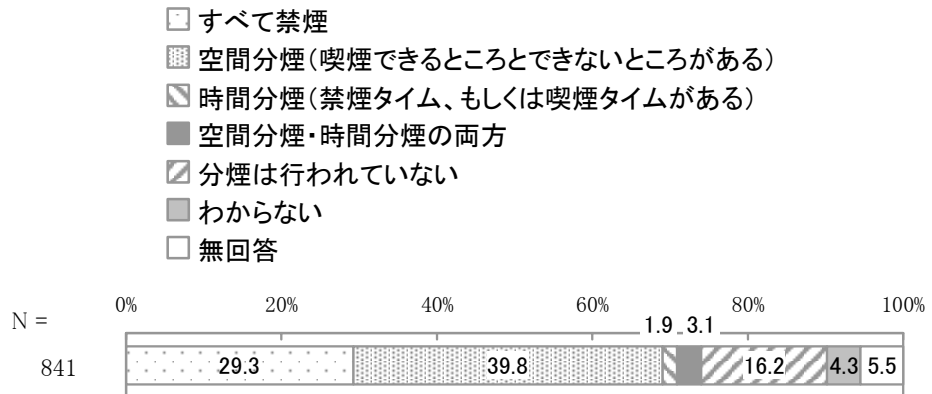
① 職場の禁煙実施状況

【成人】

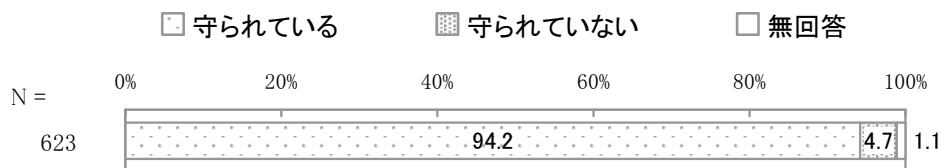
・働いている人で、職場がすべて禁煙の割合は29.3%、職場に禁煙規則のある場合に、禁煙が守られている割合は94.2%となっています。

指標関連項目

<働いている人の職場の禁煙実施状況>



<働いている人の職場に禁煙規則のある場合の禁煙が守られている状況>



6) アルコール

(1) 飲酒状況

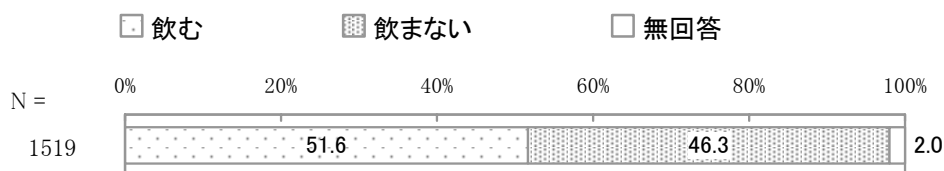
① 飲酒習慣

【成人】

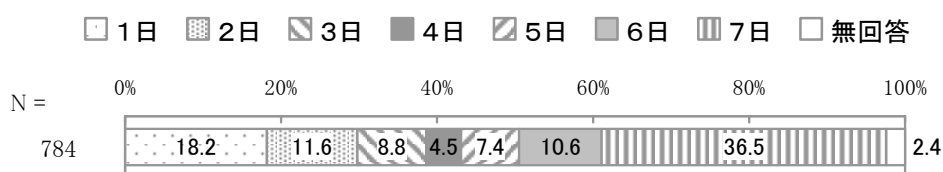
- ・飲酒習慣のある人の割合は51.6%となっています。このうち毎日飲酒する人の割合は36.5%、飲酒者の1日平均摂取量で3合以上飲む人は6.7%、毎日3合以上飲酒する多量飲酒者は全体の2.4%となっています。
- ・生活習慣病のリスクを高める量を飲酒する人の割合は14.3%となっています。

指標関連項目

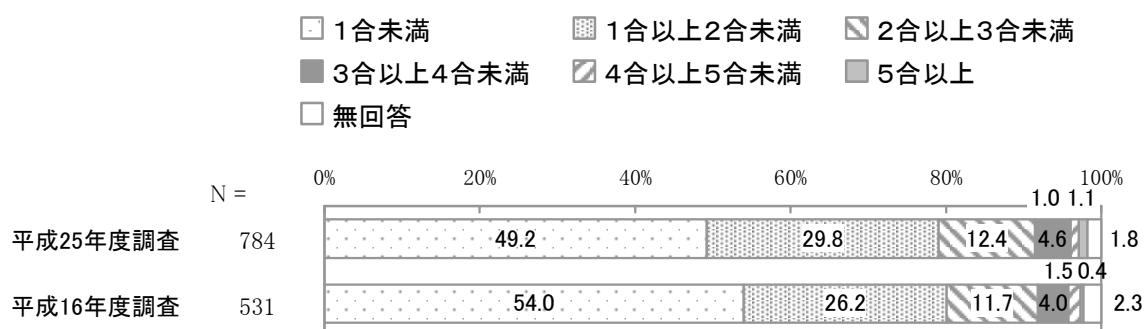
<飲酒習慣>



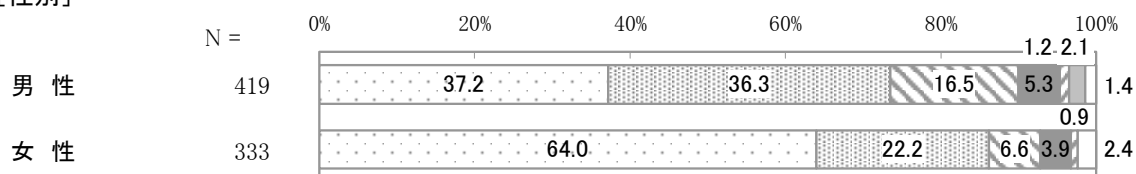
<飲酒者の1週間の飲酒日数>



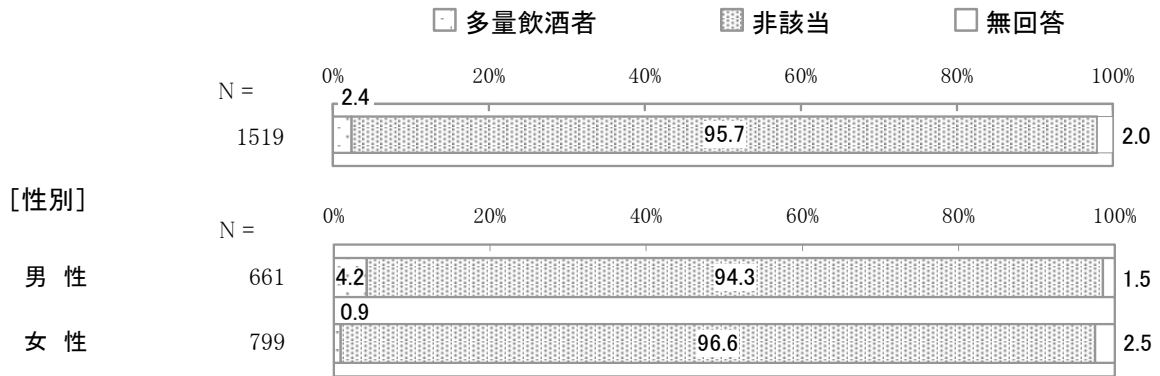
<飲酒者の1日の平均アルコール摂取量>



[性別]

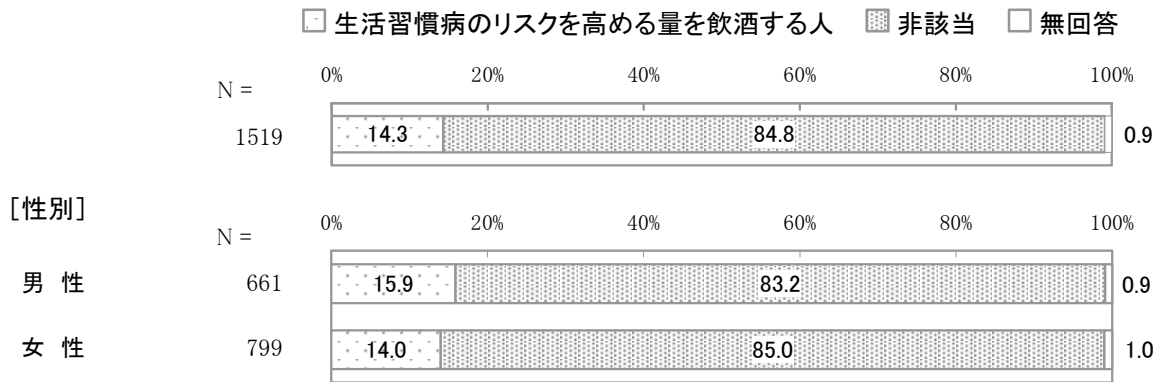


<多量飲酒者（毎日3合以上飲酒する者）>



<生活習慣病のリスクを高める量を飲酒する人>

※男性（1日平均2合以上）、女性（1日平均1合以上）



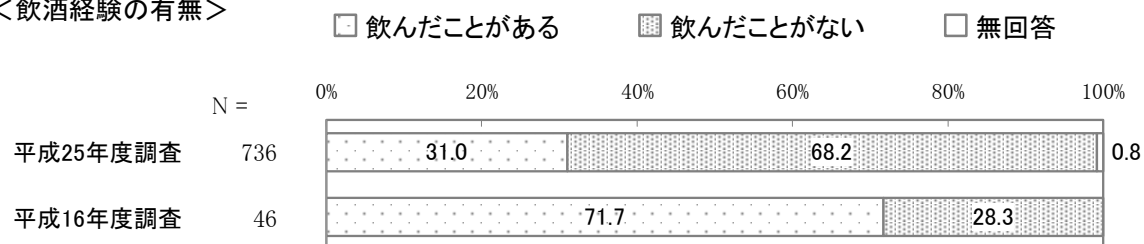
② 飲酒経験

【中学生】

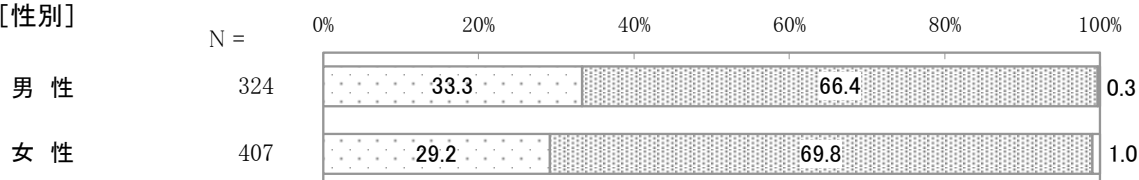
- ・ 飲酒経験は31.0%となっています。飲酒経験のある人のうち、初めて飲んだのは「小学校4年生までに」の割合が最も高く、23.2%となっています。
- ・ 20歳になるまでにアルコール類を飲むことについては、「体に悪いのでよくない」の割合が最も高く、51.4%となっています。

指標関連項目

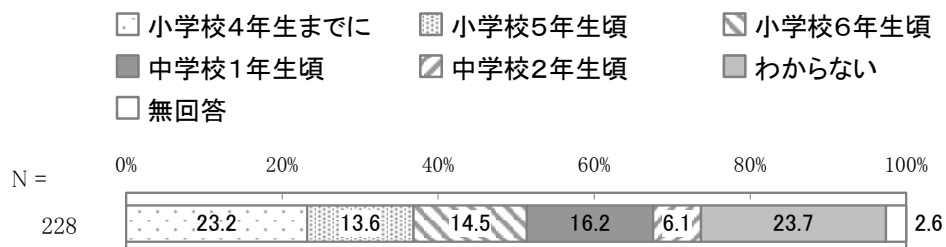
< 飲酒経験の有無 >



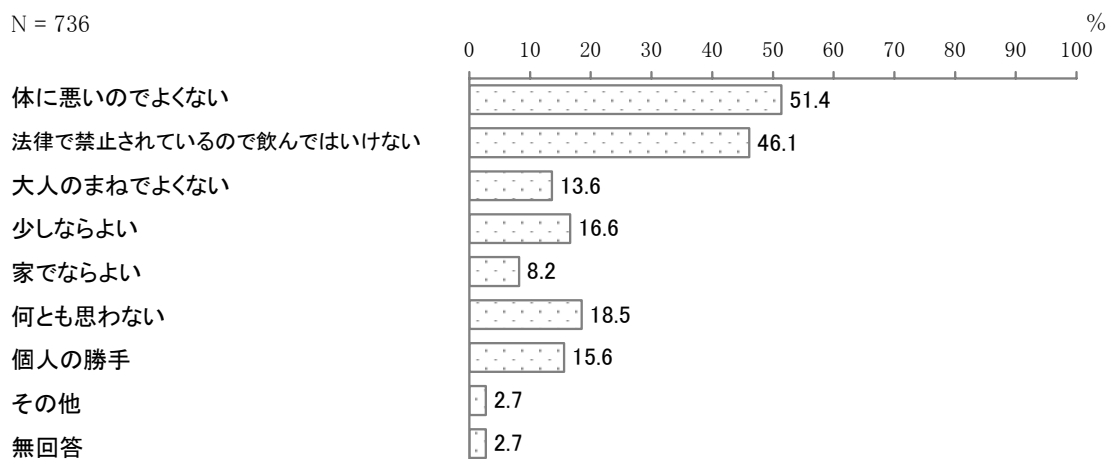
[性別]



< 初めて飲酒した年齢 >



< 20歳になるまでにアルコール類を飲むことについて >



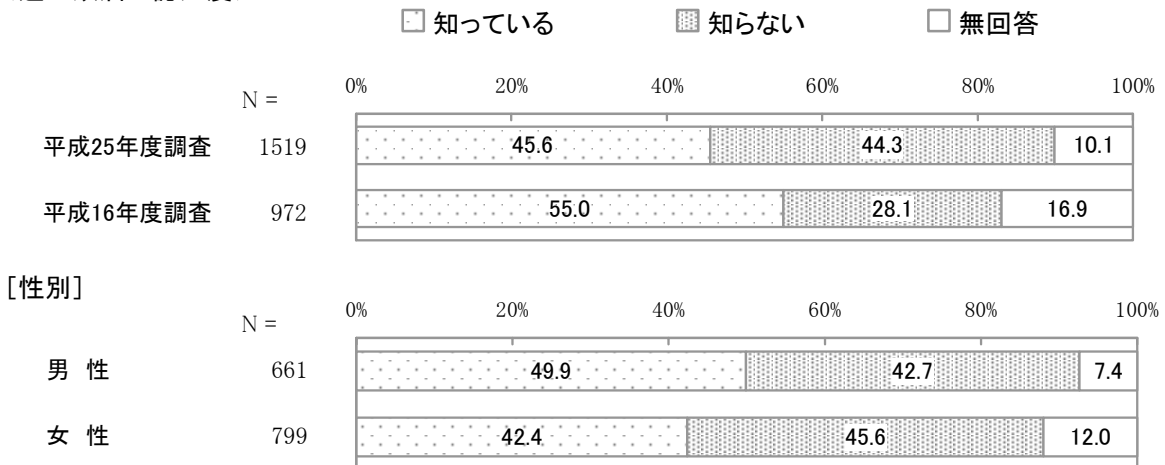
③ 適正飲酒の認知度

【成人】

- ・ 1日の適切な飲酒量は、日本酒1合程度であるということを知っている人の割合は、45.6%となっています。

指標関連項目

<適正飲酒の認知度>



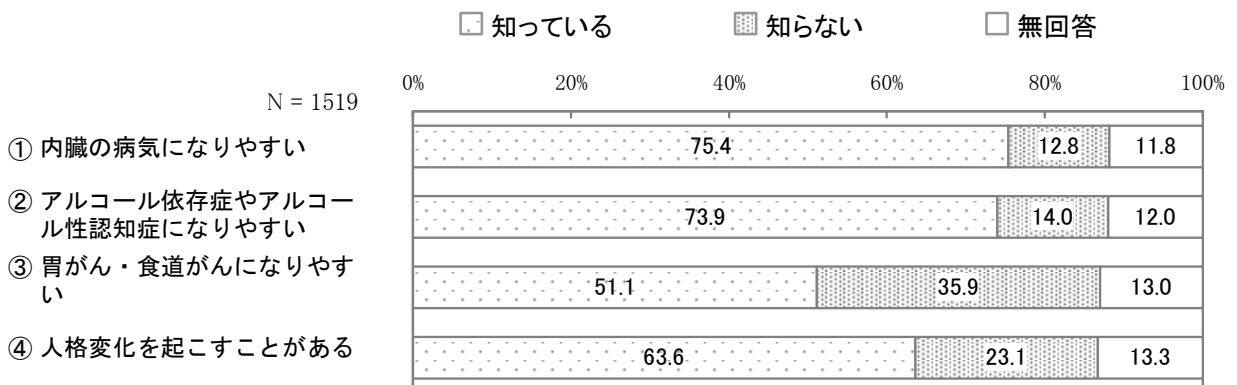
(2) 多量飲酒の健康への影響についての認知度

① 多量（毎日3合以上）のアルコール摂取が健康に及ぼす影響についての認知度

【成人】

- ・ 「内臓の病気になりやすい」「アルコール依存症やアルコール性認知症になりやすい」「人格変化を起こすことがある」の認知度が高く6割以上、「胃がん・食道がんになりやすい」の認知度は51.1%となっています。

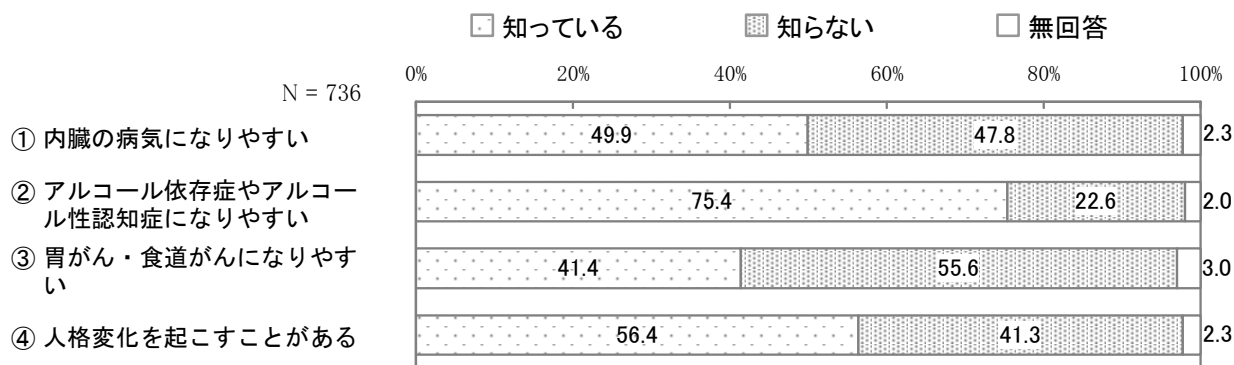
<多量飲酒の健康への影響についての認知度>



【中学生】

・「アルコール依存症やアルコール性認知症になりやすい」の認知度が高く75.4%、「内臓の病気になりやすい」「人格変化を起こすことがある」「胃がん・食道がんになりやすい」の認知度は5割程度となっています。

<多量飲酒の健康への影響についての認知度>



7) 健康管理

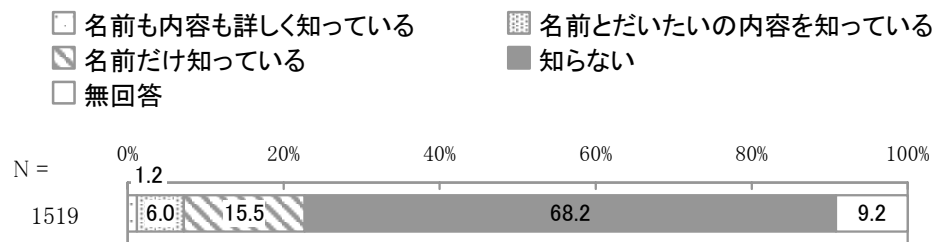
(1) 健康まつばら21の認知状況

① 健康まつばら21の認知度

【成人】

- 健康まつばら21を知っている人の割合は22.7%となっています。

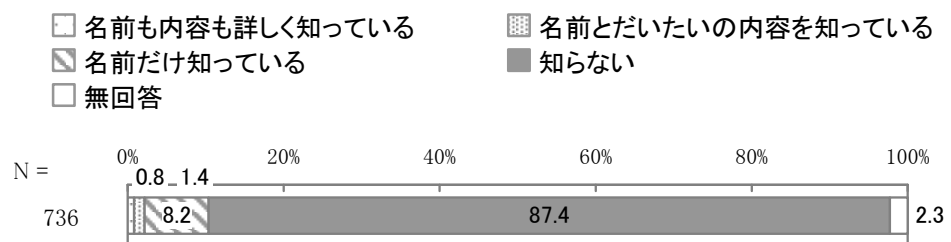
<健康まつばら21の認知度>



【中学生】

- 健康まつばら21を知っている人の割合は10.4%となっています。

<健康まつばら21の認知度>



(2) 自分の健康について

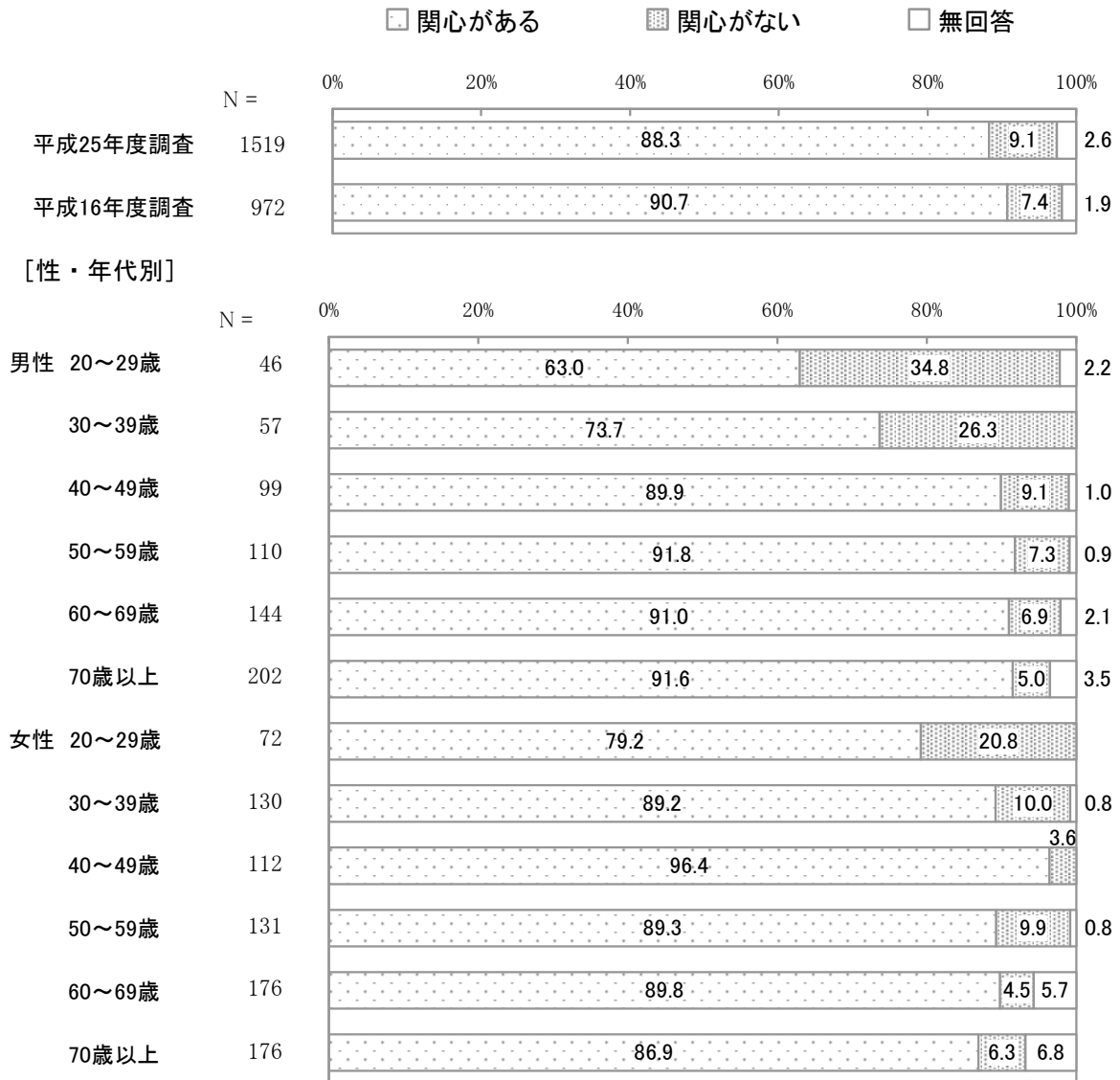
① 自分の健康観

【成人】

- 自分の健康について関心がある人の割合は88.3%と高くなっています。また、20歳代の男性・女性、30歳代の男性で関心がない人の割合が2割を超えて高くなっています。
- 自分の健康状態については、「よい」と「まあよい」を合わせた割合は37.6%、女性において年代があがるにつれて低くなっており、保険未加入者では特に低く20.0%となっています。

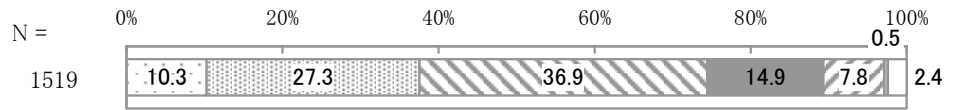
指標関連項目

<自分の健康に対する関心の有無>

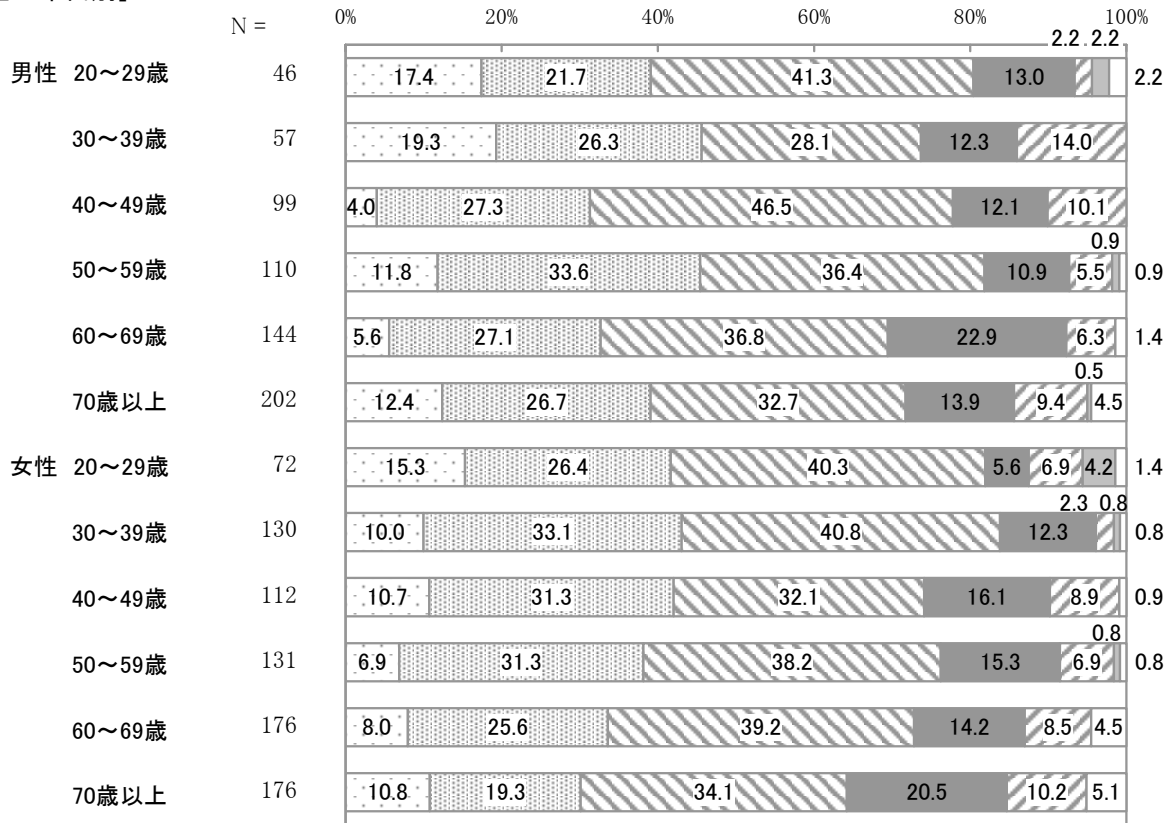


<自分の健康状態>

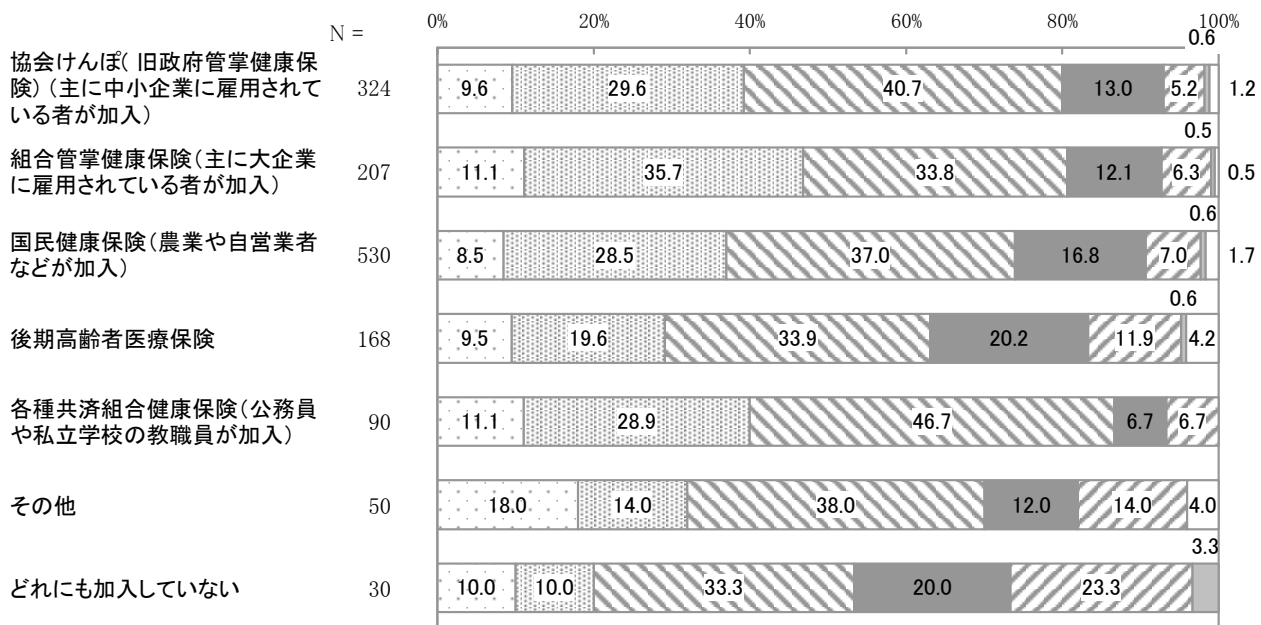
よい
 まあよい
 ふつう
 あまりよくない
 よくない
 わからない
 無回答



[性・年代別]



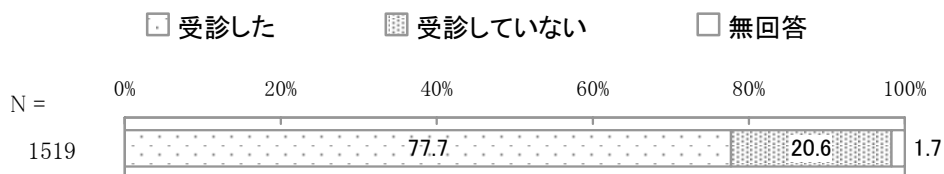
[加入保険者別]



② 医療受診の状況

- ・1年間で、疾病により病院や診療所等を受診した割合は77.7%で、その多くは、複数の受診項目にまたがっています。受診が多い傷病は、むし歯、歯肉炎・歯周疾患、高血圧症、腰痛症、糖尿病となっています。

<過去1年間の医療受診状況>



<受診した傷病>

単位：%

傷病		平成20年度調査	平成25年度調査
内分泌代謝疾患	糖尿病	8.7	10.3
	肥満症	3.7	2.9
	脂質異常症 (高コレステロール血症等)	8.1	9.7
	甲状腺の病気	1.9	2.5
精神・神経	認知症	1.5	0.8
	うつ病・統合失調症等	2.8	3.0
	神経症	1.8	0.9
自律神経失調症	自律神経失調症	3.4	2.1
	白内障	8.8	9.7
	網膜の病気 (網膜はく離等)	2.3	2.3
耳	中耳炎	2.5	2.1
	難聴	4.9	3.9
循環器系	高血圧症	20.2	24.3
	脳卒中 (脳出血・脳梗塞等)	3.8	3.2
	狭心症・心筋梗塞	3.2	4.2
	その他の循環器系の病気	2.8	2.5
呼吸器系	急性鼻咽頭炎(かぜ)	9.9	10.4
	アレルギー性鼻炎	9.4	9.1
	喘息	3.3	4.0
	その他の呼吸器系の病気	2.3	2.7
消化器系	胃炎・十二指腸炎	5.1	4.6
	胃・十二指腸かいよう	3.8	2.6
	肝炎・肝硬変	2.5	2.5
	胆石症・胆のう炎	1.3	1.5
	その他の消化器系の病気	1.2	4.9
歯	むし歯	30.5	31.0
	歯肉炎・歯周疾患	17.7	16.7
皮膚・皮下組織	アトピー性皮膚炎	3.3	3.6
	接触皮膚炎(かぶれ)	5.4	6.0
	じんま疹	3.4	3.7
脱毛症	脱毛症	0.5	0.9
	痛風	2.4	2.2
	慢性関節リウマチ等	1.5	1.5
筋骨格系	関節症	8.2	10.0
	肩こり症	17.7	16.6
	腰痛症	21.4	22.5
骨粗しょう症	骨粗しょう症	2.8	3.9
	腎臓の病気	2.3	1.7
尿路性器系	前立腺肥大	3.3	4.2
	閉経期または閉経後障害 (更年期障害等)	2.1	1.4
損傷	骨折	3.9	5.3
	骨折以外のけが・やけど	3.9	5.4
その他	貧血・血液の病気	2.8	2.8
	悪性新生物(がん)	2.3	2.3
	妊娠・産褥	2.4	3.3
	その他	6.3	5.9
	不明	0.3	0.0
無回答		1.1	2.8

(3) 健康診査や人間ドック

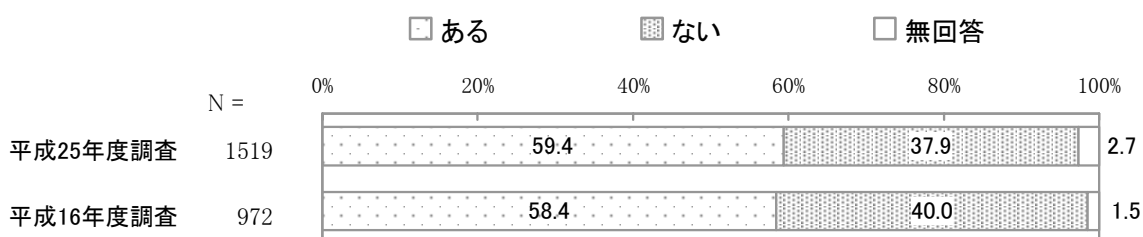
① 健康診査等受診状況

【成人】

- ・過去1年間の健康診査や人間ドックの受診者は59.4%となっています。また、健康診査の内容は、8割が内科健診となっており、胃がん検診等については、約3割程度となっています。
- ・健康診査未受診の理由については、「知らなかった」が0.2%と低くなっていますが、「受けたいと思っているが機会がないから」が最も高く、32.9%となっています。

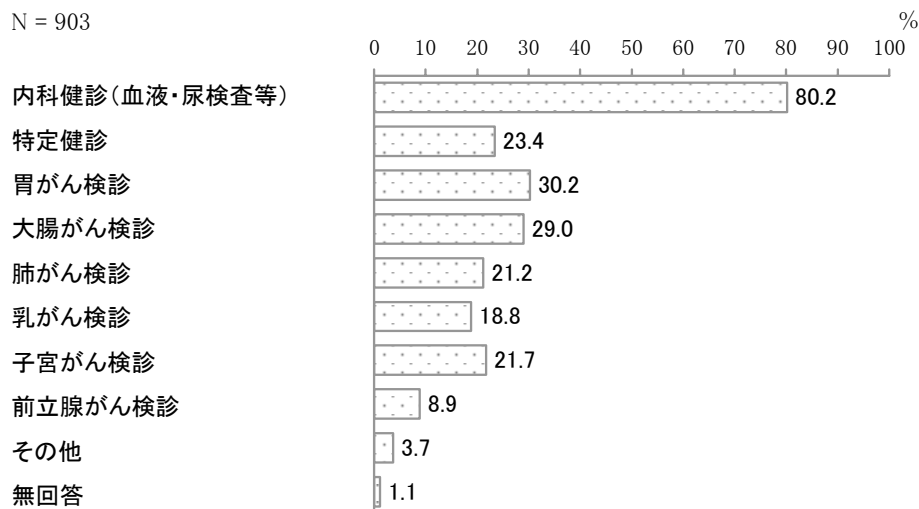
指標関連項目

<過去1年間での健康診査受診の有無>



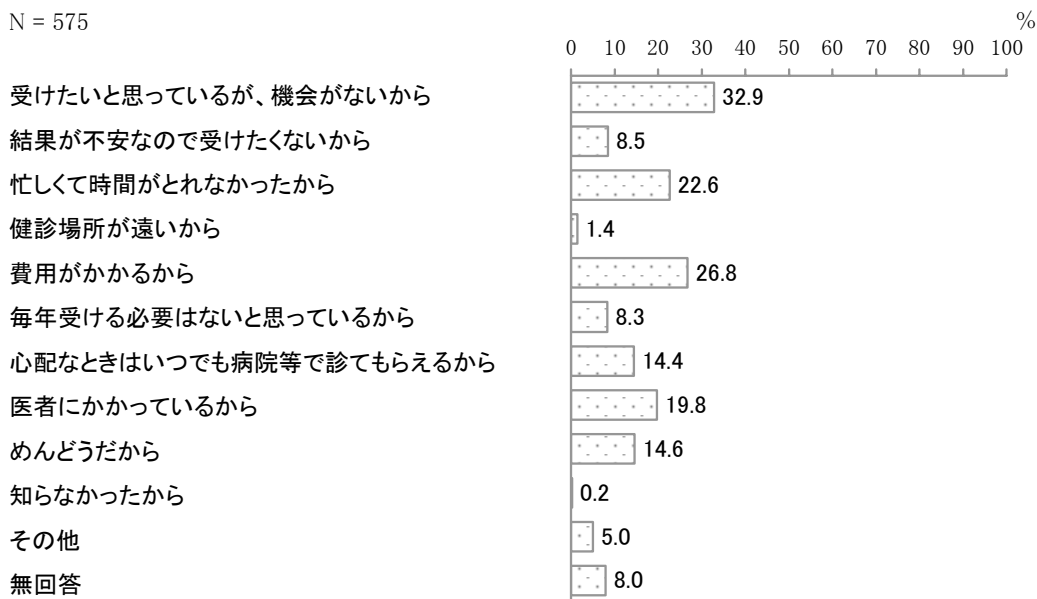
<受診した健康診査の種類>

N = 903



<未受診理由>

N = 575



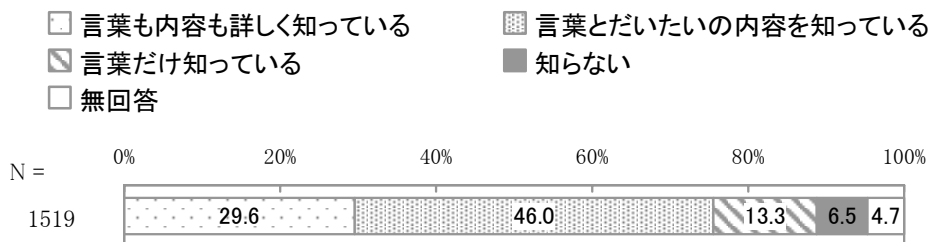
(4) かかりつけ医・歯科医師・薬剤師、情報源

① メタボリックシンドロームの認知度

【成人】

・メタボリックシンドロームの認知度は88.9%、言葉も内容も知っている割合は75.6%となっています。

<メタボリックシンドロームの認知度>



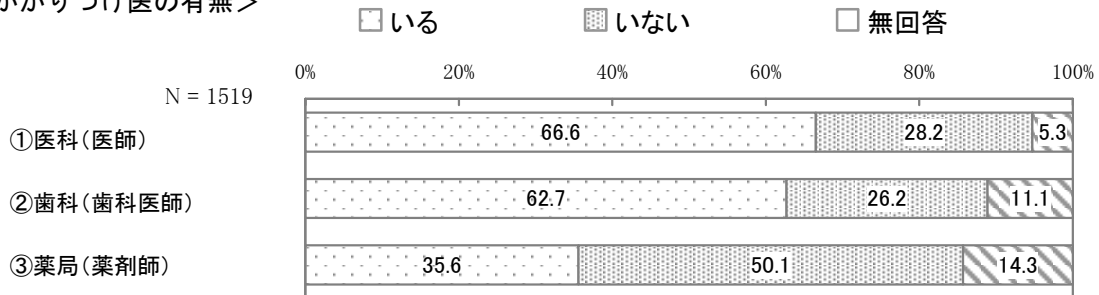
② かかりつけ医師・歯科医師・薬剤師

【成人】

・かかりつけ医師・歯科医師のいる割合は6割強、薬剤師のいる割合は、4割に満たない状況です。

指標関連項目

<かかりつけ医の有無>



③ 健康や病気の知識や情報源

【成人】

・健康や病気等についての知識や情報は、「テレビ・ラジオ、新聞、雑誌」から得ている割合が特に高く70.0%、次いで、「医師・看護師」「友人・知人」等が3割程度、「ホームページ」が22.2%となっています。

<健康や病気の知識や情報源>

